科目名	教養演習	単位数	1	担当教員	西山（にしやま）みちよ・鯛谷（たいたにかずよ）和代・堀内（ほりうちゆき）由紀
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	この授業は、広い意味での「教養」を身につけるためのものであり、授業を通して女性の「身体」と「生命」についての理解を深めること、および社会生活を送るうえでの「常識」を身につけていく。 保育者は子どもに生命の大切さを教え、子どもたちの生活や行動の模範となることが求められる仕事である。そのためには、まず自分自身の身体や生命を大切にし、美しい立ち居振る舞いや言葉遣いで日常生活を送るよう努める必要がある。このことを真剣に受け止めたうえで受講して欲しい。
到達目標	１．若い女性としての自分の身体や生命について理解している。 ２．社会人としてのマナーや礼儀作法を身につけている。

授業計画		
	第１回	授業内容や評価方法等のガイダンス・「教養」とは何かを考える
	第２回	人間の体のつくり
	第３回	女性ライフサイクルと体の変化
	第４回	月経・妊娠について・小テスト
	第５回	出産について
	第６回	性感染症と健康への影響
	第７回	女性の病気について
	第８回	総括：命を守るということ・レポート
	第９回	社会人としてのマナー①：立ち居振る舞いの基本・応対の基本姿勢
	第 10 回	社会人としてのマナー②：職場のルールとマナー
	第 11 回	訪問と応対のマナー、もてなしのマナー
	第 12 回	言葉づかいと人間関係のマナー
	第 13 回	電話・手紙・文書マナー
	第 14 回	食事マナーと日本食への理解
	第 15 回	まとめと小テスト

授業に対する予習・復習		
	予習：事前にテキストを読んでくること。	復習：日常生活で活用してみること。 授業で学んだことは確実に理解し、自分の知識・技術として身につけること。
	予習に要する学習時間：概ね　15 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね　30 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	次回の授業にて、小テストの解答を示し復習・指導する。 演習時に模範解答を示し説明・指導する。 レポートは赤ラインを引いて返却し、添削指導する。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　第２回から第　8 回：小テスト・レポート（５０%）、授業態度（５０%） 第９回から第 15 回：小テスト（５０%）、実技・授業への取り組み（５０%） ※この二つの評価を合計して最終的な評価を行う。
教科書	『新生活教養』（近喰晴子他、建帛社）
参考文献	『保育のマナーと言葉』（長島和代編、わかば社）
注意事項	１．授業は第２週～第８週（担当：西山）はクラスごとに行い、第９週～第１５週（担当：鯛谷・堀内）はクラスを２つに分けた少人数グループで行う。 ２．卒業および資格取得のための必須科目なので、全員が履修すること。

科目名	基礎演習	単位数	1	担当教員	なかむらよういち　はやさか　しみずすみこ 中村陽一・早坂めぐみ・清水澄子
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	保育者になるために必要な専門科目を十分に理解し、効果的な学習をするため授業である。内容は、「基礎的な用語を理解し、語彙力、読解力を身に付ける」「実習日誌や指導案作成の基礎となる文章表現力を身につける」「保育士や幼稚園教諭などの採用試験に役立つ基礎学力を強化する」などである。
到達目標	①保育者になるために必要な専門科目を効果的に学習をするための基礎的な用語を理解している。 ②専門科目を理解するための読解力が身についている。 ②実習日誌や指導案作成の基礎となる文章表現力が身ついている。 ④自治体の保育士採用試験の教養問題について、学んだ分野については６割から７割が解答できる。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション（授業のねらい）・小テスト、
	第２回	実習日誌に使用する漢字①／話の聞き方と文書作成①：メモの重要性（友達にインタビューをしよう）
	第３回	実習日誌に使用する漢字②／話の聞き方と文書作成②：文書にまとめよう（PC で文書を書く）
	第４回	実習日誌に使用する漢字③／文章の書き方①：良い文章について考えよう（段落、見出し、読み手への配慮、5W1H）
	第５回	実習日誌に使用する漢字④／文章の書き方②：構成メモを作ろう（伝えたいことに優先順位をつける）
	第６回	実習日誌に使用する漢字⑤／文章の書き方③：三分法をマスターしよう（論点を明確にする）
	第７回	実習日誌に使用する漢字⑥／お礼状の書き方①：形式と内容、下書き
	第８回	実習日誌に使用する漢字⑦／お礼状の書き方②：清書
	第９回	保育を取り巻く様々な問題／「保育の基本用語」から 30 分
	第 10 回	保育士の仕事　保育園や養護施設、学童保育での役割　楽しさと苦労／「保育の基本用語」から 30 分
	第 11 回	新しい保育所保育指針で何が変わったのか／「保育の基本用語」から 30 分
	第 12 回	採用試験を知っておこう！専門試験、教養試験、作文試験、実技試験／「保育の基本用語」から 30 分
	第 13 回	ES や面接試験に備えよう　どんなことをアピールし、何が質問されるのか／「保育の基本用語」から 30 分
	第 14 回	簡単なテスト／「保育の基本用語」から 30 分
	第 15 回	前回のテストの解説とまとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：各担当教員が授業中に指示する。	復習：各担当教員が授業中に指示する。
	予習に要する学習時間：概ね　　分を目安とする。	**予習に要する学習時間：概ね　　分を目安とする。**

課題へのフィードバック	授業後のレポートに対して解説を行う。
成績評価の方法	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 課題（４０％）、発表（３０％）、授業態度（３０％）
教科書	長島和代編『改訂版これだけは知っておきたい　わかる・書ける・使える　保育の基本用語』わかば社、2017 年。
参考文献	授業中に適宜指示
注意事項	文章力は、幼稚園教諭免許や保育士資格のための５回の実習における調査書や日誌、指導案の作成に必要である。また、卒業後、保育者として現場に出たときにも役立つ能力なので、積極的に授業に参加することが望まれる。卒業及び資格必修科目なので、全員が履修すること。

科目名	日本国憲法	単位数	2	担当教員	ひらた　よういち 平田　陽一
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	私達の国家は市民の良識により公正な社会を作ることを目指している（民主制）。この目的を実現するために政府を作り、そして政府の守るべき規範として制定された法が憲法である。この視点から憲法の基本的な考え方を説明する。
到達目標	１．憲法が制定された目的を理解している。 ２．憲法が前提としている「自律した市民」としての自覚を身に付けている。 ３．自己の判断により国の政策を選択することができる。

授業計画		
	第１回	憲法について（憲法は政府の守るべき法であること）
	第２回	近代立憲主義（憲法が政治権力の濫用を防止するための法であること）
	第３回	近代国家と憲法（政府の役割が国民の人権の保障であること）
	第４回	平和主義（国際紛争を平和的手段で解決するということ）
	第５回	国民主権主義（国家の政策は国民が決めるということ）
	第６回	人権尊重主義（政府は国民の人権を侵害してはならないということ）
	第７回	権力分立主義（政治権力の濫用を防止するために政治権力を分割するということ）
	第８回	人権（人間が人間として生まれながらに当然有する権利であること）
	第９回	自由権（政府の人権侵害からの国民の自由について）
	第 10 回	社会権（国民の人権を実現するために政府のなすべきことについて）
	第 11 回	参政権など（国民の意思の表明などについて）
	第 12 回	立法機関（国会の役割について）
	第 13 回	行政機関（内閣の役割について）
	第 14 回	司法機関（裁判所の役割について）
	第 15 回	憲法の現代的諸問題

授業に対する予習・復習		
	予習:予習は困難と思われるので､特に必要としない。	復習：単なる復習ではなく、基本的な問題、現在の具体的な問題を心に留めて考え続けることが望まれる。
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	課題の解説
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（６０%)、授業態度（４０%）
教科書	なし
参考文献	なし
注意事項	一般教養として憲法を勉強するという意識ではなく、憲法の役割を考えて、よい社会は自分達で作るという積極的な心構えで勉強すること。

科目名	体育実技	単位数	1	担当教員	塩崎（しおざき）　みづほ
ナンバリングコード	0000000	授業形態	実技		

授業の内容	本講義では、生涯にわたって運動・スポーツと親しむための基礎的技能の習得、正しい知識、実践方法について学ぶとともに、運動・スポーツを通して他者との関り方について考えることをねらいとする。さらに、将来幼児教育者として適切に動け、子どもを援助指導できるように、学生の運動に関する資質の向上を図る。
到達目標	１．運動・ダンス・スポーツに親しむための基礎的技能を習得している。 ２．自己の身体に関心をもち、健康の維持・向上を実践していく知識・方法を習得している。 ３．運動・ダンス・スポーツを通して協調性・社会性を身に付けている。 ４．幼児教育者として必要な身体運動に関する基本的な知識と技能を習得している。

授業計画

第１回	オリエンテーション 次にあげる３つのコースから選択できる。（第 10 時限までは共通） ①　平常コース ②　野外実習（9 月初旬から３泊４日） ③　スキー実習（3 月下旬３日間） （②③に係る費用は全額学生負担。） 履修方法、受講上の注意事項等について説明	第 13 回	ソフトバレーボール②　ゲームを楽しむ
		第 14 回	バスケットボール②　シュート率をあげる
		第 15 回	バスケットボール③　ドリブルの上達を目指す
		第 16 回	幼児の体操について考える
第２回	いろいろなウォーミングアップの実践と検討 幼児の体操・フォークダンス・ステップ	第 17 回	幼児の体操を創作し、発表の練習をする
第３回	リズミカルに動く「ダンス」① いろいろなステップ	第 18 回	ソフトバレーボール③　パス回しを工夫する
第４回	リズミカルに動く「ダンス」② 友達と関わって	第 19 回	バレーボール①パスの上達を目指す
第５回	リズミカルに動く「ダンス」③ 動きの発見	第 20 回	バレーボール②ルールを知る
第６回	リズミカルに動く「ダンス」④ 作品を創る	第 21 回	バスケットボール④全面コートでのゲームを体験する
第７回	リズミカルに動く「ダンス」⑤ 発表会	第 22 回	バドミントン③作戦を工夫したゲーム
第８回	ドッチボール		
第９回	ソフトバレーボール①　ボールに慣れる		
第 10 回	バスケットボール①　パスを正確に出す		
第 11 回	バドミントン①　ダブルスのゲームのルールを知る		
第 12 回	バドミントン②　ダブルスのゲームを楽しむ		

授業に対する予習・復習	予習：授業内で行っているストレッチを実践する	復習：授業内に行った幼児の体操、ダンスをノートに記録し、動きの復習をする。 ゲームのルールをノートに記録し、復習する
	予習に要する学習時間：概ね　　分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね　　分を目安とする。**
課題へのフィードバック	レポート課題等については、返却し説明を行う。発表では、講評を行う。	
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／〇）しない 成績評価の方法：　レポート（20%）、課題（10%）、作品（10%）、発表（10%）実技（20%）、授業態度（30%）	
教科書	「子どもの運動・表現遊び～動きを通して育む心とからだ～」宮下恭子編　大学図書出版	
参考文献		
注意事項	実技の時は、必ず指定の運動着を着用して受講すること。 意欲をもって積極的に取り組む姿勢を評価する。 ２）野外実習、３）スキー実習に係る各諸費用については、全額学生負担となる。	

科目名	体育実技	単位数	1	担当教員	しんど　のぶゆき 新戸　信之
ナンバリングコード	0000000	授業形態	実技		

授業の内容	長寿社会において、生涯を通じて元気でイキイキと生活するためには、生き甲斐づくり、健康づくり、体力づくりが必要である。また、幼児教育の現場において職務を遂行するためには、自らの行動、防衛のためだけでなく、子どもを守るための体力も求められる。 本授業では、内発的な動機付けとなる“楽しさ”や“面白さ”が内在する身体活動、即ちスポーツや運動遊びの基礎的な技術及び知識を習得することにより「生涯スポーツ」への契機を与えることをねらいとする。
到達目標	１．生涯にわたる自らの豊かな人生、社会に貢献できるたくましい心と身体の必要性について理解している。 ２．自己の健康管理、維持・増進に取り組み得る技術及び知識を習得している。 ３．集団生活に必要な規律を理解し、協調性、社会性を身につけている。 ４．幼児教育者として必要な身体運動に関する基本的な知識と技能を習得している。

授業計画

第１回	オリエンテーション 次にあげる３つのコースから選択できる。（第10回までは共通） ①平常コース ②野外実習（8月末から3泊4日） ③スキー実習（３月下旬に3泊4日） （②③に係る費用は全額学生負担） 履修方法、受講上の注意事項等について説明	第16回	ソフトバレーボール②、ビーチボール ゲームを楽しむ
		第17回	インディアカ② ゲームを楽しむ
		第18回	バレーボール② ゲームを楽しむ
		第19回	フットサル
第２回	アイスブレイキング・ゲーム	第20回	バスケットボール① パス、ドリブル、シュートの練習
第３回	コミュニケーションゲーム	第21回	バスケットボール② ゲームを楽しむ
第４回	フォークダンス	第22回	アルティメット② ゲームを楽しむ
第５回	ドッヂビー、ドッヂボール		
第６回	ソフトバレーボール① ボールに慣れる		
第７回	インディアカ① 打ち方を習得する		
第８回	バレーボール① パス、サーブ、スパイクの練習		
第９回	アルティメット① ルールを理解する、ミニゲーム		
第10回	チャレンジ・ザ・ゲーム		
第11回	イニシアティブゲーム		
第12回	縄跳び、大縄跳び		
第13回	バドミントン①　各種ストローク練習 簡易ゲーム		
第14回	バドミントン②　ダブルスでのゲーム		
第15回	バドミントン③　シングルスでのゲーム		

授業に対する予習・復習	予習：各種目のイメージをネット上の動画を観ることなどにより掴んでおく。	復習：各種目を指導する際の留意点や、指導方法について気付いた点をまとめておく。
	予習に要する学習時間：概ね　　分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね　　分を目安とする。**
課題へのフィードバック	授業後のレポートに対して解説を行う。	
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　レポート（20%）、実技（４０%）、授業態度（４０%）	
教科書	なし ※必要に応じ資料等を配布	
参考文献	なし	
注意事項	１．実技の時は、必ず指定の運動着を着用して受講すること。 ２．意欲をもって積極的に取り組む姿勢を評価する。 「②野外実習」、「③スキー実習」に係る各諸費用については、全額学生負担となる。	

科目名	体育実技	単位数	1	担当教員	北原　隆史
ナンバリングコード	0000000	授業形態	実技		

授業の内容	Comfort Zone（居心地のよい空間）の広がりとそこからのさらに一歩踏み出せる勇気と視点の多様性をテーマにして授業を展開する。そのため、その人なりの運動への関わり方を認め、その人なりのレベルで活動することにより、相互に影響しあう経験を共有する。また、限られた運動環境を活かし、様々な視点から活動を考え工夫することから視点の多様性による可能性の広がりを体験的に学ぶ。
到達目標	（1）運動・スポーツの文化的価値の多様性について理解している 1）人と人との運動的な関わりを通してのコミュニケーションの意義を体験的に理解している 2）運動・スポーツに対する肯定的な視座を獲得している （2）協働的に課題に取り組みながら人と表現工夫することの意義を理解している 1）集団での表現活動、発表を通しての身体的表現活動の魅力を理解している 2）協働的に取り組むことの教育的な意義を体験的に理解している 3）協働的に取り組むことの達成感による帰属意識の高まりと自己肯定感への影響を体験的に理解している （3）運動・スポーツ文化を伝承する保育者としての基本的資質向上を図る 1）運動・スポーツを通しての人間観、人間関係の変化の要因について体験的に理解している 2）運動・スポーツを通して支援することの本質について触れる。

授業計画

第1回	オリエンテーション 次にあげる3つのコースから選択できる。（第10時限までは共通） ①　平常コース ②　野外実習（9月初旬から3泊4日） ③　スキー実習（3月下旬3日間） （②③に係る費用は全額学生負担。） 履修方法、受講上の注意事項等について説明 保育者にとってのスポーツ・運動の意義 アイスブレイク	第11回	長縄飛びによるグループワークトレーニング① 代表的な長縄飛び
		第12回	長縄飛びによるグループワークトレーニング② 様々なバリエーション
		第13回	幼児の体操を創作し、発表の練習をする
		第14回	幼児の体操発表会
第2回	グループコミュニケーション1 課題解決における相互作用の重要性	第15回	卓球①　基本的技術の導入と基礎知識
第3回	グループコミュニケーショ2　課題解決における課題解決の過程の重要性と支援の在り方	第16回	卓球②　技術の練習とゲーム
第4回	リズミカルに動く「ダンス」① 友達と関わって	第17回	卓球③　技術の練習とより実践的ゲーム
第5回	リズミカルに動く「ダンス」② 動きの発見	第18回	バドミントン①　基本的技術の導入と基礎知識
第6回	リズミカルに動く「ダンス」③ 作品を創る	第19回	バドミントン②　技術の練習とゲーム
第7回	リズミカルに動く「ダンス」④ 発表会	第20回	バドミントン③　技術の練習とより実践的ゲーム
第8回	ボールを使っての運動遊び　① 基本的な動作を中心にして	第21回	バレーボール①　基本的技術の導入と基礎知識
第9回	ボールを使っての運動遊び　② 様々なボール遊びのバリエーション	第22回	バレーボール②　技術の練習とゲームム
第10回	ソフトバレーボール ゲームを楽しむ		

授業に対する予習・復習	予習：授業内で行っているストレッチを実践する	復習：授業内に行った幼児の体操、ダンスをノートに記録し、動きの復習をする。 ゲームのルールをノートに記録し、復習する
	予習に要する学習時間：概ね　　分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね　　分を目安とする。**
課題へのフィードバック	レポート課題等については、返却し説明を行う。発表では、講評を行う。	
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／〇）しない 成績評価の方法：　レポート（20%）、課題（10%）、作品（10%）、発表（10%）実技（20%）、授業態度（30%）	
教科書	「子どもの運動・表現遊び～動きを通して育む心とからだ～」宮下恭子編　大学図書出版	
参考文献		
注意事項	実技の時は、必ず指定の運動着を着用して受講すること。 意欲をもって積極的に取り組む姿勢を評価する。 2）野外実習、3）スキー実習に係る各諸費用については、全額学生負担となる。	

科目名	体育講義	単位数	1	担当教員	塩崎（しおざき）　みづほ
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	健康や運動に関する情報があふれている現代社会。それらに対応していく力をつけることが望まれる。よって、本講義では健康・運動・体力について正しい知識を学び、自ら健康の維持増進の方法を考え、実践していく力を養うことがねらいである。
到達目標	1. 健康に関する正しい知識を学び、健康的なライフスタイルを実践する力を身に付けている。 2. 各年齢に適した食事や休息、運動実践の方法について理解している。 3. 幼児教育者としての自己の健康管理、子どもたちの健康・運動の援助指導を適切に実践できる基礎的知識を習得している。

授業計画		
	第１回	受講上の留意事項について 現代社会と健康
	第２回	食事と健康
	第３回	心の健康
	第４回	青年期と性
	第５回	運動と健康
	第６回	体力について
	第７回	トレーニングの基礎理論
	第８回	スポーツ傷害と応急処置 講義のまとめと小テスト
	第９回	
	第 10 回	
	第 11 回	
	第 12 回	
	第 13 回	
	第 14 回	
	第 15 回	

授業に対する予習・復習	予習：次時の授業に関連する箇所の教科書を読み、冒頭の問いの答えを考えてくる。	復習：復習問題の内容について、配布プリント、教科書をもう一度読み、覚えてくる。 講義内容をノートにまとめる。 授業内で課された運動を実践する。
	予習に要する学習時間：概ね　60 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 120 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	毎時間の課題について、回答と説明を行う。 小テストの回答と解説を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：筆記試験（50%）、課題（20%）、授業態度（30%）　＊授業内における小テストが評価対象となる
教科書	『大学生のための体育講義－今日つくる未来・今日を生きる課題－（茗井香保里他、推敲舎）
参考文献	『健康づくりのための運動科学』（鵤木秀夫編、化学同人）、『大学生の健康・スポーツ科学』（大学生の健康・スポーツ科学研究会編、道和書院）
注意事項	授業は、11 月頃より開始。詳細は、掲示にて連絡する。

科目名	体育講義	単位数	1	担当教員	新戸（しんど） 信之（のぶゆき）
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	健康寿命の延伸に向けた取り組みが進められている昨今、これまでの「保健」の考え方から、積極的に健康をつくり出そうとする考え方が主流となりつつある。 本講義では健康・運動・体力について正しい知識を学び、自ら健康の維持増進の方法を考え、実践していく力を養うことをねらいとする。
到達目標	1. 健康に関する正しい知識を学び、健康的なライフスタイルを実践する力を身に付けている。 2. 各年齢に適した食事や運動実践の方法について理解している。 3. 将来幼児教育者とし自己の健康管理、子どもたちの健康・運動の援助指導を適切に行えるよう基礎的知識を習得している。

授業計画

第１回	受講上の留意事項について 現代社会と健康
第２回	食事と健康
第３回	心の健康
第４回	青年期と性
第５回	運動と健康
第６回	体力について
第７回	トレーニングの基礎理論
第８回	スポーツ傷害と応急処置 講義のまとめ

授業に対する予習・復習	予習： 次時の授業に関連する箇所の教科書を読み､冒頭の問いの答えを考えてくる。	復習： 復習問題の内容について、配布プリント、教科書をもう一度読み、覚えてくる。
	予習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。**

課題へのフィードバック	小テスト終了後に解説をする。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 筆記試験（50%）、授業態度（50%）　＊授業内における小テストが評価対象となる
教科書	『大学生のための体育講義－今日つくる未来・今日を生きる課題－（若井香保里他、推敲舎）
参考文献	『健康づくりのための運動科学』（鵜木秀夫編、化学同人）、『大学生の健康・スポーツ科学』（大学生の健康・スポーツ科学研究会編、道和書院）
注意事項	授業時間内のガムとスマートフォンについては特に厳しく対処します。 ※　11 月頃より実施

科目名	体育講義	単位数	1	担当教員	北原　隆史
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	健康や運動に関する情報があふれている現代社会。それらに対応していく力をつけることが望まれる。よって、本講義では健康・運動・体力について正しい知識を学び、自ら健康の維持増進の方法を考え、実践していく力を養うことがねらいである。近年の様々な教育的なテーマ「生きる力を育む」「資質・能力」「心を育む：非認知能力」「共生」を体育的な視点から考察し、また体育の在り方の動向とその基本的理論背景について学ぶと共に理論の構築の在り方について学習する。
到達目標	1. 健康に関する正しい知識を学び、健康的なライフスタイルを実践する力を身に付けている。 2. 各年齢に適した食事や休息、運動実践の方法について理解している。 3. 幼児教育者としての自己の健康管理、子どもたちの健康・運動の援助指導を適切に実践できる基礎的知識を習得している。

授業計画		
	第1回	受講上の留意事項について スポーツと Quality of Life：今日的課題と支援の在り方
	第2回	青年期の健康・体力と生活①：栄養・休養の重要性
	第3回	青年期の健康・体力と生活②：心の健康と運動
	第4回	青年期の健康・体力と生活③：運動・トレーニングの基礎理論
	第5回	スポーツ障害と応急処置：安全・救急の基礎的知識・技術
	第6回	乳幼児の体育と領域「健康」との関連性を考える
	第7回	乳幼児の体力とその支援の在り方
	第8回	乳幼児と安全・救急の基礎的知識・技術 講義のまとめ
	第9回	
	第10回	
	第11回	
	第12回	
	第13回	
	第14回	
	第15回	

授業に対する予習・復習		
	予習：次時の授業に関連する箇所の教科書を読み、冒頭の問いの答えを考えてくる。	復習：復習問題の内容について、配布プリント、教科書をもう一度読み解答してくる。 講義内容をノートにまとめる。 授業内で課された運動を実践する。
	予習に要する学習時間：概ね　60 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 120 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	毎時間の課題について、回答と説明を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（50%）、課題（20%）、授業態度（30%）　＊授業内における小テストが評価対象となる
教科書	『大学生のための体育講義－今日つくる未来・今日を生きる知恵－（茗井香保里他、推敲舎）
参考文献	『健康づくりのための運動科学』（鵤木秀夫編、化学同人）、『大学生の健康・スポーツ科学』（大学生の健康・スポーツ科学研究会編、道和書院）
注意事項	授業は、11 月頃より開始。詳細は、掲示にて連絡する。

科目名	現代社会事情	単位数	2	担当教員	まつき ひさこ 松木　久子
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	日々、さまざまな問題が起きている現代社会ですが、一見自分には無関係と思われることでも、実は大いに関係があり、自分の将来が左右される問題であるかもしれません。そこで、一般常識として知らなければならない時事問題を理解する力を養い、日本の政治・社会問題・国際問題等に関する事柄について、充分な理解力をつけていくことを目指し、さらにこれからの日本や世界のあり方を考えられるように指導します。
到達目標	１．現代社会の問題に対して、理解力を高める。 ２．自分の気になる問題について、さまざまな観点から調べることができる。 ３．自分の考えをまとめて、発表できるようになる。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション：履修上の諸注意や説明
	第２回	政治(1)：国会のしくみ等
	第３回	政治(2)：選挙制度
	第４回	政治(3)：憲法改正論
	第５回	歴史(1)：戦争について考える
	第６回	歴史(2)：原爆について多角的にとらえる
	第７回	経済(1)：消費税引き上げ問題
	第８回	経済(2)：農業政策について考える
	第９回	社会(1)：司法制度改革
	第 10 回	社会(2)：格差・少子高齢化社会
	第 11 回	国際(1)：北朝鮮問題
	第 12 回	国際(2)：アメリカ大統領選挙
	第 13 回	地球温暖化問題(1)
	第 14 回	地球温暖化問題(2)
	第 15 回	これまでのまとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：新聞・雑誌記事や参考文献に目を通し理解を深める。知らないことを、積極的に調べておく。	復習：理解できない点について調べておく。自分の考えをまとめ、発表できるようにしておく。
	予習に要する学習時間：概ね　60 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね　60 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（50%）、発表（25%）、授業態度（25%）
教科書	特に指定はしません。
参考文献	授業中に適宜、必要なプリント・資料等を配布します。
注意事項	授業形態は講義が中心となりますが、発表や映像鑑賞を取り入れたりしながら、弾力的に展開していこうと思います。日頃から身の回りの出来事に興味・関心をもち、新聞や雑誌に目を通し、ニュースに耳を傾けてください。図書館等を利用して、自ら積極的に調べることを通して、主体的に学ぶ態度を養ってください。

科目名	エコロジー入門	単位数	2	担当教員	きたのまさる　なかむらよういち 北野 大 ・中村陽一
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	エコロジー（ecology）は「生態学」と訳され、本来は「生物と環境の関わりを研究する学問」である。近年、地球環境問題が深刻化する中、人間と自然との共存を目指す思想や活動を表す言葉として使われている。本講義では、現代の環境問題のうち、特に生活者に関係のある大気汚染、水質汚濁、廃棄物及び地球温暖化について現状、原因及び対策を学ぶ。
到達目標	１．現代私たちが直面している環境問題を理解している。 ２．環境問題の原因を学ぶことで、私たちが取るべき行動を理解している。 ３．エネルギー問題の現状、再生可能エネルギーの特徴について理解している。

授業計画

第１回	ガイダンス（授業の全体計画、成績評価の方法などについて説明）
第２回	イースター島の悲劇、環境問題の区分、環境問題と被害の発生、環境問題の被害の特徴
第３回	環境問題の歴史、環境基本法制定の背景及び基本的考え方
第４回	大気環境及び水質環境について、汚染を表す指標及び汚染の現状と原因及び対策
第５回	循環型社会とは、廃棄物の排出量、処理方法、処理費用について
第６回	廃棄物の減量化手法としての金銭経済的誘導手法、その他の環境保全の手法について
第７回	地球温暖化の現状、原因及び被害の予測
第８回	新しい価値観の提案
第９回	地球温暖化の現状、海面上昇の原因と予測
第 10 回	気候変動と地球の未来
第 11 回	環境問題とエネルギー問題
第 12 回	再生可能エネルギー①太陽光発電と風力発電
第 13 回	再生可能エネルギー②地熱発電とバイオマス利用
第 14 回	原子力発電をどうするか
第 15 回	地球の未来はどうなるか

授業に対する予習・復習	予習：授業中に次回の内容と予習すべき事項を伝える。	復習：小テスト後に復習すべき事項を伝える。
	予習に要する学習時間：概ね 120 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	授業内に小テストを実施し、その後、解答の解説と振り返りを行う。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　小テスト（70%）、授業態度（30%）
教科書	なし
参考文献	授業中に紹介する。
注意事項	日頃から環境問題について関心を持ち、問題意識をもって授業に臨むこと。

科目名	情報機器操作	単位数	2	担当教員	えもと まさし 江本 全志
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	コンピュータの基本的な操作、文書作成ソフトのワード、表計算ソフトのエクセル、プレゼンテーションソフトのパワーポイントの基本的な使い方を中心に学びます。また、電子メールの使い方、画像作成・編集なども学びます。大学生活や今後の幼児教育において困らないコンピュータスキルを身に付けることを目指します。
到達目標	１．パソコンの日常生活の利用で困らないタイピングスキルを身につけている。 ２．ワード、エクセル、パワーポイントの基本的な操作ができる。 ３．画像編集の基本的な操作ができる。

授業計画

第１回	ガイダンス
第２回	コンピュータの基礎、画像作成
第３回	コンピュータの基礎の続き、ワード① 基本操作、アニメーション GIF の作成
第４回	インターネット、電子メール、タイピング
第５回	ワード② 時間割表の作成、画像の編集
第６回	ワード③ 時間割表の作成の続き
第７回	エクセル① 基本操作
第８回	エクセル② 基本操作の続き、家計簿の作成
第９回	エクセル③ 診断シートの作成　質問１０問に答えると診断結果を自動で表示する。
第 10 回	エクセル④ 診断シートの作成の続き
第 11 回	ワード④ イベント案内の作成
第 12 回	ワード⑤ イベント案内の作成の続き
第 13 回	パワーポイント① 基本操作　クイズの作成
第 14 回	パワーポイント② フォトギャラリーの作成
第 15 回	パワーポイント③ フォトギャラリーの作成の続き

授業に対する予習・復習	予習：　事前に PDF 形式の資料ファイルに目を通し、知らない用語については調べておきましょう。	復習：　授業で行なった操作や課題演習をやり直してみましょう。
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	授業期間中に数回、これまでの出欠状況と課題の提出状況などをお知らせします。 また、不定期に課題をチェックし問題がある場合は、その旨をお知らせします。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　課題（５０％）、授業態度（５０％）
教科書	プリントまたは PDF 形式のファイルを配布します。
参考文献	なし
注意事項	コンピュータの環境、履修者の人数などにより、授業内容を変更する可能性があります。ご了承下さい。

科目名	情報機器操作	単位数	2	担当教員	金（きむ）　宰郁（じぇうく）
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	教育に関連する文書業務・情報交換・情報収集等は、コンピュータによりその多くが行われていると考えられます。本科目では、幼児教育を行う方法の上での技術として、情報機器を利用するには、どのような考え方でどのような情報機器を用いて行うことが最も適切なのかについて理解を図ります。
到達目標	１．ワープロソフト「Word」の習得によりそれぞれの文書作成に対応することができる。 ２．情報分野の基本的なスキルであるコンピュータリテラシーを身につけている。 ３．プレゼンテーションソフトの習得により卒論に応対することができる。 ４．情報処理検定及びワープロ検定試験への資格証取得できる力を身につけている。

授業計画		
	第１回	この授業科目に関するガイダンスおよび自己紹介文作成・提出
	第２回	Windows の基本操作(1)：OS、GUI など
	第３回	Windows の基本操作(2)：ファイル管理、種類、文書の保存・読込み，その他
	第４回	絵の作成の基礎：絵描きソフト（ペイント）による文化表現関連課題の作成および提出
	第５回	日本語ワープロソフト「Word」の基礎(1)：文書形式，文書のコピー・移動・削除の関連課題の作成および提出
	第６回	日本語ワープロソフト「Word」の基礎(2)：文字サイズの変更、文字揃えなどの関連課題の作成および提出
	第７回	日本語ワープロソフト「Word」の基礎(3)：均等割付・段組、縦書き文字などの関連課題の作成および提出
	第８回	日本語ワープロソフト「Word」の基礎(4)：表作成と編集①の関連課題の作成および提出
	第９回	日本語ワープロソフト「Word」の応用：表作成と編集②の関連課題の作成および提出
	第 10 回	日本語ワープロソフト「Word」の応用：クリップアート、ワードアートの関連課題作成、及び提出
	第 11 回	日本語ワープロソフト「Word」の応用：図形描画の関連課題作成、及び提出
	第 12 回	日本語ワープロソフト「Word」の応用：段組み、ドロップキャップ、ページ罫線の関連課題作成、及び提出
	第 13 回	プレゼンテーション「PowerPoint」１：発表の構成とスライド、オブジェクトの編集、その他
	第 14 回	プレゼンテーション「PowerPoint」２：発表の準備、その他
	第 15 回	プレゼンテーション発表：グループごとに PowerPoint で１つの作品を作り、発表

授業に対する予習・復習		
	予習：ワープロソフトの基礎知識（定義）を事前に調べてから､教科書の例題および課題を解いてみる。	復習：教科書の例題および当日の課題をもう一度解いてみて確認する。
	予習に要する学習時間：概ね　90 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね　90 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	授業内容の説明や課題内容の TIP を学内ホームページに詳細にアップし、確認できるようになっている。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（40%）、作品・発表（30%）、授業態度（30%）
教科書	『文科系学生のための情報活用』（立野貴之、共立出版）
参考文献	『知りたい操作がすぐわかる Word2013 全機能 Bible』（西上原裕明、技術評論社）
注意事項	出席時間数が授業時間数の３分の２以上であり、かつ、課題、最終作品、発表、平常点等の成績を総合して合格と判断された場合、所定の単位が与えられます。

科目名	英　語（1）	単位数	2	担当教員	なかじま　なおき 中島　尚樹
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	この授業は、実践的な英語力の基礎を身につけるためのものです。日常生活の身近な話題に関して、英語で理解し、表現できるようになることを目指します．基本的な文法と語彙の学習から英作文に至るまで発信型の練習をしていきます。また、月の名前の由来など文化的な話題や英語の素朴な疑問などにも触れたいと思っています。
到達目標	１．Be 動詞の構文（現在と過去）を正しく使うことができる。 ２．一般動詞の構文（現在と過去）を正しく使うことができる。 ３．日常生活の出来事を言い表すのに必要な基本的な語彙を身につけている。

授業計画

第１回	授業説明 (年間の授業の流れ，評価方法，履修上の注意点など)	第 16 回	文法：現在と過去の区別(時制) (過去の時点を表す副詞と動詞の形)
第２回	文法：名詞と代名詞 (名詞と代名詞の種類，主格の代名詞)	第 17 回	文法：一般動詞の過去形(肯定文) (規則動詞と不規則動詞)
第３回	Pre-Unit 品詞と語順 (英語の品詞と基本語順)	第 18 回	文法：一般動詞の過去形(疑問文・否定文) (Did … と didn't の使い方)
第４回	文法：Be 動詞の現在形 (Be 動詞＋名詞句，Be 動詞＋形容詞句)	第 19 回	Unit 5　What's Wrong with Hitomi? (一般動詞の過去形)
第５回	文法：Be 動詞の過去形 (Be 動詞＋名詞句，Be 動詞＋形容詞句)	第 20 回	文法：Wh 疑問文の種類 (疑問詞が主語の場合とそれ以外の場合)
第６回	Unit 1　First Day of Class (be 動詞の構文)	第 21 回	Unit 13　I'm Meeting a Friend (疑問詞)
第７回	文法：There 構文 (人やモノの存在を表す表現)	第 22 回	Unit 11　Hitomi wants a New Look (接続詞)
第８回	文法：一般動詞の現在形(肯定文) (主語によって変わる現在形の動詞の形)	第 23 回	文法：現在進行形と過去進行形 (現在時や過去のある時点の動作の進行を表す表現)
第９回	文法：一般動詞の現在形(疑問文・否定文) (Do/Does と don't/doesn't の使い方)	第 24 回	Unit 6　It Won't Hurt (進行形)
第 10 回	Unit 2　I love Bread! (一般動詞の現在形)	第 25 回	文法：未来の表現 (be going to と will)
第 11 回	Unit 3　Pizza Time (可算名詞と不可算名詞)	第 26 回	Unit 8　Small Talk (未来形)
第 12 回	Unit 4　Not Just a Baker (代名詞：所有格，目的格)	第 27 回	文法：法助動詞 (can/could, may/might, should, must/have to)
第 13 回	文法：時点を表す副詞的な表現 (基本的な時間表現と前置詞の有無)	第 28 回	Unit 14　Date Night (助動詞)
第 14 回	Unit 7　I Feel Healthy Already! (時と場所を表す前置詞)	第 29 回	Unit 12　Shopping for Clothes (動名詞/不定詞)
第 15 回	まとめ：be 動詞と一般動詞の現在形など。(文法問題の練習と英作文)	第 30 回	まとめ：一般動詞の過去形，現在・過去進行形，未来表現など。(文法問題の練習と英作文)

授業に対する予習・復習	予習：テキストの Grammar Aid の部分を読んで，その課の内容を把握してください。聞き取りが苦手な人は，テキストのリスニングの部分を事前にやってみてください。	復習：授業で出てきた構文がすべて理解できたかどうか、出てきた単語の意味がすべて分かるか、どうかを毎回確認すること。また授業でやって分からなかったリスニングの部分をもう一度聞き返すこと。
	予習に要する学習時間：概ね２０分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね４０分を目安とする。**
課題へのフィードバック	試験は，試験後に各問の解答の解説をし，達成度に関してコメントを加えます。	
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（７０％）、課題（２０％）、授業態度（１０％）	
教科書	*English Aid*　(Robert Hickling・臼倉美里、金星堂)	
参考文献		
注意事項	この授業は英語で発信できる(英文が作れる)ようになるための総合的な授業で、読解を主とした授業ではありません。理解するだけでなく、英語が書けて、話せるようになるためには、その課で学んだ構文を毎回確実に覚えていくことが重要です。少しずつでもいいので、テキストとプリントに出てくる単語や例文を毎回必ず復習して覚えていってください。当然のことながら、試験の結果はそういった努力に大きく左右されます。	

科目名	英　語（1）	単位数	2	担当教員	須釜（すがま）　幸男（ゆきお）
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	「英語とコンピュータのスキルがあれば食いっぱぐれない」という台詞が、一昔前に盛んに語られました。グローバル化時代に入って、それはより切実なものとして、私達に迫ってきました。今後は一先ず、英語の「得意・不得意」や「好き・嫌い」は脇に置いておくことにしましょう。この授業を通じて、皆さんが英語というものに関わり、自分なりに親しみながら、英語の４技能（読書聞話）のイロハを体得していきましょう。
到達目標	１．英語圏と日本の間にある文化やマナーの違いを考え、話題力や会話力を発揮することが出来る。 ２．自分の意見をまとめるだけでなく、周囲に分かりやすい英語の語彙力・発信力を身につけている。 ３．仕事に必要な、TOEIC®では 600 点、英検では２級・準１級程度の英語力を身に付けている。

授業計画

第１回	前期ガイダンス	第 16 回	後期ガイダンス
第２回	TOEIC® Part 1 の解説・演習（基礎編） ：写真描写問題	第 17 回	TOEIC® Part 1 の解説・演習（応用編） ：写真描写問題
第３回	TOEIC® Part 2 の解説・演習（基礎編） ：応答問題	第 18 回	TOEIC® Part 2 の解説・演習（応用編） ：応答問題
第４回	TOEIC® Part 3 の解説・演習（基礎編） ：会話問題	第 19 回	TOEIC® Part 3 の解説・演習（応用編） ：会話問題
第５回	TOEIC® Part 4 の解説・演習（基礎編） ：説明文問題	第 20 回	TOEIC® Part 4 の解説・演習（応用編） ：説明文問題
第６回	TOEIC® Part 5 の解説・演習（基礎編） ：短文穴埋め問題	第 21 回	TOEIC® Part 5 の解説・演習（応用編） ：短文穴埋め問題
第７回	TOEIC® Part 6 の解説・演習（基礎編） ：長文穴埋め問題	第 22 回	TOEIC® Part 6 の解説・演習（応用編） ：長文穴埋め問題
第８回	TOEIC® Part 7 の解説・演習（基礎編） ：一つ/複数の文章	第 23 回	TOEIC® Part 7 の解説・演習（応用編） ：一つ/複数の文章
第９回	上半期のまとめ	第 24 回	上半期のまとめ
第 10 回	時事英語 ：政治分野	第 25 回	時事英語 ：芸術分野
第 11 回	時事英語 ：経済分野	第 26 回	時事英語 ：スポーツ分野
第 12 回	時事英語 ：社会分野	第 27 回	時事英語 ：エンターテイメント（芸能）分野
第 13 回	時事英語 ：文化分野	第 28 回	時事英語 ：国際分野
第 14 回	下半期のまとめ	第 29 回	下半期のまとめ
第 15 回	前期授業全体のまとめ	第 30 回	後期授業全体のまとめ

授業に対する予習・復習	予習： ・前回の授業内容を復習 ・既習プリントの整理・ファイリング **予習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。**	復習： ・授業内の文法や語彙の確認・理解 ・新聞雑誌で講義題材を多読、既習範囲との位置付け **復習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。**
課題へのフィードバック	・語彙力や基礎文法など、重要項目の理解・確認をその都度行う ・講義テーマの探求・意見形成の向上・確認をその都度行う	
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　筆記試験（５０％）、授業態度（５０％）　　（注）単元の終了ごとに小テストを実施する。	
教科書	なし 毎回、講義時にプリントや資料を配布する。	
参考文献	なし	
注意事項	英和辞典や英英辞典などの辞書類（電子辞書でも可）の持参が望ましい。さらに中学や高校で使い古した文法書や参考書、単語帳、熟語帳などもあればより望ましい。意味よりも耳や目を慣らすために、テレビやラジオ、映画、CD などあらゆるメディアに、テーマを問わずに日頃から親しんで欲しい。	

科目名	英　語（2）	単位数	2	担当教員	すがま　ゆきお 須釜　幸男
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	英語（2）では、既習の英語（1）の基礎を土台に、使える英語や英語文化を学んでいきます。そこで、皆さんの専門の保育や子どもにテーマを合わせ、文学や映画、アニメーション、時事問題、会話等から英語を学習していきます。この英語（2）は（1）よりも難易度の高い上級編の意味ではなく、英語で社会を広く学ぼうという意味の（2）ですので、受講に際しては「英語が苦手だから」、「不得意だから」との心配は不要です。
到達目標	1．英語圏と日本の間にある文化やマナーの違いを考え、話題力や会話力を発揮することが出来る。 2．自分の意見をまとめるだけでなく、周囲に分かりやすい英語の語彙力・発信力を身につけている。 3．仕事に必要な、TOEIC®では600点、英検では２級・準１級程度の英語力を身に付けている。

授業計画

第１回	前期ガイダンス	第16回	後期ガイダンス
第２回	幼児向け文学に触れる（基礎編） ：欧州	第17回	幼児向け文学に触れる（応用編） ：欧州
第３回	幼児向け文学に触れる（基礎編） ：米国	第18回	幼児向け文学に触れる（応用編） ：米国
第４回	幼児向け文学に触れる（基礎編） ：日本	第19回	幼児向け文学に触れる（応用編） ：日本
第５回	幼児向け映画を鑑賞する（基礎編） ：欧州	第20回	幼児向け映画を鑑賞する（応用編） ：欧州
第６回	幼児向け映画を鑑賞する（基礎編） ：米国	第21回	幼児向け映画を鑑賞する（応用編） ：米国
第７回	幼児向け映画を鑑賞する（基礎編） ：日本	第22回	幼児向け映画を鑑賞する（応用編） ：日本
第８回	まとめ	第23回	まとめ
第９回	保育をめぐる海外事情を知る：欧州（基礎編）	第24回	保育をめぐる海外事情を知る（応用編） ：欧州
第10回	保育をめぐる海外事情を知る：米国（基礎編）	第25回	保育をめぐる海外事情を知る（応用編） ：米国
第11回	保育をめぐる海外事情を知る：日本（基礎編）	第26回	保育をめぐる海外事情を知る（応用編） ：日本
第12回	保育・子どもに用いる会話（基礎編） ：喜怒哀楽の表現	第27回	保育・子どもに用いる会話（応用編） ：喜怒哀楽の表現
第13回	保育・子どもに用いる会話（基礎編） ：家庭生活での表現	第28回	保育・子どもに用いる会話（応用編） ：家庭生活での表現
第14回	保育・子どもに用いる会話（基礎編） ：集団生活での表現	第29回	保育・子どもに用いる会話（応用編） ：集団生活での表現
第15回	まとめ	第30回	まとめ

授業に対する予習・復習	予習： ・前回の授業内容を復習 ・既習プリントの整理・ファイリング **予習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。**	復習： ・授業内の文法や語彙の確認・理解 ・新聞雑誌で講義題材を多読、既習範囲との位置付け **復習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。**
課題へのフィードバック	・語彙力や基礎文法など、重要項目の理解・確認をその都度行う ・講義テーマの探求・意見形成の向上・確認をその都度行う	
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　筆記試験（５０％）、授業態度（５０％）　（注）単元の終了ごとに小テストを実施する。	
教科書	なし 毎回、講義時にプリントや資料を配布する。	
参考文献	なし	
注意事項	英和辞典や英英辞典などの辞書類（電子辞書でも可）の持参が望ましい。さらに中学や高校で使い古した文法書や参考書、単語帳、熟語帳などもあればより望ましい。意味よりも耳や目を慣らすために、テレビやラジオ、映画、CD などあらゆるメディアに、テーマを問わずに日頃から親しんで欲しい。	

科目名	音楽（1）基礎音楽	単位数	2	担当教員	しかと　かずのり 鹿戸　一範
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	保育者として、保育現場で必要とされる音楽の基礎的な知識および演奏技術について学ぶ。 また、幼児の音楽的発達過程について理解し、それを踏まえた子供と音楽の関わり、音楽活動内容や遊びについても学ぶ。
到達目標	１．楽典を理解し音楽の知識を深め、楽譜の読み書きが自由にでき、楽器の演奏に生かすことができる。 ２．保育の現場において子どもの年齢や関心に相応した音楽活動が展開できるような知識と技術を身につけている。 ３．三和音やコードネームを用いて「子どものうた」を伴奏することができる。

授業計画

第１回	オリエンテーション	第 16 回	三和音について
第２回	楽譜の読み方（音名について　①）	第 17 回	ハ長調の音階と三和音について
第３回	楽譜の読み方（音名について　②）	第 18 回	ハ長調の三和音を用いた伴奏付け　①
第４回	楽譜の読み方（音符と休符について　①）	第 19 回	ハ長調の三和音を用いた伴奏付け　②
第５回	楽譜の読み方（音符と休符について　②）	第 20 回	ト長調の音階と三和音について
第６回	楽譜の読み方（リズムについて　①）	第 21 回	ト長調の三和音を用いた伴奏付け　①
第７回	楽譜の読み方（リズムについて　②）	第 22 回	ト長調の三和音を用いた伴奏付け　②
第８回	楽譜の読み方（拍子について　①）	第 23 回	ヘ長調の音階と三和音について
第９回	楽譜の読み方（拍子について　②）	第 24 回	ヘ長調の三和音を用いた伴奏付け　①
第 10 回	音程について　①	第 25 回	ヘ長調の三和音を用いた伴奏付け　②
第 11 回	音程について　②	第 26 回	コードネームについて
第 12 回	音階について　①	第 27 回	コードネームを用いた伴奏付け　①
第 13 回	音階について　②	第 28 回	コードネームを用いた伴奏付け　②
第 14 回	楽語・記号について	第 29 回	器楽合奏　①
第 15 回	まとめ	第 30 回	器楽合奏　②

授業に対する予習・復習	予習：あらかじめテキストを読んでおく。授業で課題となる曲の予習。	復習：テキストを読んでおく。授業で取り上げられた曲の復習を充分に行う。
	予習に要する学習時間：概ね　60 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね　60 分を目安とする。**

成績のフィードバック	発表に対しての個別に講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（４０％）、作品・発表（３０％）、授業態度（３０％）
教科書	『おんがくのしくみ』（今川恭子　他、教育芸術社）
参考文献	なし
注意事項	

科目名	音楽（1）基礎音楽	単位数	2	担当教員	大輪（おおわ）　公壱（こういち）
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	幼児教育者として必要な音楽の基礎知識を学ぶと共に、音楽教育技術を身につけることを目的とする。
到達目標	ソルフェージュ（音感教育）をベースに、学生諸氏が下記の訓練を通して唱歌・童謡における基本的な音楽要素を身につけ、ピアノ演奏及び歌唱等を教育現場で実践できることを目標とする。 １．リズム唱、リズム叩き、リズム書き取りができる。 ２．旋律歌唱、旋律書き取りができる。 ３．和音書き取りができる。

授業計画

第１回	楽典　(譜表)	第 16 回	主要 3 和音と調音
第２回	(音名・階名)	第 17 回	全音符・休符、2 分音符・休符を含む書き取り
第３回	(楽語・音程・調について)	第 18 回	4 分音符・休符、8 分音符・休符を含む書き取り
第４回	(音・休符の種類と和音について)	第 19 回	16 分音符・休符、付点音符を含む書き取り
第５回	リズムの基本(全音符・休符、2 分音符・休符)	第 20 回	3 連符及び他の連符を含む書き取り
第６回	リズムの基本(4 分音符・休符、8 分音符・休符)	第 21 回	タイを含むリズムの書き取り
第７回	リズムの基本(16 分音符・休符、付点音符を含む)	第 22 回	タイを含む旋律の書き取り
第８回	リズムの基本(3 連符及び他の連符)	第 23 回	異なった複数のリズムをもつ旋律の書き取り
第９回	タイを含むリズム	第 24 回	主要 3 和音の書き取り
第 10 回	異なった複数のリズム	第 25 回	主要 3 和音(転回形)書き取り
第 11 回	リズムカノン唱	第 26 回	唱歌・童謡中の基本旋律(第 5 回、第 6 回)の書き取り
第 12 回	リズムカノン叩き	第 27 回	唱歌・童謡中の基本旋律(第 7 回、第 8 回)の書き取り
第 13 回	リズム諸楽器の解説	第 28 回	唱歌・童謡中の基本旋律(第 9 回、第 10 回)の書き取り
第 14 回	リズム諸楽器の実践	第 29 回	唱歌・童謡中の基本旋律(第 5 回～第 10 回)の書き取り
第 15 回	まとめ	第 30 回	まとめ

授業に対する予習・復習	予習：リズムの名称とその意味及び音名（ラテン・伊・仏によるドレミ読み、日本語読み、英米語読み）を確実に覚える。	復習：学習したリズムを一定の拍子に基づいて叩く練習を行う。 ピアノ練習曲テキストの両手の旋律のリズムのみを叩く練習を行う。
	予習に要する学習時間：概ね　60 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね　60 分を目安とする。**
課題へのフィードバック	随時レポート提出や実技（リズム楽器付き歌唱）を行い、各個人へ解説・アドヴァイスを行う。	
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（　50%）、実技（30%）、授業態度（20%）	
教科書	『新・幼児の音楽教育』（井口太、朝日出版社）	
参考文献	『実用　こどものうた』（田口雅夫・高崎和子、カワイ出版）	
注意事項	講義内容を理解出来ないまま終わらせたくないので質問を歓迎する。（授業時間外でも可） 尚、授業中の私語・飲食は厳しく注意する。机の上に飲食物を置かないこと。 これらの注意に従わない者は学生証を提示の上、退室を命ずることがある。 授業内でレポート・実技演奏等を実施する予定。各自五線紙付きノートを用意すること。	

科目名	図画工作	単位数	2	担当教員	おぐち すぐる 小口 偉
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	乳幼児期の造形的表現方法は、発達段階を踏まえ、適切な素材提供をすることが、活動に広がりと奥行きをもたらす。子どもの活動をもとにした活動体験をすることから、「素材、道具について」の造形的側面と、「乳幼児の表現活動について」の心身の発達における側面から、造形を通した表現について理解、関心を深める。 保育所、幼稚園における造形表現活動の支援のための視点と方法を身につけ、子どもたちと豊かな触れ合いが出来る保育者となる基礎を身につける。
到達目標	１．乳幼児の表現活動の意義をとらえる。 ２．年齢やクラス編成ごとに変化する活動内容を理解し、適切な環境づくりをするための基礎を養う。 ３．子どもたちと活動が楽しめる技術、視点、方法を身につける。 ４．

授業計画

第１回	オリエンテーション 授業内容説明	第 16 回	表現について１「モチーフを探そう」 表現のきっかけとなる装置をつくる
第２回	素材体験１　紙について 質感で遊ぶ	第 17 回	表現について２「具体化しよう」 テーマや想い（モチーフ）を形や色に置き換える
第３回	素材体験２　紙について２ 空間を使って遊ぶ	第 18 回	表現について３「工夫しよう」 素材の扱いや形について自分なりに工夫する
第４回	素材体験３　クレヨン、パスについて	第 19 回	表現について４「発表会」 発表と鑑賞
第５回	素材体験４　粘土について	第 20 回	ポップアップカード１ 試作から仕組みを理解する
第６回	道具体験１　ハサミについて	第 21 回	ポップアップカード２ 本制作仕上げ
第７回	道具体験２　ステープラーについて	第 22 回	工作２　「まわる」をテーマとしたおもちゃ作り
第８回	テープ、のり、などの接着について	第 23 回	工作３　「風で遊ぶ」をテーマとしたおもちゃ作り
第９回	応用１　構成遊びについて１ 色画用紙での構成遊び	第 24 回	仕掛けを用いた指導教材制作１ 試作から仕組みを理解する
第 10 回	応用２　構成遊びについて２ 与えられたきっかけから画面構成１	第 25 回	仕掛けを用いた指導教材制作２ 本制作開始
第 11 回	応用３　構成遊びについて３ 与えられたきっかけから画面構成２	第 26 回	仕掛けを用いた指導教材制作３ 本制作仕上げ
第 12 回	応用４　様々な技法遊び デカルコマニー／スクラッチ	第 27 回	紙粘土をつかって プレート制作
第 13 回	立体の扱いについて「紙立体」 合同制作と共同制作を体験する	第 28 回	紙粘土をつかって プレートに着色
第 14 回	工作１　動かして遊ぶ「紙工作」	第 29 回	まとめ 振り返り、レポート作成
第 15 回	振り返り	第 30 回	正月遊び カルタ、たこづくり

授業に対する予習・復習	予習：子どもの造形的表現に関心を向ける。 身の回りの自然や造形物に関心を向ける。	復習：授業中の制作について振り返り、ねらいや制作手順に関することなどをノートにまとめる。
	予習に要する学習時間：概ね 40 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 50 分を目安とする。**
成績のフィードバック	各提出課題に対し、採点をする。返却の際に保育現場での指導、実践方法や注意点などをその都度伝える。	
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（２０％）、作品・発表（４０％）、授業態度（４０％）	
教科書	『保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　幼稚園教育要領』平成２９年３月３１日告示	
参考文献	『楽しい造形表現』（子ども造形表現研究会、圭文社） 『保育園・幼稚園の造形あそび』（鮫島良一,馬場千晶、成美堂出版）	
注意事項	出来映えは重視しません。誠実に、積極的に取り組むこと。 ※　作品制作に関わる道具、材料費は個人負担です。（年間３５００円） スケッチブック、色画用紙、絵具、筆、パレット、紙粘土は上記代金の中から学校で一括購入します。	

科目名	図画工作	単位数	2	担当教員	市瀬（いちのせ）　恭子（たかこ）
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	幼児の造形表現の特質を理解し、豊かな感性の育ちを支援するために、保育者として必要な基礎的技術や専門的知識を実技演習を通して学びます。作品重視ではなく、美術が好きになるようにわかりやすく、身近なものの美しさや面白さに気づく授業を行います。
到達目標	1.造形表現の基礎的な知識と技能を習得している。 2.演習を通して造形表現の楽しさを学び、子どもの発達にあった援助、指導が展開できる。 3.子ども一人ひとりの表現をしっかりと受け止められる保育者になるための豊かな感性を身につけている。 4.自分の感性に自信を持ち、造形活動に主体的に取り組むことができる。

授業計画

第１回	オリエンテーション 授業の主旨説明、自己カードの作成	第 16 回	紙工作①　身近な紙の切り絵
第２回	文字とデザイン①　レタリングの基礎演習	第 17 回	紙工作②　段ボール紙の積み木
第３回	文字とデザイン②　レタリングの活用	第 18 回	紙工作しりとり絵本①　文字と絵の構成
第４回	表現の基礎　描く①　鉛筆デッサン	第 19 回	紙工作しりとり絵本②　制作
第５回	表現の基礎　描く②　クレヨン画	第 20 回	紙工作しりとり絵本③　製本
第６回	いろいろな技法①　クレヨン	第 21 回	季節の素材をつかって①　自然物のコラージュ
第７回	いろいろな技法②　絵具	第 22 回	季節の素材をつかって②　木のモビール
第８回	いろいろな技法③　コラージュ	第 23 回	季節の素材をつかって③　枝、葉っぱの立体構成
第９回	モダンテクニックの知識と活用方法のまとめ	第 24 回	ポップアップカード①　基礎を学ぶ
第 10 回	色彩について（色相環　色の混色）	第 25 回	ポップアップカード②　制作
第 11 回	描画材　絵具の使い方①　パウル・クレー模写	第 26 回	ポップアップカード③　完成　評価
第 12 回	描画材　絵具の使い方②　静物画	第 27 回	グループ制作　壁面構成①　企画
第 13 回	光を利用した表現①　グラシン紙工作	第 28 回	グループ制作　壁面構成②　制作
第 14 回	光を利用した表現②　トランスペーパー工作	第 29 回	グループ制作　壁面構成③　完成　評価
第 15 回	前期まとめと講評	第 30 回	まとめと講評

授業に対する予習・復習	予習：次回の制作のための材料、資料、道具の準備	復習：毎回授業終了時に「授業記録」を日誌形式で作成する
	予習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。**
課題へのフィードバック	学生は、課題ごと「プログラムの活動記録」を作成し、レポートと作品を提出する。 返却時に個別の直接講評、またはコメントを書いて返却する。	
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（　○）しない 成績評価の方法：　筆記試験（%）、レポート・課題（２０　%）、作品・発表（２０%）、実技（%）、授業態度（６０　%）	
教科書	『楽しい造形表現』（子ども造形表現研究会、圭文社）	
参考文献	『幼稚園教育要領、保育指針』（チャイルド社）	
注意事項	自発的に誠実に取り組む態度を望みます。 ※制作に関する用具や材料費は個人負担です。 材料費　年間５００円 制作用具（スケッチブック、アクリル絵の具、筆、パレット。学校で一括購入する場合は２７００円）	

科目名	幼児体育	単位数	2	担当教員	塩崎（しおざき）　みづほ
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	子どもの生活は遊びが中心にあるといわれるくらい遊びによって成長し、生きていくのに必要なことを真似し学んでいきます。本講義では、子どもの発育発達の特徴を理解し、それに即した運動遊びについて学び、さらには指導法について実践的に学びます。そこでは、グループで決められた題材を用いて、ロールプレイを行います。
到達目標	１．子どもの発育発達に応じた運動遊びの意義とその内容を理解している。 ２．運動遊びの指導に必要な、ねらい、指導案の記入法、指導法について理解している。 ３．幼児教育者として自ら動ける身体づくりと、体力の維持・向上に努める力を習得している。

授業計画

第１回	講義：履修上の注意事項 乳幼児期の運動遊びの意義	第 16 回	ボールを使った遊び
第２回	鬼ごっこについて考えよう	第 17 回	巧技台を使った遊び
第３回	米袋を使った遊び	第 18 回	サーキット遊び
第４回	フープを使った遊び	第 19 回	身近なものを使った遊び
第５回	縄を使った遊び	第 20 回	身体表現遊びの指導法① －身体表現遊びの題材について－
第６回	マットを使った遊び	第 21 回	身体表現遊びの指導法② －言葉がけを工夫して実践しあおう－
第７回	身近なものを使った遊び①新聞紙	第 22 回	講義：運動遊びの指導について
第８回	身体表現遊び① －リズムにのって踊ろう－	第 23 回	講義：運動遊びの指導案作成
第９回	身体表現遊び② －シンメトリーの動きを体験しよう－	第 24 回	運動遊びの指導案に沿った指導法を考える
第 10 回	身体表現遊び③ －群の動き－	第 25 回	指導の実践①　マット遊び
第 11 回	身体表現遊び④ －ひと流れをつくろう－	第 26 回	指導の実践②　巧技台を使った遊び
第 12 回	身体表現遊び⑤ －絵本を使った作品の創作－	第 27 回	指導の実践③　身体表現遊び
第 13 回	身体表現遊び⑥ －絵本を使った作品の踊りこみをしよう－	第 28 回	指導の実践④　ボールを使った遊び
第 14 回	身体表現遊び⑦ －発表会－	第 29 回	指導の実践⑤　縄を使った遊び
第 15 回	発表会の振り返り 身体表現遊びのまとめ	第 30 回	まとめ　幼児の運動遊びの指導における特徴について考える

授業に対する予習・復習	予習:次回に備え､教科書の該当する箇所を熟読する。 ストレッチなどを日々の生活に取り入れ実践する	復習：本時行った活動内容をノートにまとめる。
	予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	ノートの提出を行い、コメントを記入して返却する。 レポートはコメントして返却、発表は講評をする。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：レポート（20%）、課題（20%）、作品（10%）、発表（10%）実技（10%）、授業態度（30%）
教科書	『子どもの運動・表現遊び～動きを通して育む心とからだ～』宮下恭子編、大学図書出版
参考文献	『保育の中の運動あそび』（石井美晴他編、萌文書林） 『保育と幼児期の運動あそび』（岩崎洋子編、萌文書林）
注意事項	実技の時は、必ず指定の運動着を着用して受講すること。 意欲をもって積極的に取り組む姿勢を評価する。

科目名	幼児体育	単位数	2	担当教員	茗井（めい）　香保里（かおり）
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	幼児期に正しい動き方を身につけ、運動することの楽しさを経験することは、幼児の運動経験や健康生活を豊かに充実させることはもとより、これからの超高齢社会を健康に生き抜くための基礎となる。それらをふまえ、本講義では、幼児の発育発達の特性と幼児の動きづくりと運動遊びや身体表現遊びの重要性を理解することを目的とする
到達目標	１．様ざまな遊具の特性を知り、それらを活用した運動遊びが実践できる ２．協働して身体表現することを通して他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現ができる ３．目的にあった運動遊びや身体表現活動を開発できる

授業計画

第１回	基本の運動	第 16 回	自分の体を知る
第２回	簡単なルールのある運動遊び	第 17 回	心と身体の解放
第３回	フープを使った運動遊び	第 18 回	「曲線」の身体表現
第４回	短縄を使った運動遊び	第 19 回	「直線」の身体表現
第５回	長縄を使った運動遊び	第 20 回	「曲線」+「直線」の身体表現
第６回	ボールを使った運動遊び	第 21 回	働く乗り物
第７回	生活用品を使った運動遊び	第 22 回	はらぺこあおむし
第８回	マットを使った運動遊び	第 23 回	「生涯健康」と運動遊び　プレゼンテーション
第９回	文献を使って運動遊びを調べる	第 24 回	「生涯健康」と運動遊び　ディスカッション
第 10 回	簡単なルールのある運動遊びの考案	第 25 回	作品の創作① 動き
第 11 回	フープや短縄を使った運動遊びの考案	第 26 回	作品の創作② 衣装
第 12 回	長縄やボールを使った運動遊びの考案	第 27 回	作品の創作③ 音
第 13 回	マットや生活用品を使った運動遊びの考案	第 28 回	作品を演じるとは、作品を観るとは
第 14 回	「生涯健康」と運動遊び　グループワーク	第 29 回	作品発表会
第 15 回	まとめ	第 30 回	総まとめ

授業に対する予習・復習	予習：教科書の該当部分を熟読する。	復習：参考文献を用いて授業内容をノートにまとめる
	予習に要する学習時間：概ね　３０　分を目安とす	**復習に要する学習時間:概ね　３０　分を目安とする。**

課題へのフィードバック	授業内での発表については授業において適宜フィードバックし、課題のポイントについて説明する。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（　○）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（　３０　%)、作品・発表（　３０　%)、授業態度（　４０　%）
教科書	『幼児の運動・身体表現－生涯健康とライフキャリア発達』（茗井香保里、、推敲舎）
参考文献	『子どもの運動・表現あそび～動きを通して育む心とからだ～』（宮下恭子他、大学図書出版）
注意事項	体操着を着用のこと。フード付上着、ジーンズパンツなどは避ける。肩にかかる髪は、結ぶこと。 運動靴を履き、裸足、スリッパ履きでは、受講しないこと。 意欲、関心、はプラスポイントとする。

科目名	子どもの保健Ⅰ	単位数	4	担当教員	とりうみ　ひろこ 鳥海　弘子
ナンバリングコード		授業形態	講義		

授業の内容	前期は地域における保健活動や子どもの身体的特徴や発育発達を学び、子どもの発達段階に応じた事故予防や保育における衛生管理、危機管理、安全対策を理解する。 後期は子どもの病気と対応、感染予防、慢性疾患、病児保育、母子保健、他職種との連携など組織としての健康支援を学び、保育者として必要な基礎知識を習得する。
到達目標	１．子どもの身体発育や生理的機能・運動機能・精神機能の発達と保健について理解している。 ２．子どもの健康状態の把握と子どもの病気の予防・症状・治療方法について理解している。 ３．子どもの発達段階に応じた事故予防について理解している。 ４．保育における環境整備・衛生管理・危機管理・安全対策について理解している。 ５．地域の子育て支援・母子保健など地域の連携について理解している。

授業計画

第１回	オリエンテーション 子どもの健康と保健の意義	第 16 回	子どもの健康状態の把握とよくみられる症状
第２回	地域における保健活動と児童虐待防止	第 17 回	新生児・先天性の病気とその特徴
第３回	地域の子育て支援と専門機関との連携	第 18 回	子どもの病気と対応① 感染症
第４回	生物としてのヒトの成り立ち	第 19 回	子どもの病気と対応② 循環器・呼吸器
第５回	身体発育と保健	第 20 回	子どもの病気と対応③ アレルギー・免疫
第６回	子どもの生理機能の発達と保健① 形態と機能	第 21 回	子どもの病気と対応④ 血液・内分泌
第７回	子どもの生理機能の発達と保健② 体内環境の恒常性	第 22 回	子どもの病気と対応⑤ 骨・感覚器
第８回	子どもの運動機能の発達と保健	第 23 回	子どもの病気と対応⑥ 脳・神経・筋
第９回	子どもの精神機能の発達と保健	第 24 回	子どもの病気と対応⑦ 慢性疾患・医療的ケア
第 10 回	子どもの発育発達と生活習慣	第 25 回	子どもの病気と対応⑧ 予防接種と感染予防
第 11 回	保育における環境整備と衛生管理	第 26 回	発達障害の理解
第 12 回	保育における危機管理と安全対策	第 27 回	病児保育と家庭支援
第 13 回	子どもの事故の現状と課題	第 28 回	職員間の連携と組織的取り組み
第 14 回	事故やけがに対する応急処置・救命処置	第 29 回	母子保健対策と保育
第 15 回	子どもの保健：前期のまとめ	第 30 回	子どもの保健：総合理解

授業に対する予習・復習	予習：テキストの該当箇所を読んでおくこと。 日頃から子どもの健康に関するニュースなどに関心を持ち情報収集を行うこと。	復習：授業で習った内容を復習し定着を図ること。
	予習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。**
課題へのフィードバック	レポート・課題・小テストのあとに随時解説を行う。	
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（７０％）、レポート・課題・小テスト（２０％）、授業態度（１０％）	
教科書	『子どもの保健Ⅰ』基本保育シリーズ⑩（松田博雄・金森三枝、中央法規出版）	
参考文献	授業中に随時紹介	
注意事項	１．レポート・課題・小テストは適時行う。 ２．講義では様々なケースをDVD・動画・写真・スライドなどで紹介する。 ３．配布プリントは１冊にファイリングして授業に持参すること。	

科目名	子どもの保健Ⅰ	単位数	4	担当教員	くまさか　たかゆき 熊坂　隆行
ナンバリングコード		授業形態	講義		

授業の内容	日常の生活・保育の中で、子どもが身体的にも精神的にも健康であり、成長発達ができるように、子どもの発育・発達過程を学び、観察力の基礎と応用力を身につける。
到達目標	１．小児保健・母子保健の意義や統計を学び、現状を理解する。 ２．子どもの成長・発達の特徴を理解し、その過程に応じた対応・支援を学ぶ。 ３．子どもの発育・発達の過程でおこる身体的・精神的疾病等について理解する。 ４．子どもの保育の環境・衛生環境等についての安全管理について理解する。 ５．子どもの成長にかかすことができない家庭、専門機関、地域の連携について理解する。

授業計画

第１回	子どもの健康と保健の意義 （子どもとは）	第 16 回	子どもの疾病 （血液疾患）
第２回	子どもの健康と保健の意義 （健康概念と健康指標）	第 17 回	子どもの疾病 （内分泌・代謝疾患）
第３回	子どもの健康と保健の意義 （小児保健統計）	第 18 回	子どもの疾病 （神経疾患）
第４回	子どもの発育・発達 （生物としての人の成り立ち、身体発育）	第 19 回	子どもの疾病 （腎・泌尿器疾患）
第５回	子どもの発育・発達 （生理機能の発達）	第 20 回	子どもの疾病 （先天性疾患）
第６回	子どもの発育・発達 （運動機能の発達）	第 21 回	子どもの疾病の予防と対応 （学校保健法、予防接種）
第７回	子どもの発育・発達 （精神機能の発達）	第 22 回	子どもの精神保健 （子どもの心の健康とその課題）
第８回	子どもの食と栄養 （乳幼児）	第 23 回	子どもの精神保健 （児童虐待と防止）
第９回	子どもの食と栄養 （離乳期）	第 24 回	環境及び衛生管理・安全管理 （衛生管理・安全管理の実施体制）
第 10 回	子どもの食と栄養 （幼児期）	第 25 回	環境及び衛生管理・安全管理 （保育現場における衛生管理）
第 11 回	子どもの疾病 （病気の特徴）	第 26 回	環境及び衛生管理・安全管理 （保育環境整備と保健）
第 12 回	子どもの疾病 （感染症）	第 27 回	健康及び安全の実施体制 （職員間の連携と組織的取り組み）
第 13 回	子どもの疾病 （免疫・アレルギー疾患）	第 28 回	健康及び安全の実施体制 （母子保健対策と保育）
第 14 回	子どもの疾病 （消化器疾患）	第 29 回	健康及び安全の実施体制 （家庭・専門機関・地域との連携）
第 15 回	子どもの疾病 （循環器疾患）	第 30 回	まとめ

授業に対する予習・復習	予習：前講義で配布される次回資料、参考文献を用いて予習をしてください。自ら学ぶ姿勢をもち、主体的に講義に参加してください。	復習：講義で配布される資料、参考文献を用いて復習をしてください。自ら学ぶ姿勢をもち、主体的に講義に参加してください。
	予習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。**

課題へのフィードバック	試験後に解答を示し、解説を行なう。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（〇）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（５０％）、レポート・課題（３０％）、授業態度（２０％）
教科書	『保育者・養護教諭を目指す人のための子どもの保健Ⅰ・Ⅱ』（大澤眞木子、日本小児医事出版社）
参考文献	適宜、紹介いたします。
注意事項	

科目名	社会福祉	単位数	2	担当教員	志濃原（しのはら）　亜美（あみ）
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	この授業では、福祉専門職である保育士が学ぶべき社会福祉の基礎的な知識を習得することをねらいとする。子どもの福祉のみならず、現代社会のニーズに即したあらゆる人々のウェルビーイング（福祉）をいかに実現させるかという視点に立ち広い視野で社会福祉について学ぶ。
到達目標	１．保育と社会福祉の関係がわかる。 ２．わが国の社会福祉の制度がわかる

授業計画

第１回	**オリエンテーション**（授業の概要の説明、持ち物確認、履修上の注意、自己紹介、授業を受けるに当たっての心構えについての確認等）
第２回	**保育と社会福祉**（私たちが暮らす社会と保育をめぐる社会問題）
第３回	**社会福祉の概念①**（社会福祉の意味、定義）
第４回	**社会福祉の概念②**（社会福祉の理念、社会福祉の構造等）
第５回	**社会保障の概念と体系**（我が国における社会保障の概念）
第６回	**社会保険①**（社会保険制度の概要）
第７回	**社会保険②**（医療保険、年金保険、介護保険、労働保険）
第８回	**公的扶助①**（公的扶助の概要、好適扶助と社会保険の違い）
第９回	**公的扶助②**（生活保護の原理と原則、保護施設、その他の低所得者施策）
第 10 回	**高齢者福祉**　**※中間レポート提出**
第 11 回	**障害者福祉**
第 12 回	**相談援助の意味と方法①**（保育士に求められるソーシャルワーク、ソーシャルワークの意味と原則、）
第 13 回	**相談援助の意味と方法②**（ソーシャルワークの視点、ソーシャルワークに貢献した人）
第 14 回	**小テスト、ＶＴＲ（生活保護）、感想文**
第 15 回	**小テスト返却及びまとめ**

授業に対する予習・復習	予習：予習・復習シートをはじめに配布します。 それに従い、毎時間次回の授業内容の予習を指示します（教科書を読んでくる、プリント穴埋め等）。	復習：授業で習った内容の復習（シートへの記入）
	予習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね　９０分を目安とする。**
課題へのフィードバック	小テストの解説と返却、レポートの返却を行います。	
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　筆記試験〈小テスト〉(40%)、レポート（35%)、課題（15%)、授業態度（　10%）	
教科書	『保育と社会福祉　第２版』(橋本好市・宮田徹編集、(株)みらい)	
参考文献	適宜紹介する	
注意事項	新聞やニュースなどを通じて社会福祉に関心を持つこと。 教員が作成したプリントを整理するためのファイルを用意しておくこと。	

科目名	社会福祉	単位数	2	担当教員	萬燈（まんどう）　章雄（あきお）
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	社会の変容とニーズの動向によって、全ての社会福祉制度は日々刻々と変化し続けている。福祉政策の方向性は国の政策の重要な部分を占めており、選挙などにおいても政策論争が交わされる主なテーマでもある。保育士など福祉の実践者として、いかなる現場であっても業務に少なからず影響を与える。このことを踏まえて、基礎的な幅広い社会福祉の知識（歴史から各分野の現状に至るまで）を学習していく。
到達目標	１．今日までの社会福祉の変遷や社会福祉政策の動向を理解している。 ２．福祉の実践者として必要な、幅広い社会福祉の基礎知識を習得している。 ３．様々な福祉分野を知ることで福祉の実践者としての心構えを身につけている。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション～法律や条文の位置づけや読み方について学ぶ。 条約・法律・施行規則・要綱・条例など
	第２回	「福祉」とは何か？ 「福祉」の持つ意味について学ぶ
	第３回	社会福祉と経済との関係について学ぶ 福祉の歴史は経済学の歴史　主にイギリスの産業革命以降の救貧政策とその考え方などについて学ぶ
	第４回	社会福祉政策の歴史と経緯について学ぶ 主に戦後日本の社会福祉政策の変遷について
	第５回	社会福祉の法体系 社会福祉法を基礎とした現在の法体系について学ぶ
	第６回	公的扶助・社会保障制度 生活保護制度、医療保険制度について学ぶ
	第７回	障害者福祉① 「障害」の概念について　障害者権利条約やノーマライゼーションの理念について学ぶ
	第８回	社会福祉の概念と全体のフレームについて整理する 中間まとめ　理解度チェックとレポート提出
	第９回	障害者福祉② 身体障害・知的障害などについて学ぶ
	第 10 回	障害者福祉③ 精神障害について　「疾病」と「障害」の狭間で苦しまれてきた歴史的経緯について学ぶ
	第 11 回	高齢者福祉 沿革　年金制度と介護保険制度について学ぶ
	第 12 回	女性への福祉的支援 世界的な人口問題と女性の地位向上、対して日本では少子化と女性の社会進出、また DV 相談とその支援について学ぶ
	第 13 回	社会福祉の援助技術について① ソーシャルワーク・ケースワーク・グループワークなど
	第 14 回	社会福祉の援助と方法について学ぶ② ストレングスモデル・エンパワメントなど　まとめと復習チェック
	第 15 回	「社会福祉」全体と分野ごとの概要や課題について整理する。 レポート提出

授業に対する予習・復習		
	予習:ニュースなど福祉に関する社会問題について日頃から関心を持って情報収集してください。	復習：配付したプリント資料によく目を通しておくこと。不明な点があれば次の授業以降でも構わないので質問してください。
	予習に要する学習時間：概ね　60 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 120 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	評価方法としては、理解度チェックとレポート提出を２回ほど実施します。提出物は原則コメントをつけて返却します。多く理解がなされていない部分があればその都度説明をしていきます。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（50%）、授業態度（50%）
教科書	なし
参考文献	授業中に必要に応じて紹介します。
注意事項	学習範囲が幅広く、事例など交えてできるだけわかりやすく説明したいと思いますが、理解が難しいところもあるかと思いますので、不明な点は遠慮なく質問してください。福祉全般に関心を持つとともに授業マナーを守り積極的な受講を期待します。基本プリント資料配付で授業を行います。

科目名	児童家庭福祉	単位数	2	担当教員	しのはら　あみ 志濃原　亜美
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	児童家庭福祉の歴史的変遷と現代社会における児童家庭福祉の意義を理解する。そのうえで、児童家庭福祉の制度や実施体系など具体的なことを学ぶ。 また、少子化・母子保健・児童虐待・社会的養護・障害のある児童の対応などをはじめとする児童家庭福祉の現状と課題について理解し、特に児童家庭福祉と保育の関連性や児童の権利擁護などについて理解を深める。
到達目標	１．児童に関する法や施設など基本的なことが理解できる。 ２．児童をとりまく問題についての理解を深めたうえで、それらの早期発見の方法や解決への道筋を知ることができる。

授業計画		
	第１回	**オリエンテーション**（授業の概要の説明、持ち物確認、履修上の注意、自己紹介、授業を受けるに当たっての心構えについての確認等）
	第２回	**児童家庭福祉に関する法律①**（児童福祉法の概要）
	第３回	**児童家庭福祉に関する法律②**（児童福祉法の具体的内容）
	第４回	**児童に関する権利思想の流れ**
	第５回	**児童家庭福祉の歴史①**（明治期）
	第６回	**児童家庭福祉の歴史②**（明治期から戦前）
	第７回	**ＶＴＲ**（澤田美喜物語・・・福祉施設創設者の物語）課題感想文
	第８回	**児童家庭福祉専門職としての保育士**
	第９回	**児童福祉施設及び里親の概要①**（施設の種類）
	第 10 回	**児童福祉施設及び里親の概要②**（施設の目的）　**※中間レポート提出**
	第 11 回	**児童家庭福祉の行政機関**（児童相談所を中心に）
	第 12 回	**児童虐待①**（児童虐待の種類、法制度）
	第 13 回	**児童虐待の種類②**（児童虐待の実際）
	第 14 回	**小テスト、ＶＴＲ（子どもの貧困）、感想文**
	第 15 回	**小テスト返却及びまとめ**（これからの児童家庭福祉）

授業に対する予習・復習		
	予習：予習・復習シートをはじめに配布します。それに従い、毎時間次回の授業内容の予習を指示します（教科書を読んでくる、プリント穴埋め等）。	復習：授業で習った内容の復習（シートへの記入）
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね　90 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	小テストの解説と返却、レポートの返却を行います。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　筆記試験〈小テスト〉（40%）、レポート（35%）、課題（15%）、授業態度（　10%）
教科書	『新　保育ライブラリ　児童家庭福祉』（植木信一編著、北大路書房）
参考文献	『最新保育資料集 2018』（ミネルヴァ書房）
注意事項	普段から新聞・ニュースその他のメディアを通して児童家庭福祉の問題や課題について関心をもつこと。 教員が作成したプリントを整理するためのファイルを用意しておくこと

科目名	児童家庭福祉	単位数	2	担当教員	萬燈（まんどう）　章雄（あきお）
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	子どもを取り巻く環境の変遷と現在の児童家庭福祉について、幅広い観点から学習していく。子どもの支援者として必要な児童家庭福祉全般にわたる知識の習得を目指す。現在、大きく変化し続ける児童家庭福祉のフレームについて、できるだけ「今」と「これから」についても触れて学習していきたい。
到達目標	１．児童家庭福祉の歴史と変遷について理解している ２．児童を取り巻く課題と現状を知り、今後の子ども支援のあり方について熟慮する力を習得している。 ３．地域における支援者としての保育士の役割について身につけている。

授業計画

第１回	オリエンテーション～ 児童家庭福祉という考え方を学ぶ。ウェルビーィングという視点に立つこと。
第２回	児童家庭福祉の歴史① 子ども観の変遷について学ぶ。主にイギリスと日本の児童福祉。
第３回	児童家庭福祉の歴史②　愛護される児童から人として権利を持つ児童へ 戦後の日本の家庭児童福祉の変遷。社会福祉構造改革と少子高齢化などによる児童家庭福祉政策の変化を学習する。
第４回	地域でのこども支援について① 保育所・幼稚園・認定こども園というフレームについて学ぶ。その経緯について。
第５回	地域でのこども支援について②　子ども子育て支援法について 地域での在宅支援メニューとその経緯について学ぶ。延長保育・夜間保育・病児保育・小規模保育事業など
第６回	地域でのこども支援について③　子ども子育て支援法について 「密室育児」解消のための在宅支援メニューについて学ぶ。子育て支援拠点施設事業・ショートステイ・一時保育・ＦＳなど
第７回	地域でのこども支援について④　子ども子育て支援法について 「密室育児」解消のための在宅支援メニューについて学ぶ。全戸訪問事業・妊婦、乳幼児検診・養育支援訪問事業・家児相など
第８回	児童家庭福祉の変遷と扱うフレームの変化について 中間まとめ　理解度チェックとレポート
第９回	社会的養護の仕組みについて学ぶ① 児童相談所と措置制度について理解する。
第 10 回	児童虐待と現状について　介入的アプローチやハイリスクアプローチとは 現在の虐待の現状について事例を交えて学ぶ。虐待問題の持つ特性と虐待相談の構造について。
第 11 回	社会的養護の仕組みについて学ぶ② 児童福祉法で規定する児童福祉施設ついて理解する。
第 12 回	社会的養護現状と今後について 施設の小規模化と里親への委託推進について学ぶ。グループホームやファミリーホームなど。
第 13 回	里親制度について（ＤＶＤ学習） 里親制度と親権・養子縁組などについて。実際の里親さんの養育体験談などを通じて里親委託の現状を理解する。
第 14 回	これからの児童家庭福祉について 子どもの権利条約批准と児童福祉法の改正などを学習する。理解度チェックとレポート。
第 15 回	改めて保育士として子どもと向き合うスタンスについて整理する。 子ども目線でかかわると言うことについて学習する。

授業に対する予習・復習	予習：　児童虐待・少子化対策・教育問題・こどもの貧困など子ども支援に関わるニュースソースには日頃から関心を持ち目を通しておいてください。政策面では刻々と変化していくことが多いのがこの分野です。時事によっては上記シラバスにはないことも取り上げるかもしれません。	復習：内容が細かく、時系列で前後する説明もありわかりにくい部分もあるかと思いますので、配付したプリント資料によく目を通してください。不明な点があれば次の授業以降でも構わないので遠慮なく質問してください。
	予習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 120 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	評価方法としては、理解度チェックとレポート提出を２回ほど実施します。提出物は原則コメントをつけて返却します。多く理解がなされていない部分があればその都度説明をしていきます。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（50%）、授業態度（50%）
教科書	なし
参考文献	授業中にその都度紹介します。
注意事項	子どもに関わる支援者として必ず必要となる知識・情報が含まれていますので、常に問題意識を持ち、授業マナーを守り、積極的な受講を期待します。事例などを活用しできるだけわかりやすく説明しますが、不明な点は遠慮なく質問してください。基本配布するプリント資料で授業を行います。

科目名	音楽（1）ピアノ	単位数	2	担当教員	鹿戸（しかと） 一範（かずのり） 他
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	この授業では、保育現場で求められるピアノ演奏技術、その習得のために必要な音楽の基礎的な知識（楽典）、伴奏法を学ぶ。各ピアノ担当につき６名前後のグループに分かれ、その半数が個別の実技指導を受ける。それ以外の半数は楽典やソルフェージュを学ぶ。45 分で交代する。
到達目標	・基礎的な練習曲を学習することで、保育現場で求められるピアノ演奏技術を取得することができる。 ・実習や保育現場での実践に対応できるよう、こどものうたの弾き歌いができる。 ・保育の中の音楽に必要な楽典やソルフェージュへの理解の深めることによって、楽譜の読み書きができ、自らの力でピアノ演奏することができる。

授業計画

第１回	オリエンテーション〔授業内容、進め方について〕	第 16 回	臨時記号と半音階 教本 No.68~69 季節のうた（春）弾き歌い①
第２回	ハ長調の和音・分散和音の伴奏形① 教本 No.1~8	第 17 回	16 分音符を用いたリズム 教本 No.70~72 季節のうた（春）弾き歌い②
第３回	分散和音の伴奏形②・③ 教本 No.9~16	第 18 回	イ短調の主要三和音 教本 No.73~76 季節のうた（春）弾き歌い③
第４回	分散和音の伴奏形④ ４分音符と８分音符 教本 No.17~24	第 19 回	6 度・3 度の重音 教本 No.77~78 季節のうた（夏）弾き歌い①
第５回	ハ長調の下属和音 教本 No.25~26	第 20 回	3 連符 教本 No.79~80 季節のうた（夏）弾き歌い②
第６回	ヘ長調の主和音・下属和音・属和音 教本 No.27~32	第 21 回	ヘ長調よりハ長調への転調 教本 No.81 季節のうた（夏）弾き歌い③
第７回	ト長調の主和音・下属和音・属和音 教本 No.33~38	第 22 回	3 度の重音と 8 度の跳躍 教本 No.82 季節のうた（秋）弾き歌い①
第８回	いろいろな伴奏形①・②・③・④ 教本 No.39~42	第 23 回	弱起の曲 教本 No.83~84 季節のうた（秋）弾き歌い②
第９回	高い音の練習 教本 No.43~46	第 24 回	ニ長調とニ短調の主要三和音 教本 No.85~86 季節のうた（秋）弾き歌い③
第 10 回	3/8 拍子と 6/8 拍子 教本 No.47~48 生活のうたの弾き歌い①	第 25 回	装飾音 教本 No.87~90 季節のうた（冬）弾き歌い①
第 11 回	付点 4 分音符を用いたリズム 教本 No.49~54 生活のうたの弾き歌い②	第 26 回	複付点音符 教本 No.91 季節のうた（冬）弾き歌い②
第 12 回	ハ長調の音階 教本 No.55~58 生活のうたの弾き歌い③	第 27 回	教本 No.~92～94 季節のうた（冬）弾き歌い③
第 13 回	ヘ長調の音階 教本 No.59~61 生活のうたの弾き歌い④	第 28 回	マーチ、その他① 教本 No.~95～98
第 14 回	ト長調の音階 教本 No.62~67 生活のうたの弾き歌い⑤	第 29 回	マーチ、その他② 教本 No.~99～102
第 15 回	これまでの授業のまとめと発表	第 30 回	マーチ、その他③ 教本 No.~103～107

授業に対する予習・復習	予習： 限られた個人レッスンの時間を有効に活用できるよう、与えられた課題曲を中心に十分に練習をしたうえで受講する。	復習： 授業内で指摘された点を中心に、各自練習方法を工夫し曲を仕上げる。
	予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。**
課題へのフィードバック	実技試験終了後、個別に講評を行う。	
成績評価	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（１０％）、実技（６０％）、授業態度（30%）	
教科書	『教職課程のための大学ピアノ教本』（大学音楽教育研究グループ、教育芸術社） 『簡易伴奏による 実用 こどものうた』（田口雅夫・高崎和子共編、カワイ出版）	
参考文献	必要に応じてプリントを配布する。	
注意事項		

科目名	音楽（2）ピアノ	単位数	2	担当教員	鹿戸（しかと） 一範（かずのり） 他
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	音楽（1）で身につけたピアノ演奏の技術と表現力をさらに発展させ、子どものうたの弾き歌いを中心に学ぶ。登園から降園までの一日の流れの中にある生活のうた、春・夏・秋・冬の季節のうた、行事のうたなど様々な子どものうたをはじめ、幼稚園・保育所実習や就職試験での課題曲など、それぞれの状況に応じて進める。各クラスを担当する約４名の教員より指導を受ける。
到達目標	１．音楽（1）で身につけた知識、演奏技術を深め、教育実習や保育現場での実践に対応できるよう、より多くのこどものうたの弾き歌いができる。 ２．コードネームを用いた楽譜から、簡単な伴奏付けをすることができる。

授業計画

第１回	オリエンテーション	第 16 回	季節のうた　9 月① 「とんぼのめがね」「つき」他
第２回	園生活のうた　弾き歌い① 「おはよう」「おはようのうた」他	第 17 回	季節のうた　9 月② 「きらきら星」「どんぐりころころ」他
第３回	園生活のうた　弾き歌い② 「おべんとう」「おかえりのうた」他	第 18 回	季節のうた　10 月① 「やきいもグーチーパー」「きのこ」他
第４回	園生活のうた　弾き歌い③ 「さよならのうた」他	第 19 回	季節のうた　10 月② 「小さい秋みつけた」「まつぼっくり」他
第５回	季節のうた　4 月①　他 「あくしゅでこんにちは」「せんせいとおともだち」	第 20 回	季節のうた　11 月① 「大きなくりの木の下で」「まっかな秋」他
第６回	季節のうた　4 月② 「チューリップ」「ちょうちょう」「めだかの学校」他	第 21 回	季節のうた　11 月② 「夕やけこやけ」「たきび」他
第７回	季節のうた　5 月① 「手をたたきましょう」「こいのぼり」他	第 22 回	季節のうた　12 月① 「あわてんぼうのサンタクロース」他
第８回	季節のうた　5 月② 「ぶんぶんぶん」「むすんでひらいて」他	第 23 回	季節のうた　12 月② 「ジングルベル」他
第９回	季節のうた　6 月① 「あめふりくまのこ」「あまだれぽったん」他	第 24 回	季節のうた　1 月① 「お正月」「雪」他
第 10 回	季節のうた　6 月② 「とけいのうた」「すてきなパパ」他	第 25 回	季節のうた　1 月② 「雪のこぼうず」「雪のぺんきやさん」他
第 11 回	季節のうた　7・8 月① 「たなばたさま」「うみ」他	第 26 回	季節のうた　2 月① 「まめまき」「」他
第 12 回	季節のうた　7・8 月② 「おばけなんてないさ」「シャボン玉」他	第 27 回	季節のうた　2 月② 「春がきた」「どこかで春が」他
第 13 回	あそびのうた① 「グーチョキパーでなにつくろう」他	第 28 回	季節のうた　3 月① 「うれしいひなまつり」「思い出のアルバム」他
第 14 回	あそびのうた② 「とんとんとんとんひげじいさん」他	第 29 回	季節のうた　3 月② 「さよならぼくたちのほいくえん」「一年生になったら」
第 15 回	あそびのうた③ 「むすんでひらいて」「こぶたぬきつねこ」他	第 30 回	コードネームを用いた伴奏づけ

授業に対する予習・復習	予習:毎日の練習を積み重ねることが上達の重要なポイントとなるため､授業に向けて各自２～３曲を選択し練習しておく。	復習：授業内で指摘された点を中心として各自練習方法を工夫し曲を仕上げる。
	予習に要する学習時間：概ね　30 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね　30 分を目安とする。**
課題へのフィードバック	実技試験終了後、個別に講評を行う。	
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 成績評価の方法：作品・発表（３０%）、実技（４０%）、授業態度（３０%）	
教科書	『簡易伴奏による　実用　こどものうた』（田口雅夫・高崎和子共編、カワイ出版）	
参考文献	必要に応じてプリントを配布する。	
注意事項		

科目名	国語教育	単位数	2	担当教員	柳井（やない）　まどか
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	この授業では、将来保育者として国語教育に携わる上で必要な「読解力」や「文章表現力」、「話す力・聞く力」を育成する。具体的には、敬語の使い方、手紙の書き方等の基本ルールを確認した後、論理的思考力・表現力をレポートの書き方を通して習得する。さらに、グループディスカッション等を通して、コミュニケーション能力を、向上させていく。
到達目標	１．敬語の使い方、手紙の書き方等に関する知識を理解し、実践的な活用ができる。 ２．与えられた文章を正確に読み取り、短時間で的確に要約できる。 ３．段落の役割を理解し、構成を立て、論理的な文章を作成することができる。 ４．話し合いの場で、論理的かつ簡潔に自分の意見を述べ、他の参加者と協力して議論を進めることができる。

授業計画

第１回	言葉とコミュニケーション：　保育者として必要なコミュニケーション能力とは何か
第２回	敬語の種類と使い方①：　敬語の基本ルール
第３回	敬語の種類と使い方②：　尊敬語演習
第４回	敬語の種類と使い方③：　謙譲語演習
第５回	敬語の種類と使い方④：　応用編　―ビジネス敬語―
第６回	書簡文の書き方①：　書簡文の基本ルール
第７回	書簡文の書き方②：　書簡文演習
第８回	論理的文章の書き方①：　論理的文章の構造を理解する
第９回	論理的文章の書き方②：　文章の的確な要約
第 10 回	論理的文章の書き方③：　構成の立て方と段落の役割
第 11 回	論理的文章の書き方④：　レポートの書き方
第 12 回	推敲の仕方と相互批評　：日本語の正しい使い方
第 13 回	ディスカッション①：　様々なディスカッションの目的と方法、意見と根拠の述べ方
第 14 回	ディスカッション②：　インバスケット方式演習
第 15 回	国語教育まとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：　具体的な予習課題については、授業時に指示する。	復習：　授業で学んだ内容を確認し、指示された提出課題等に取り組むこと。
	予習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 120 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	授業内課題（語彙力プリント、テーマ別課題）に関しては、授業で相互批評、解説を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（70%）、授業態度（30%）
教科書	なし。必要に応じて、プリントを配布する。
参考文献	必要に応じて、授業中に紹介する。
注意事項	語彙力向上のため、毎回プリント演習を行うが、間違えた箇所を必ず確認・復習すること。 各単元終了時に、確認小テスト（または課題提出）を実施する。 成績評価の「授業態度」には、ディスカッション等での貢献度を含む。

科目名	数量教育	単位数	2	担当教員	なかむら よういち　ほしの おさむ 中村 陽一・星野 治
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

講義の内容	幼児の数に対する感覚は日常生活の体験の中から養われる。本講では、そのための環境構成と保育者の援助について考える。また、小学校算数科の概要と、幼児教育との連続性についても学ぶ。さらに、身の回りのあらゆる事象を「数」や「量」の観点から見つめ直すことを通して、「数」や「量」の意味するものや、「数」や「量」の取り扱われかたを再確認する。
到達目標	１．幼児が数的感覚を身につけるための適切な環境設定について、自分の考えを述べることができる。 ２．小学校算数科の概要と幼児教育との学び連続性を理解している。 ３．私たちが幼少時から慣れ親しんできた「数」や「量」が、私たち自身の社会感覚の形成過程における重要な鍵の一つとなっていることを、各人なりに理解できる。

授業計画		
	第１回	ガイダンス（授業の全体計画、成績評価の方法などについて説明）
	第２回	保育内容と数量教育－「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」における数量教育の位置づけ
	第３回	子どもと数量理解－子どもは数をどのように覚えるか、子どもが生活で出会う数と種類
	第４回	子どもの生活と遊びのなかの数－3.4.5 歳児の事例
	第５回	小学校算数科の目標と内容①－第 1.2.3 学年
	第６回	小学校算数科の目標と内容②－第 4.5.6 学年
	第７回	子どもの学びの連続性-幼児の数量教育と小学校算数科教育の連続性について
	第８回	授業前半の振り返りとまとめ
	第９回	今までに学んだ算数・数学の振り返り（問題演習）①－“休眠状態の頭脳”に活を入れる
	第 10 回	文芸作品の中の数・量①－画像作品（絵本など）の鑑賞
	第 11 回	数・量に関する先人の知恵－数の不思議な性質、アナログ時計にまつわる特殊な時刻、パラドックス、その他
	第 12 回	文芸作品の中の数・量②－画像作品（映画など）の鑑賞
	第 13 回	今までに学んだ算数・数学の振り返り（問題演習）②－“子どもの質問から逃げない大人”を目指す
	第 14 回	文芸作品の中の数・量③－文章作品の鑑賞
	第 15 回	授業全体の振り返りとまとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：授業中に次回の内容と予習すべき事項を伝える。	復習：小テストの解説後に復習すべき事項を伝える。
	予習に要する学習時間：概ね 120 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	授業中に小テストを実施し、その後、解答の解説と振り返りを行う。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　小テスト（70%）、授業態度（30%）
教科書	『保育所保育指針/幼保連携型認定こども園教育・保育要領/幼稚園教育要領』全国保育士会
参考文献	必要に応じて紹介する。 他の授業で指定された教科書を参照することがある。
注意事項	保育者としての自覚と問題意識を持って授業に臨むこと。

科目名	子どもの食と栄養	単位数	2	担当教員	ひらやまもとこ　ほりみち 平山素子・堀美稚
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	子どもを取り巻く食環境を把握し、胎児期から学齢期の発育発達と栄養・食事との関係を理解する。子ども一人ひとりの心理状態や食事の摂取状況を観察し、適切な食事の提供と介助、さらには食生活のあり方について援助できる力を身につけることを目的とする。
到達目標	１．子どもの発育・発達と食生活・栄養について理解している ２．月年齢に見合った適切な食事提供と介助を行う力を身につけている ３．自分自身の望ましい食生活の構築に取り組んでいる

授業計画

第１回	オリエンテーション、調理室の使い方	第 16 回	調理実習・・・離乳期④（調理実習）
第２回	子どもの発育・発達と栄養	第 17 回	保育現場における食事を考える
第３回	授乳期の栄養①　母乳栄養	第 18 回	幼児期の栄養①成長と食事・栄養について
第４回	授乳期の栄養②　人工栄養	第 19 回	幼児期の栄養②保育士・保護者の悩みを通して考える
第５回	調理実習・・・授乳期①（デモンストレーション）	第 20 回	児童福祉施設の食事と栄養
第６回	調理実習・・・授乳期②（調理実習）	第 21 回	調理実習・・・幼児食（弁当）①（デモンストレーション）
第７回	離乳の必要性について	第 22 回	調理実習・・・幼児食（弁当）②（調理実習）
第８回	離乳期の栄養①（5,6 か月頃）	第 23 回	体調不良時の食事と栄養
第９回	離乳期の栄養②（7,8 か月頃）	第 24 回	障害児の食事と栄養
第 10 回	食物アレルギーについて	第 25 回	調理実習・・・幼児食（行事食）①（デモンストレーション）
第 11 回	調理実習・・・離乳期①（デモンストレーション）	第 26 回	調理実習・・・幼児食（行事食）②（調理実習）
第 12 回	調理実習・・・離乳期②（調理実習）	第 27 回	学童期の食事と栄養
第 13 回	離乳期の栄養③（9~11 か月頃）	第 28 回	妊娠・授乳期の食事と栄養
第 14 回	離乳期の栄養④（12~18 か月頃）	第 29 回	食事のマナー・箸の使い方等について
第 15 回	調理実習・・・離乳期③（デモンストレーション）	第 30 回	食べることの意義と栄養・食品の知識

授業に対する予習・復習	予習：教科書に目を通す	復習：調理実習毎に以下をレポート作成し提出する ・調理実習の結果・考察をまとめる ・講義内容をまとめる ・テーマについて調べる
	予習に要する学習時間：概ね 15 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 45 分を目安とする。**
課題へのフィードバック	作成したレポートにコメントを行う	
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　レポート（６０％）、授業態度（４０％）	
教科書	『改訂 子どもの食と栄養』（岡﨑光子 編、光生館）	
参考文献	『新版 子どもの食生活-栄養・食育・保育-』（上田玲子 編、ななみ書房）	
注意事項	授業を通して、自分自身の望ましい食生活の構築にも取り組んで欲しい。	

科目名	食教育論	単位数	2	担当教員	ひらやま もとこ 平山 素子
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	保育園、幼稚園において積極的に食教育を行うことが求められている。食の営みは生きる力であり、子ども達の食生活を健康的に演出できるかどうかは、大人の意識にかかっている。 子ども達に基本的な食知識を伝え、様々な体験保育を行うための技術を身につけることを目的とする。 加えて、保護者へのアプローチの方法を学ぶ。
到達目標	１．子どもを取り巻く食を含めた生活環境を把握している ２．子どもに食の知識を伝える技術や食育を実践するための技能を獲得している ３．保護者に食の重要性を伝え、実践を促すことができる

授業計画

第１回	食教育の目的と必要性	
第２回	食教育の方法	
第３回	小児期の食をめぐる問題を考える	①食物アレルギー
第４回		②欠食
第５回		③孤食
第６回		④食習慣
第７回		⑤歯磨きとむし歯
第８回		⑥咀しゃく
第９回	媒体作成－給食便り	
第 10 回	子どもの発達に即した食教育を考える	①食のマナー
第 11 回		②食と栄養の知識
第 12 回		③偏食
第 13 回		④調理保育
第 14 回	保護者への啓発の方法	
第 15 回	工場見学 または 調理実習	

授業に対する予習・復習	予習：前もって授業内容を予告するので、テーマについて調べ、自分の考えをまとめておく	復習：課題（給食便り作成）に向けて、授業内容について考察し、資料を集める
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	毎回、学生の発表に対してコメント・評価を行う 作成した媒体の講評を行う
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　課題（６０％）、授業態度（４０％）
教科書	なし
参考文献	『子どもの食事』（根岸宏邦著、中央公論新社）
注意事項	授業の中で随時ディスカッションを行うので、積極的に参加して欲しい。

科目名	子どもの保健Ⅱ	単位数	1	担当教員	鳥海（とりうみ）　弘子（ひろこ）
ナンバリングコード		授業形態	演習		

授業の内容	子どもの保健Ⅰの学習をもとに、子どもの健康の維持・増進を図り、健やかな成長発達のため、保育者としての技術を身につけることが重要である。子どもの発育、発達に応じた実践的な技術の習得のため「乳幼児の養護」「身体測定」「保健活動・計画」「感染症の対応」「健康状態の把握と対応」「事故防止・応急手当」「保護者支援」「関連機関との連携」などについて学ぶ。
到達目標	１．子どもの発育・発達を評価する方法を身につける。 ２．子どもの体調の変化に応じた保健的な対応方法を身につける。 ３．子どものけがなどに対する応急処置・事故防止・安全管理について理解する。 ４．地域の保健活動及び関係機関との連携について理解する。

授業計画		
	第１回	子どもの発育の測定方法と評価
	第２回	子どもの生理的機能と発達（体温・呼吸・脈拍）
	第３回	子どもの養護と保健①（抱っこ・おんぶ・寝かせ方）
	第４回	子どもの養護と保健②（おむつ交換）
	第５回	子どもの養護と保健③（衣服の着脱・沐浴）
	第６回	子どもの養護と保健④（食事・口腔ケア）
	第７回	子どもの健康状態の把握と対応
	第８回	感染症の予防と対策
	第９回	個別な配慮を必要とする子どもへの対応①（慢性疾患）
	第 10 回	個別な配慮を必要とする子どもへの対応②（アレルギー対応・エピペン）
	第 11 回	子どもの事故防止と安全管理・災害への備えと危機管理
	第 12 回	子どもの健康支援（保健計画・健康教育・保健だより）
	第 13 回	子どものけがと応急手当・薬
	第 14 回	子どもと心肺蘇生法
	第 15 回	心とからだの健康問題と地域の保健活動との連携

授業に対する予習・復習		
	予習：　テキストの該当箇所を読んでおくこと。	復習：　授業で学んだ知識を復習し定着を図ること。
	予習に要する学習時間：概ね　20 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね　25 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（〇）する／（　）しない 成績評価の方法：筆記試験（６０％）。レポート・課題（１０％）、実技（２０％）、授業態度（１０％）
教科書	『これならわかる！子どもの保健演習ノート　子育てパートナーが知っておきたいこと』改訂第３版 （小林　美由紀、診断と治療社）
参考文献	随時紹介する
注意事項	１．演習時はエプロン・三角巾（バンダナ）を着用し、爪・髪などの身だしなみを整えること。 ２．演習の準備から片付けまで積極的に行うこと。 ３．演習はグループ活動のため、チームワークを大切にすること。 ４．配布資料はファイリングをし、毎回の授業に持参すること。

科目名	子どもの保健Ⅱ	単位数	1	担当教員	まつなが　しずこ 松永　静子
ナンバリングコード		授業形態	演習		

授業の内容	子どもの保健Ⅰでの学習をもとに、保育所、幼稚園、児童施設など子どもと関わる現場で、子どもの発育、発達、健康状態を実際に評価し、体調の変化を把握し、病気の看護、事故のときの対応や予防が速やかにできるよう、技術を習得する。
到達目標	子どもの発育、発達、健康状態を評価する方法を身につける 子どもの体調の変化に対応して、看護する方法を身につける 子どもの事故や怪我の対応と予防する方法を身につける。

授業計画		
	第1回	授業ガイダンス　子どもの健康状態の観察
	第2回	子どもに多い症状と看護
	第3回	バイタルサインの意義と測定法、環境衛生
	第4回	子どもの発育の測定法と評価
	第5回	子どもの発達の評価と発達にあった保育環境づくり
	第6回	子どもの養護と保清の仕方
	第7回	慢性疾患の子どもの養護の仕方（アレルギー性疾患を含む）
	第8回	子どもの事故と安全管理　安全教育　危機管理
	第9回	子どもに多発する事故と応急処置の意義と方法
	第10回	消毒法、救急処置に必要な医療器具と使用方法
	第11回	災害と事故　地域や関係機関との連携
	第12回	保育所のリスクマネージメントとは
	第13回	保育者の健康管理　保護者の健康教育
	第14回	実習のまとめ　復習
	第15回	復習テスト

授業に対する予習・復習		
	予習：　教科書を読んでおく	復習：1回～3回　4回～5回　6回～7回　8回～9回　10回～11回　と単元ごとにミニテスト実施。
	予習に要する学習時間：概ね　10分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね60分を目安とする。**

課題へのフィードバック	ミニテストで自己評価を行い、自己課題を明確にして　復習テストにのぞむこと。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない　ミニテスト（自己採点方式） 成績評価の方法：復習テスト（６０％）、レポート・課題（　％）、作品・発表（　％）、実技（３０％）、授業態度（10　％）
教科書	『書　　名』（著者名、出版社名） 子どもの保健演習ノート　診断と治療社
参考文献	『書　　名』（著者名、出版社名）
注意事項	

科目名	子どもの保健Ⅱ	単位数	1	担当教員	味田（みた）　徳子（のりこ）
ナンバリングコード		授業形態	演習		

授業の内容	子どもの心と身体の健康を保持・増進するための保健活動について「子どもの保健Ⅰ」で得た知識を実践できるように演習を重ね、習得することを目的とする。 保育のための養護技術、体調不良時の対応やケガの応急手当等の保健的な内容及び保健管理の方法について演習を通して理解を深める。
到達目標	１．子どもの健康状態の評価ができる。 ２．演習を通して、保育の現場で活かせる技術を身につけている。 ３．病気や事故発生時など、緊急時の対応ができる。 ４．集団保育における環境と安全対策が理解できる。

授業計画

第１回	オリエンテーション。グループ分け。 演習に臨む姿勢、課題説明。
第２回	子どもの発育・発達の観察と評価① 発育・発達
第３回	子どもの発育・発達の観察と評価② 計測・評価
第４回	子どもの健康観察と健康管理①
第５回	子どもの健康観察と健康管理② バイタルサイン測定
第６回	子どもの養護と教育① 抱っこ、おんぶ、オムツ交換
第７回	子どもの養護と教育② 沐浴、衣類の着脱、鼻・耳のケア
第８回	子どもの養護と教育③ 清潔（手洗い、歯磨き、爪切り）
第９回	**＝実技試験＝**
第 10 回	子どもの生活習慣 睡眠、排泄、栄養
第 11 回	体調不良（発熱、嘔吐、下痢、咳）時の対応 罨法、汚物処理、洗浄、体位
第 12 回	感染症の予防と対策 **＝保健だより作成＝**
第 13 回	子どもと薬 剤形における管理、与薬法　　エピペン練習
第 14 回	保育における応急手当① 三角巾、包帯法、創処置
第 15 回	保育における応急手当② 乳幼児の AED、窒息対応

授業に対する予習・復習	予習：授業計画を参考に教科書で内容を確認する。	復習：授業で得た知識を確認する。
	予習に要する学習時間：概ね　15 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね　30 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	レポート・課題は採点後、返却する。 実技試験前に試験チェックポイントについて確認し、実施後振り返る。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　実技試験（30%）、レポート・課題（40%）、授業態度（20%）、身だしなみ（10%）
教科書	『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅱ』（鈴木美枝子編著、創成社）
参考文献	
注意事項	１、演習時は、動きやすい服装、エプロンを着用し、爪・髪などの身だしなみを整えて下さい。 ２、演習、準備、後片付けなど主体的に取り組むことで、授業態度における積極性と評価します。

科目名	子どもの保健Ⅱ	単位数	1	担当教員	福永（ふくなが）　知久（ともひさ）
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	子どもの特性をふまえ、健やかな成長発達を支援するために、乳幼児の基本的な生活援助技術と共に、体調不良時の養護技術および子どもの事故に対する応急処置の具体的な方法について、実技を通して学ぶことを目的とする。
到達目標	１．実技を通して乳幼児の基本的な生活援助技術を身につけている。 ２．子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を理解している。 ３．子どもの事故の特性をふまえ、救急時の対応や事故防止、安全管理について理解している。 ４．現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解している。

授業計画		
	第１回	ガイダンス、子どもの健康観察と健康管理
	第２回	子どもの発育・発達の観察と評価①発育発達
	第３回	子どもの発育・発達の観察と評価②測定方法
	第４回	子どもの発育・発達の観察と評価③発育の評価
	第５回	子どもの養護と教育①横抱っこ、縦抱っこ、おくるみ法
	第６回	子どもの養護と教育②おむつ交換（紙おむつ・布おむつ）
	第７回	子どもの養護と教育③着脱、沐浴
	第８回	子どもの養護と教育④栄養
	第９回	子どもの養護と教育⑤生活習慣
	第10回	子どもの体調不良などへの対応①症状への対応
	第11回	子どもの体調不良などへの対応②感染症の予防と対策
	第12回	子どもの心とからだの健康づくりのために①ほけんだより作成
	第13回	子どもの心とからだの健康づくりのために②ほけんだより発表
	第14回	保育における応急手当
	第15回	望ましい保育環境と安全対策

授業に対する予習・復習		
	予習：授業計画を参考に教科書を熟読する	復習：教科書および配布プリント・ノートを用いて振り返りを行う
	予習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね20分を目安とする。**

課題へのフィードバック	課題・試験に対しコメントや解説を行います
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（40%）、レポート・課題（10%）、作品・発表（10%）、実技（25%）、授業態度（15%）
教科書	『書　　名』（著者名、出版社名） 『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅱ』（鈴木美枝子編著、創成社）
参考文献	必要時資料配付
注意事項	実技に相応しい服装で臨むこと。 グループ演習のため、チームワークを大切に積極的に臨むこと。 私語などにより授業を妨害する場合は、退室を命じることがある。

科目名	家庭支援論	単位数	2	担当教員	二宮（にのみや）　祐子（ゆうこ）
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	本科目は、保育士養成課程において、『保育所保育指針』第４章 子育て支援について学ぶための必修科目（講義）として設定されている。15 回の授業を通じて、保育所をはじめとする児童福祉施設において保育士が行うべき家庭支援の理念と方法について学ぶ
到達目標	１．「子どもの育ち」につながる家庭支援のあり方とその意義について理解する。 ２．家庭支援における保育者の役割と職務内容について理解する。 ３．様々な人々と連携した支援方法の基礎を習得する。

授業計画		
	第１回	家庭支援の意義
	第２回	家庭支援が求められる社会的背景①：家族の人間関係の変容
	第３回	家庭支援が求められる社会的背景②：地域社会の変容
	第４回	家庭支援が求められる社会的背景③：男女共同参画社会とワーク・ライフ・バランス
	第５回	家庭支援にかかわる様々な制度
	第６回	保育士が行う家庭支援の基本的理念
	第７回	保育士が行う家庭支援の価値と倫理
	第８回	保育士が行う家庭支援のプロセス
	第９回	保育士が行う家庭支援の方法の基本
	第 10 回	園内・園外の連携と社会資源
	第 11 回	子育て支援サービスの概要
	第 12 回	保育所における家庭支援の事例検討
	第 13 回	乳児院・児童養護施設における家庭支援の事例検討
	第 14 回	地域子育て支援の事例検討
	第 15 回	まとめと今後の課題

授業に対する予習・復習	予習：	復習：
	次回授業の教科書該当ページを読む。 前章に示された予習用文献を読む。	教科書の演習課題を解く 章末に示された復習用文献を読む。
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	小テストおよび提出された課題に対し、添削やコメントを行う。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：レポート・課題（60%）、授業態度（40%）
教科書	二宮祐子『子育て支援：１５のストーリーで学ぶワークブック』萌文書林
参考文献	厚生労働省『保育所保育指針 解説書』フレーベル館
注意事項	提出物は、指示された書式に則って、期日までに、確実に提出すること。

科目名	相談援助	単位数	1	担当教員	こむろ　たいじ 小室　泰治
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	相談援助において必要な方法や知識・及び技術を学び、相談者として自己理解を深め、保育現場において相談援助の理論や方法を活用できる技術を身につけることをねらいとし、具体的展開について事例など演習を交えながら解説する。
到達目標	１．相談援助の意義、機能、対象を説明することができる。 ２．相談援助の方法、技術を説明することができる。 ３．地域にある社会資源の活用方法を説明することができる。

授業計画

第１回	相談援助とは何かについて学ぶ 保育実践の中でなぜ相談援助が必要になったのかを理解する
第２回	相談援助の理論と歴史的変遷について学ぶ 相談援助の定義と理論を理解する
第３回	相談援助の基本的枠組みを学ぶ 相談援助には、直接援助技術、間接援助技術があることを理解する
第４回	援助技術の理念と価値について学ぶ バイステックの援助関係を成立させるための７つの原則を学ぶ
第５回	相談援助の展開過程 面接の開始から問題解決の終結までの過程を学ぶ
第６回	相談援助を行う上での倫理を学ぶ 専門職として守るべき倫理綱領を学ぶ
第７回	保育現場における直接援助技術の実際 保育現場で保護者の面接やグループワークの方法について事例を通して修得する
第８回	保育所におけるコミュニティーワーク 地域に根ざした保育所のあり方探究する
第９回	地域にある社会資源の活用 相談援助に係る関係機関や地域にある社会資源を探索する
第 10 回	事例研究 育児不安とストレスに関する相談事例を通して傾聴や受容の仕方を学ぶ
第 11 回	事例研究 母子関係と母親の自立に関する相談事例を通して傾聴や受容の仕方を学ぶ
第 12 回	事例研究 母子分離不安に関する相談事例を通して傾聴や受容の仕方を学ぶ
第 13 回	自己覚知とスーパービジョン 援助者の自己覚知を育てるための方法としてのスーパービジョンを学ぶ
第 14 回	保育の場面とソーシャルワーク活用の可能性 日々の保育実践の“意識”的な積み重ねであることを学ぶ
第 15 回	相談援助における課題 まとめ

授業に対する予習・復習	予習：	復習：
	日ごろからニュースや新聞報道に目を通し､子育ての悩みや地域の課題について考えておくこと。	内容・ポイントを整理する
	予習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。**

課題へのフィードバック	定期試験後に解答を示し解説する
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（５０%）、発表（４０%）、授業態度（１０%）
教科書	『子どもたちの生活を支える相談援助』（小野澤昇・田中利則・大塚良一編著、ミネルヴァ書房，2015）
参考文献	『ケースワークの原則』（F・P バイステック著、誠信書房）
注意事項	１．授業中スマートホンなどはカバンの中に入れておくこと。 ２．グループワークやロールプレイなども行うので、積極的に参加すること。

科目名	相談援助	単位数	1	担当教員	齋藤（さいとう）　新一（しんいち）
ナンバリングコード		授業形態	演習		

授業の内容	相談援助を行なう上で必要なソーシャルワーク(ケースワーク・グループワーク)について学ぶ。具体的には、保育とソーシャルワークのかかわり、対人援助の方向性を示す価値、倫理、クライエントとの援助関係の形成を図るバイスティックの７原則、相談援助の各展開過程の内容、相談援助面接方法(ロールプレイ)、グループの人と人との相互作用の働きによって個人の課題解決を図るグループワーク、総合的事例分析により実践的相談援助の実際等について学習していく。
到達目標	１．相談援助の意義と機能について学び、相談者の最善の利益を図ることを理解することができる。 ２．相談援助の原理・原則について学び、相談援助の理論を理解することができる。 ３．相談援助の展開過程について学び、相談者の問題解決に向けた道筋とその方法を理解することができる。 ４．個別援助技術と集団援助技術について学び、個別支援と小集団を活用した支援を理解することができる。

授業計画		
	第１回	相談援助の意義と機能 相談援助とは何か、何故、保育士が相談援助を学ばなければならないのかについて学ぶ。
	第２回	相談援助とソーシャルワーク 相談援助とソーシャルワークの関係について学ぶ。
	第３回	相談援助の価値と倫理 援助を方向づける価値と倫理が相談援助の前提条件であることを学ぶ。
	第４回	相談援助の原理・原則① ノーマライゼーション、自立支援、医学モデル・生活モデル・社会モデル等について学ぶ。
	第５回	相談援助の原理・原則② 自己覚知、エンパワーメント、パターナリズム、ソーシャルインクルージョン等について学ぶ。
	第６回	個別援助技術の定義と原則① ケースワーク誕生の経緯、個別援助技術の成立条件等について学ぶ。
	第７回	個別援助技術の定義と原則② バイスティックの７原則、人権尊重等について学ぶ。
	第８回	相談援助の展開過程 ケース発見からターミネーション・アフターケアまでの相談援助の展開過程と各段階に於いて行なうべきことについて学ぶ。
	第９回	相談援助の展開過程の事例演習 事例に基づき、相談援助の展開過程を実践的に学ぶ。
	第10回	相談援助の面接技法① 相談援助面接の構造について学ぶ。
	第11回	相談援助の面接技法② 関わり技法の習得、実際の事例に基づき、適切な相談援助面接を演習形式で実践的に学ぶ。
	第12回	個別援助技術の総合事例分析 個別援助技術を総合的に事例分析により実践的に学ぶ。
	第13回	集団援助技術の定義と原則① 個別援助技術と集団援助技術の違い、集団の効果・展開過程、グループワークに於ける援助モデル等について学ぶ。
	第14回	集団援助技術の定義と原則② グループワークの構成要素、事例演習による集団援助技術の実際について実践的に学ぶ。
	第15回	相談援助に於けるリスクマネジメント 秘密保持、安全配慮義務違反、職員間の指示命令系統の不統一によるリスク、ハインリッヒの法則、クオリティインプルーブメント等について学ぶ。

授業に対する予習・復習		
	予習：現在の社会の中で起きている、さまざまな福祉の問題について、学生自身があらかじめ、新聞や雑誌等により、事前調査を行い、その実態について学ぶ。	復習：毎回授業終了後に、本授業で学んだこと、残された課題について振り返りを行い、残された課題についての事後学習を行なう。また次回の授業への質問内容について検討する。
	予習に要する学習時間：概ね４５分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね４５分を目安とする。**

成績のフィードバック	
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 成績評価の方法：筆記試験（５０％）、レポート・課題（２０％）、授業態度（３０％）
教科書	なし
参考文献	『保育者のための相談援助』（小林育子・小舘静枝・日高洋子、萌文書林） 『演習・保育と相談援助』（佐藤伸隆・中西遍彦、みらい） 『社会福祉援助技術』（松本寿昭（編著）、同文書院） 『相談援助の理論と方法Ⅰ』（社会福祉士養成編集委員会、中央法規） その他の文献を参考・引用する場合はその都度紹介する。
注意事項	授業を妨げる行為（私語・携帯電話等）については、席替え、その他の処置を講ずる。

科目名	保育相談支援	単位数	1	担当教員	こむろ たいじ 小室 泰治
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	保育者は保育相談支援の主な担い手として求められている。近年の社会状況の変化に伴い、子育てについて身近に相談できる人は以前より少なくなってきている。 授業では保育相談支援の意義や基本について考え、保育士の専門性を生かした支援とは何かを考えることを目的とする。また、保育現場や児童施設での支援の実際を通して、保育士として保護者を支援するために必要な視点を身につける。
到達目標	１．保育者が子育て相談支援を行うことの意義を説明することができる。 ２．保育相談支援の実施方法を解説することができる。 ３．保育所などの児童福祉施設において、保護者支援のあり方について説明ができる。 ４．自己理解を深め、保育者として自分自身のあり方を考えることができる。

授業計画		
	第１回	保育相談とは何か 保育相談の意義について学ぶ
	第２回	保育相談支援の方法 人間の尊厳を重視した支援の原則を理解する
	第３回	保護者支援の流れ 相談受理から終結までの流れを理解する
	第４回	保護者との関係づくり 保護者に信頼される保育者像を考えていく
	第５回	保育の環境構成を生かした保護者支援 環境構成の原理について学び、基本となる支援のあり方について事例を通して理解する
	第６回	地域の資源活用と関係機関との連携 地域で相談事業を行っている関係機関の役割を学ぶ
	第７回	地域の子育て相談における保育相談支援の実際 3 歳児未満の家庭で育つ子どもとその保護者の姿を把握し、親子への地域での支援について学ぶ
	第８回	相談実践事例から考える グループワーク：子育てに関する相談事例を通して傾聴のあり方、支援のあり方を学ぶ
	第９回	保護者の養育力向上支援 保護者の養育力を高める支援には保育者の資質が重要であることを学ぶ
	第 10 回	保護者の養育力向上支援 保護者の養育力を高める支援には保育者の資質が重要であることを学ぶ
	第 11 回	障害のある子どもをもつ保護者支援の実際 保育所における特別な配慮を要する子どもと家庭への支援を学ぶ
	第 12 回	保護者同士の関係を改善するための支援の実際 ママ友同士のトラブル解決方法について事例を通して考える
	第 13 回	保育所で行われるケースカンファレンスの実際 課題を抱える子どもと保護者への支援のあり方についてカンファレンスを通して学ぶ
	第 14 回	子育てサロンや育児サークルの実際 地域子育て支援センター等で行われている子育てサロンや育児サークルの意義を考える
	第 15 回	要保護児童の家庭に対する支援の実際 ハイリスク家庭の早期発見と対応方法について考える

授業に対する予習・復習	予習： 日ごろからニュースや新聞報道などに目を通し、母親の子育ての悩みなどについて把握しておくこと。	復習： 内容・ポイントを整理する
	予習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。**

課題へのフィードバック	定期試験後解答を示し解説を行う
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（〇）する 成績評価の方法：　筆記試験（５０％）、・発表（４０％）、授業態度（１０％）
教科書	『実践・保育相談支援』（青木紀久代　編著、（株）みらい）
参考文献	『子育てアドバイス実践ノート』（日本子育てアドバイザー協会、ぎょうせい出版） 『クライエント中心療法』（ロジャース、有斐閣新書）
注意事項	前半からグループワークで事例研究を行う。グループごとに相談事例について討議し、発表してもらうので積極的に発言できるよう心掛けること。

科目名	保育相談支援	単位数	1	担当教員	齋藤（さいとう）　新一（しんいち）
ナンバリングコード	3102	授業形態	演習		

授業の内容	保育士は児童の保育のみでなく、児童の保護者支援も業務となっている。保育相談支援とはどのようなものか、何故、保育相談支援が必要なのか、保育相談支援はどのような技術を用いて、どのように展開して行なっていくのか。保育相談支援の援助内容と方法、及び支援を行った後の保護者支援の効果測定・評価方法について事例を通して学習していく。さらに、保育所以外の児童福祉施設の保護者支援についても学習していく。
到達目標	１．保育相談支援の意義・原則について、保育士が保護者支援を行なうこと、及び子どもの最善の利益を最優先していく中での保護者支援であることを学び、理解することができる。 ２．保育相談支援の基本姿勢・その限界、適切な関係機関との連携を学び、これらを理解することができる。 ３．保育相談支援技術について学び、それぞれの「観察・同感・承認・支持・解説・物理的環境の構成、行動見本の提示、その他の技術」等を理解することができる。 ４．保育所以外の児童福祉施設の保護者支援について学び、施設ごとの保護者支援の違いとその支援内容について理解することができる。

授業計画		
	第１回	保護者に対する保育相談支援の意義 何故、保護者に対し、保育士が保護者支援を行なうのかについて学ぶ。
	第２回	保育相談支援の原則、保育士の業務と保育相談支援① 保育相談支援の原則、地域子育て支援の原則等について学ぶ。
	第３回	保育相談支援の原則、保育士の業務と保育相談支援② 保育相談支援と相談援助の違いと相互関連性について学ぶ。
	第４回	保育相談支援の基本① 子どもの最善の利益と福祉の重視、子どもの成長の喜びの共有等について学ぶ。
	第５回	保育相談支援の基本② 保護者の養育力の向上支援、保護者との信頼関係の構築等について学ぶ。
	第６回	保育相談支援の展開過程 支援の前提から事後評価、終結の各展開過程について学ぶ。
	第７回	保育相談支援の実際①(演習:保育相談支援の方法と技術) 事例演習により、保育相談支援技術に於ける「観察・情報収集・同感」等について実践的に学ぶ。
	第８回	保育相談支援の実際②(演習:保育相談支援の方法と技術) 事例演習により、保育相談支援技術に於ける「承認・支持・気持ちの代弁・伝達」等について実践的に学ぶ。
	第９回	保育相談支援の実際③(演習:保育相談支援の方法と技術) 事例演習により、保育相談支援技術に於ける「解説・方法の提案・対応の提示」等について実践的に学ぶ。
	第 10 回	保育相談支援の実際④(演習:環境を通した保育相談支援) 保育相談支援は、保育士による直接的支援ばかりでなく、さまざまな環境を通しても行われる。これらの方法について学ぶ。
	第 11 回	保育相談支援の実際⑤(演習:記録技法) 記録の意義、叙述体記録・説明体記録・要約体記録、演習による記録の執り方について実践的に学ぶ。
	第 12 回	保育所での日常場面に於ける保育相談支援 送迎時、通信、懇談会、行事等に於ける実際の保育相談支援の仕方について学ぶ。
	第 13 回	保育相談支援の効果測定と評価(短期的支援の評価と長期継続的支援の評価) 効果測定とは何か、短期的支援の評価方法と長期継続的支援に於ける過程評価と成果評価について演習形式で実践的に学ぶ。
	第 14 回	児童福祉施設における保育相談支援の実際(演習) 児童養護施設、母子生活支援施設、児童発達支援センター等の児童福祉施設に於ける保育相談支援について学ぶ 。
	第 15 回	保育相談支援に関係の深い関係機関の理解 母子生活支援施設、社会福祉協議会、地域包括支援センター、福祉事務所等の業務内容等について学ぶ。

授業に対する予習・復習		
	予習：新聞やニュース等の情報から、現在社会で起きている児童・親子関係の問題等を把握し、対処すべき相談内容等の事前勉強を行なう。	復習：毎回授業終了後に、残された課題について振り返りを行い、残された課題についての事後学習を行なう。また次回の授業への質問内容について検討する。
	予習に要する学習時間：概ね４５分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね４５分を目安とする。**

課題へのフィードバック	定期試験後に解答を示し、解説をする
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（５０％）、レポート・課題（２０％）、授業態度（３０％）
教科書	なし
参考文献	『保育相談支援』(柏女霊峰・橋本真紀、ミネルヴァ書房)、『保育相談支援』(小林育子、萌文書林)、『保育所における家庭支援』(金子恵美、全国社会福祉協議会)、『保育所保育指針解説書』(ひかりのくに)、その他の文献・資料等を参考・引用とする場合はその都度紹介していく。
注意事項	授業を妨げる行為(私語・携帯電話等)については、席替え、その他の処置を講ずる。

科目名	教育原理	単位数	2	担当教員	松木（まつき）　久子（ひさこ）
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	人間にとって教育や学校とは何かを考えるにあたって、基本となる事柄について理解することを目的とする。また、教育の歴史や思想において教育の理念が、どのような背景の中で現れてきたのかを理解するとともに、これまでの教育や学校の営みの変遷を把握し、これからの理想的なあり方を模索することをも目的とする。
到達目標	１．人間にとっての教育の重要性を説明できる。 ２．学校についての歴史について理解できる。 ３．これからの教育や学校のあり方について説明できる。 ４．自分なりの教育（保育）観や学校（幼稚園・保育所）観を形成することができる。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション：履修上の諸注意や説明等
	第２回	人間の特質及び教育の可能性
	第３回	教育の語義と意義
	第４回	学校の誕生とその歩み
	第５回	近代学校の成立とその性格
	第６回	近代教育制度の成立と発展
	第７回	「子ども」について考える
	第８回	幼稚園と保育所の誕生
	第９回	幼稚園と保育所の歩み
	第 10 回	日本の戦前における教育
	第 11 回	日本の戦後における教育
	第 12 回	教育の内容と方法
	第 13 回	教育の評価と経営
	第 14 回	現代社会の教育と学校における問題と課題
	第 15 回	授業の振り返りとまとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：次回の内容と予習すべき事項を示す。教科書の指定個所を事前に熟読しておく。	復習：授業中の内容をまとめる。
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	授業内に必要に応じて小レポートを実施する。解答の解説と授業の振り返りを実施する。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　筆記試験（50%）、レポート・課題（25%）、授業態度（25%）
教科書	保育者養成シリーズ『教育原理』（林　邦雄・谷田貝公昭［監修］、大沢　裕［編集］、一藝社）
参考文献	必要に応じて紹介する。
注意事項	１．子どもや教育そして学校について常識とされていることを疑ってほしい。 ２．文章を読むことや文字の読み書きに慣れてほしい。 ３．専門用語等について調べ、積極的にそして主体的に学ぶ態度をもってほしい。

科目名	保育原理	単位数	2	担当教員	あさい　たくや 浅井　拓久也
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	1．幼児教育や保育に関する基本的な知識、理論、思想を学ぶ授業にする。 2．保育教育実習につながるように、考る、話し合う、作る、演じる、発表するという能動的な授業にする。
到達目標	1．幼児教育や保育の基本的な知識、理論、思想を学ぶ。 2．保育実践に生かせる自分の得意分野を伸ばす。 3．他者と対話を重ねながら主体的に学ぶ方法を身に付ける。

授業計画		
	第1回	オリエンテーション―保育原理を学ぶ目的とは―
	第2回	子ども・子育て支援新制度（1）
	第3回	子ども・子育て支援新制度（2）
	第4回	保育・保育者・保育所の専門性
	第5回	子どもの発達過程に応じた保育（1）
	第6回	子どもの発達過程に応じた保育（2）
	第7回	保育の内容と方法
	第8回	生活と遊びを通して総合的に行う保育（1）
	第9回	生活と遊びを通して総合的に行う保育（2）
	第10回	生活と遊びを通して総合的に行う保育（3）
	第11回	保育の計画（保育課程・指導計画・記録）（1）
	第12回	保育の計画（保育課程・指導計画・記録）（2）
	第13回	保育の思想と歴史的変遷（1）
	第14回	保育の思想と歴史的変遷（2）
	第15回	まとめ

授業に対する予習・復習		
	予習:ネットや新聞で保育や保育士に関する記事を読むこと。	復習：授業で学んだことを自分なりにまとめ、要点を復唱したり友達に説明したりすることで、定着するよう努めること。
	予習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。**

課題へのフィードバック	課題や発表に関しては確認後、授業内で補足説明や解説講義を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（○）する／（　）しない 成績評価の方法：筆記試験（６０%）、課題・発表（３０%）、授業態度（１０%）
教科書	『マンガでわかる！保育所保育指針　2017 年告示対応版』（浅井拓久也、中央法規出版）
参考文献	『保育所保育指針〈平成 29 年告示〉』（厚生労働省、フレーベル館）
注意事項	1．考える、作る、描く、歌う、踊るという頭と身体を使う授業のため、積極的に参加すること。 2．本授業を保育教育実習につなげるにはどうしたらよいかを常に考えながら受講すること。 3．現役保育士によるゲスト講義や保育所見学も行う。（予定）

科目名	保育原理	単位数	2	担当教員	とみやま　ふとし 富山　大士
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	1．保育の制度・思想・歴史について学び、保育の意義について考える。 2．育ちや学びの連続性を見つめつつ、保育の内容・保育の方法・保育の計画について学ぶ。 3．保育・子育てに関する現状を理解し、今日的課題について考える。
到達目標	1．保育の制度・思想・歴史の知識をベースとし、保育の意義について学生自らが考えることができる。 2．保育の計画、実践、省察・評価、改善の過程の循環による保育の質の向上について理解している。 3．保育・子育てを取り巻く現在の社会情勢や制度の理解をもとに、今日的課題について自ら考えることができる。

授業計画

第１回	オリエンテーション 「保育」とは
第２回	子どもの発達と子ども理解 （子どもの発達・保育所保育指針の理解・子どもの理解・保育者の保育観）
第３回	保育の思想と歴史（諸外国） （西洋を中心とした諸外国における保育の歴史）
第４回	保育の思想と歴史（日本） （日本における保育の歴史）
第５回	保育の場 （保育所、幼稚園、認定こども園、家庭的保育等）
第６回	保育の目標、ねらい及び内容 （育みたい資質・能力、乳児期の３つの視点と幼児期の５領域、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿）
第７回	保育の方法 （環境を通した保育、遊びを通しての指導、子どもの自発性と保育者の意図性）
第８回	保育所保育の実際 （保育所での実際の保育の映像、話を通じた保育現場の理解）
第９回	保育の計画と評価 （全体的な計画と指導計画、保育実践の振り返りと計画の再構築）
第 10 回	保護者支援、子ども・子育て支援新制度 （子育て支援の概念と必要性、子育て支援の実際、待機児童問題の理解、新制度における子育て支援の位置づけ）
第 11 回	小学校との連携・接続 （保幼小の連携・接続と課題、「幼児期」から「児童期」への育ちの連続性と非連続性）
第 12 回	保育者の専門性 （保育者の成長、自己評価、研修制度）
第 13 回	期末試験（４５分）、「私の理想の保育施設を考える」①　趣旨説明、およびグループ討議 （これまでの学びを活かし、望ましい保育のあり方・保育観についてグループ討議を行い、考えをまとめる）
第 14 回	「私の理想の保育施設を考える」②　グループ討議、および発表資料まとめ （望ましい保育のあり方・保育観についてグループ討議を行い、発表資料としてまとめていく）
第 15 回	期末試験についての解説、「私の理想の保育施設を考える」③　グループ発表 （自分の所属するグループの発表をするとともに、他のグループの発表を聞き、自らの保育観を再構築する）

授業に対する予習・復習		
	予習:ノートの先頭頁にシラバスのコピーを貼りつけて授業内容について毎回確認をし､対応回について教科書･参考文献等を授業前に一読した上で授業に臨むこと。	復習：授業での学びを深めるために課題レポートを作成し、次回授業にて提出すること。また、授業開始時に行う前回授業内容の確認小テストに向けて、毎回の授業の復習を必ず行うこと。
	予習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね１５０分を目安とする。**

課題へのフィードバック	確認小テストについては、その都度正解を示して解説する。第１３回に実施する期末試験については、第１５回に解説する。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 成績評価の方法：筆記試験（５０％）、レポート・課題（２０％）、授業態度（３０％）
教科書	『保育原理　～はじめて保育の扉をひらくあなたへ～』（咲間まり子編著、みらい）
参考文献	『幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（チャイルド社） 『保育所保育指針解説書』（厚生労働省、フレーベル館）、『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館）
注意事項	1）授業の開始時に、前回授業の理解度を確認する小テストを行う。 2）ノートの先頭頁にシラバスのコピーを貼りつけて授業内容について毎回確認するとともに、ノートは丁寧にまとめて書くこと。

科目名	教育心理学	単位数	2	担当教員	おおくま　みかこ 大熊　美佳子
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	幼児教育において、子どもの発達や学習過程を理解し、子どもへの対応を考えることは非常に重要です。本講義では、教育に関わる子どもの発達、学習のメカニズム、動機づけなど教育心理学の基礎知識を習得することを目的とします。
到達目標	１．教育心理学の基本用語を正確に理解している。 ２．子どもの発達や行動を理解するために必要な心理学的視点の基礎を身につけている。 ３．教育者として必要な心理学的な関わり方を身につけている。

授業計画		
	第１回	教育心理学とは ガイダンスと導入として教育心理学を学ぶ意味、子どもにとって教育とは何かを考える。
	第２回	子ども観の変容
	第３回	発達課題
	第４回	認知発達
	第５回	学習理論① 学習とは何か
	第６回	学習理論② 条件づけ
	第７回	学習理論③ 社会的学習理論について
	第８回	子どものやる気① 動機づけ理論について
	第９回	子どものやる気② 意欲と無気力
	第 10 回	子どものやる気③ 褒めること，叱ること
	第 11 回	子どもの個性を理解する① パーソナリティ理論
	第 12 回	子どもの個性を理解する② 知能について
	第 13 回	教育環境と移行期への対応
	第 14 回	教育方法① 教授方法について
	第 15 回	教育方法② 評価について

授業に対する予習・復習		
	予習：次回の授業テーマを発表し、必要資料を配布しますので、関連する図書、ニュースなどについて調べてくること。	復習：各回の授業内容について、新出用語の意味を確認し、興味を持った内容については、さらに自ら調べるなど理解を深めてください。疑問点は次回に確認すること。
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	授業内で数回の小テストを実施し、テスト後、解説を行います。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（60%）、レポート・課題（20%）、授業態度（20%）
教科書	特になし
参考文献	講義の中で適宜紹介します。
注意事項	講義形式で行います。 将来教育現場で子どもに関わるために必要な知識を身につけるために、講義の内容を具体的にイメージしながら理解を深めてください。

科目名	教育心理学	単位数	2	担当教員	よしだ　えり 吉田　恵理
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	幼児教育において、人間の発達や学習について理解を深めることは重要である。この講義をきっかけに、各人が教育方法や幼児に対する理解・考え方を深め、これからの教育とはどうあるべきかを考えてもらいたい。
到達目標	１．こどもの発達についての基礎知識を身につけている ２．学習や個人差について理解している。 ３．保育の現場において重要な心理学の基礎的知識を習得している。

授業計画

第１回	ガイダンス、導入 担当講師の自己紹介と講義の進め方、なぜ教育心理学を学ぶ必要があるのかについて解説する。
第２回	現代社会と子どもの発達 現代の子どもの特徴はどんなところにあるのかを、環境の変化や人間関係のあり方を通して考える。
第３回	発達のとらえ方 人間の発達の特徴や、その過程に教育はどのように関わることができるのか、遺伝と環境の役割を通して考える。
第４回	論理的思考 子どもの論理的に考える力がどのように発達していくか、ピアジェの理論の紹介や近年の研究を通して学ぶ。
第５回	覚えること 記憶の基本的なメカニズムや発達過程について学ぶ。
第６回	社会性 子どもが社会の規範や慣習に沿った行動をどのように身につけていくのか、社会性の発達について学ぶ。
第７回	自己概念とパーソナリティ 自己認識・自己概念の発達とパーソナリティの形成および、パーソナリティの測定法について学ぶ。
第８回	学習への動機づけ やる気、すなわち動機づけについて取り上げ、どうすればやる気を育むことができるのか考える。
第９回	こどもの自己制御 心理学における自己制御について学ぶとともに、保育の視点からこどもの自己制御について考える。
第 10 回	学級という集団 学級集団の特徴や機能、測定について取り上げ、学級集団の仲間との関係や教師との関係について学ぶ。
第 11 回	学習と学習形態 学習の原理について取り上げるとともに、学習効果や学習方法について学び、学習指導法の紹介を行う。
第 12 回	発達障害と学習支援 発達障害をいくつか取り上げ、基本的な症状や事例、学習支援について解説する。
第 13 回	知能 知能検査やその歴史、能力の発達的な変化や最近の知能理論を紹介する。
第 14 回	教育評価 学力の測定と評価について学び、評価の多様性についても考える。
第 15 回	第 1 回～第 14 回の総まとめ

授業に対する予習・復習		
	予習： 講義の内容に即した自身の経験を振り返り、まとめておくこと。	復習： 講義時に配布されたプリントを参照し、復習しておくこと。
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	リアクションペーパーは次回授業時にフィードバックを行う。試験後は解答を示し、解説と総まとめを行う。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（〇）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（５０％）、レポート・課題（３０％）、授業態度（２０％）
教科書	特になし。
参考文献	『やさしい発達と学習』（外山紀子・外山美樹、有斐閣） 『子どものこころ―児童心理学入門』（櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代、有斐閣）
注意事項	毎回授業中および授業終了後にリアクションペーパーの記入・提出を求め、評価に含めるものとする。 学生の関心や理解度に合わせ授業の進行を調整するとともに、参考文献の紹介を行う。 子どもに関する知識の習得のみでなく、学生自身の心理や学習について考える機会としてもらいたい。

科目名	保育者論	単位数	2	担当教員	松木（まつき）　久子（ひさこ）
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	保育者として将来携わることになる幼稚園や保育所の重要性を理解し、乳幼児理解についての知識を踏まえ、発達や学びを捉え促進する理論や保育者としての基礎的な態度について考え、望ましい保育者像とは何かを自分なりに把握することができるようになることを目的とする。
到達目標	１．幼稚園と保育所の違いが説明できる ２．日本の教職の特質について理解できる。 ３．子どもの道徳性の発達について理解できる。 ４．自分なりの保育者像について説明できる。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション：履修上の諸注意や説明等
	第２回	就学前教育とは何か
	第３回	幼稚園と保育所のそれぞれの違い
	第４回	幼稚園教諭の仕事と役割
	第５回	保育士の仕事と役割
	第６回	保育者のマナーについて
	第７回	日本の教職の特質
	第８回	指導と懲戒について
	第９回	子どものしつけをめぐる問題
	第 10 回	子どもの安全と事故防止
	第 11 回	子どもの道徳性の発達
	第 12 回	子どもへのさまざまな指導のあり方について：ティーム・ティーチング等
	第 13 回	現代日本における「教育の理念」について
	第 14 回	保育者としての服務と望ましい資質
	第 15 回	授業の振り返りとまとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：次回の内容と予習すべき事項を理解する。教科書の指定個所を熟読する。	復習：授業内容や重要事項をまとめる。
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	授業内にて小レポートを実施し、解答の解説と授業の振り返りを行う。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（50%）、レポート・課題（25%）、授業態度（25%）
教科書	『これだけは身につけたい小学校教員の常識 67』（村越　晃編、一藝社）
参考文献	必要に応じて紹介する。
注意事項	１．保育者になることをよく自覚し、自分自身をよく見つめてほしい。 ２．自分が知らないことを知ることの重要性を自覚してほしい。 ３．積極的に主体的に学ぶ態度を養ってほしい。

科目名	社会的養護	単位数	2	担当教員	しのはら　あみ 志濃原　亜美
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	社会福祉、児童家庭福祉の中の社会的養護の位置を理解し、特に施設における日常生活援助、施設における専門職について学びを深める。また、施設保育士の専門性と特別な配慮を要する子どもや家庭への援助について学び、さらに施設の中で行われるリービングケア、アフターケアなどの現状についても学習する。
到達目標	１．施設養護の体系や援助過程について理解できる ２．レジデンシャル・ソーシャルワークの視点から施設保育士の専門性、特別な配慮を要する子どもへの援助や保護者への相談の在り方など理解できる

授業計画		
	第１回	オリエンテーション
	第２回	子どもの社会的養護
	第３回	日本における社会的養護のしくみ
	第４回	子どもの権利と社会的養護
	第５回	施設養護の種類
	第６回	施設養護に関わる専門職
	第７回	アドミッションケアとインケア
	第８回	リービングケアとアフターケア
	第９回	中間レポート
	第 10 回	家庭的養護の理念と里親制度　※レポート提出
	第 11 回	里親制度（ＶＴＲ）
	第 12 回	子育て困難家庭への支援行政の仕組みとソーシャルワーク
	第 13 回	ＤＶケースと虐待ケースへのソーシャルワーク
	第 14 回	小テスト
	第 15 回	まとめ及び小テスト返却、解説

授業に対する予習・復習	予習：予習・復習シートをはじめに配布します。 それに従い、毎時間次回の授業内容の予習を指示します（教科書を読んでくる、プリント穴埋め等）	復習：授業で習った内容の復習（シートへの記入）
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	小テストの解説と返却、レポートの返却を行います。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　筆記試験〈小テスト〉（40%）、レポート（35%）、課題（15%）、授業態度（　10%）
教科書	『子どもの社会的養護』（望月彰編著、建帛社）
参考文献	適宜紹介する
注意事項	特別なケアを要する子どもについての書籍等を積極的に読むこと

科目名	社会的養護	単位数	2	担当教員	萬燈（まんどう） 章雄（あきお）
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	社会的養護を必要としている子どもたちへの理解を深める。また、社会的養護の支援フレームについて学習するとともに、特有の課題及び特性についても理解する。課題を抱えながら生活する子どもたちに、本来もつ権利を守りながら保育士としてどのように関わり、支援していくのかを学習する。
到達目標	１．社会的養護を必要としている子どもたちの現状を理解している。 ２．「子どもの最善の利益」とは何かを知り、支援者がどのようなスタンスで望めばよいのかを習得している。 ３．社会的養護に携わる保育士の職務と倫理について身につけている。

授業計画

第１回	オリエンテーション～「社会的養護」とは 社会的養護に携わる保育士としての基本的スタンスについて学ぶ
第２回	子ども観と社会的養護の歴史 子どもが歴史的にどのように扱われてきたか
第３回	社会的養護問題の本質 育てられない家庭環境と社会構造の問題について学ぶ
第４回	社会的養護の仕組み 児童相談所を中心とした「措置」制度について学ぶ。「措置」と「契約」について。
第５回	児童福祉施設について 児童福祉法で定める施設について学ぶ
第６回	里親制度・親権と養子縁組について なぜ今里親委託推進なのか。
第７回	社会的養護実践の技術について（ソーシャルワーク・ケースワーク・グループワークなど） 個別対応から施設や地域での流れや取り組みについて学ぶ。
第８回	社会的養護の概念及び仕組みについて 中間まとめ　理解度チェックとレポート
第９回	アタッチメントについて 「子どもの安全基地」について学ぶ。
第 10 回	児童虐待と社会的養護 虐待を受けてきた子供たちについて理解する。
第 11 回	「施設の小規模化」について 地域小規模施設・ファミリーホームなどについて学ぶ
第 12 回	児童福祉施設での基本技術 アセスメント（ジェノグラム・エコマップ）と記録の書き方について。
第 13 回	演 習 「情報の共有」について学習する。資料に基づいて事例を整理する（養護施設）。
第 14 回	子どもの最善の利益と権利擁護について 最終まとめ　理解度チェックとレポート
第 15 回	今後の社会的養護の方向性について 児童福祉法の総則改正と子どもの権利条約、「新しい社会的養育ビジョン」について学ぶ。

授業に対する予習・復習	予習：事前に資料配布した場合は、課題に沿ってよく読んでおくこと。	復習：配付したプリント資料によく目を通しておくこと。不明な点があれば次の授業以降でも構わないので質問してください。
	予習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 120 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	提出物やレポートは、原則コメントと評価をつけて返却します。グループ作業などはその時点で評価・コメントします。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（50%）、授業態度（50%）
教科書	な　し
参考文献	社会的養護[第４版] 小池由佳 山縣文治 編著 ミネルヴァ書房　　その他適宜紹介します。
注意事項	評価方法としては、理解度チェックとレポート提出を２回ほど実施します。 主に講義形式ですが、後半には事例研究など、なるべく授業に参加していただくことも予定しています。受講マナーは守り、積極的な参加を期待します。基本、プリント資料配布で授業をすすめます。

科目名	発達心理学	単位数	2	担当教員	おおくま　みかこ 大熊　美佳子
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	発達とは、人と人をとりまく社会との交互作用による共有事象です。発達を捉える広い視野を身につけるために、発達過程を正しく理解し、子どもの発達にまつわる事例について、理論的背景を確認しながら、必要な知識と工夫を身につけ、子育てや教育の現場に活かしていけるように、学びを深めていくことを目的とします。
到達目標	１．生涯発達の考え方を基本に、人間の発達過程について理解している。 ２．子どもの発達を理解するために必要な基礎知識を身につけている。 ３．保育者としての自己理解をしている。

授業計画		
	第１回	発達とは何か
	第２回	比較行動学から見た発達
	第３回	遺伝と環境
	第４回	個体発達の過程①（胎児期・新生児期）
	第５回	個体発達の過程②（乳児期・タドラー期）
	第６回	個体発達の過程③（幼児期）
	第７回	個体発達の過程④（児童期・思春期）
	第８回	個体発達の過程⑤（青年期・成人期・老年期）
	第９回	フロイトの発達理論
	第 10 回	エリクソンの発達課題
	第 11 回	ピアジェの認知発達理論
	第 12 回	人間関係の発達①（愛着理論と対人関係）
	第 13 回	人間関係の発達②（仲間関係）
	第 14 回	感情・情動の発達
	第 15 回	まとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：次回の授業テーマを発表し、必要資料を配布しますので、関連する図書、ニュースなどについて調べてくること。	復習：各回の授業内容について、新出用語の意味を確認し、興味を持った内容については、さらに自ら調べるなど理解を深めてください。疑問点は次回に確認すること。
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	授業内で数回の小テストを実施し、テスト後、解説を行います。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（60%）、レポート・課題（20%）、授業態度（20%）
教科書	特になし
参考文献	講義の中で適宜紹介します。
注意事項	講義形式で行います。

科目名	保育の心理学	単位数	1	担当教員	三好（みよし）　力（ちから）
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	既習の知識を基に、様々な保育場面における対応を考えていく。 演習形式で授業を行うため、個人でのワーク、グループワーク、発表などを行っていく。 自ら考えることと集団で考えることで多様な価値観を身につけていけるようにしていく。
到達目標	発達心理学や教育心理学の知識を基に保育実践に対して応用していく力を身につける。 １．子どもの心身の発達と保育実践について理解を深め、現場で応用することができる。 ２．生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解し、対応することができる。 ３．保育における発達援助について自ら考えることができる。

授業計画		
	第１回	イントロダクション：保育者を目指す者
	第２回	①子どもの発達と保育実践１(子ども理解における発達の把握)
	第３回	①子どもの発達と保育実践２(環境としての保育者と子どもの発達)
	第４回	①子どもの発達と保育実践３(子ども相互の関わりと関係作り：言葉の発達)
	第５回	①子どもの発達と保育実践４(子ども相互の関わりと関係作り：仲間関係の発達)
	第６回	①子どもの発達と保育実践５(自己主張と自己統制)
	第７回	①子どもの発達と保育実践６(子ども集団と保育の環境：社会性の情緒発達)
	第８回	②生活や遊びを通した学びの過程１(子どもの生活と学び)
	第９回	②生活や遊びを通した学びの過程２(子どもの遊びと学び)
	第 10 回	②生活や遊びを通した学びの過程３(生涯にわたる生きる力の基礎を培う)
	第 11 回	③保育における発達援助１（基本的生活習慣の獲得と発達援助）
	第 12 回	③保育における発達援助２（発達の課題に応じた援助や関わり：子どもの個人差に配慮した保育）
	第 13 回	③保育における発達援助３（発達の連続性と就学への支援：就学に向けた支援）
	第 14 回	③保育における発達援助４（発達援助における協働：特別なニーズの子への支援）
	第 15 回	③保育における発達援助５（現代社会における子どもの発達と保育の課題：家族支援・保育におけるカウンセリングマインド）

授業に対する予習・復習		
	予習：授業内で適宜アナウンスします。教科書のガイダンス部分を読んで、不明なところがあれば既習の発達心理学の教科書やノートで調べておく。	復習：**授業内で考えたことについて、発達心理学などの既修の知識を見直し、より深いものへと高めてください。**
	予習に要する学習時間：概ね　30 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね　30 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	課題は授業内で完結するので、毎回の授業内で内容は各自でまとめることができる。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（60%）、作品・発表（30%）、授業態度（10%）
教科書	『実践・発達心理学ワークブック』（青木紀久代・矢野由佳子編、株式会社みらい）
参考文献	
注意事項	授業中の私語、携帯電話、飲食は禁止。好ましくない者は注意の上で授業態度を減点し、場合によっては退出、授業出席を停止させることもありますので注意してください。 積極的な授業参加を評価します。ディスカッションなどの参加が見られない場合は減点します。

科目名	保育の心理学	単位数	1	担当教員	おおくま　みかこ 大熊　美佳子
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	発達心理学の学習を踏まえ、保育現場で要求される適切な発達援助を行う実践力を養うために、実践的な演習を行います。具体的な保育場面を想定し、子どもの心身の発達に即した保育者の関わり方や配慮について解説し、学びを深めるために事例検討、グループワーク等を行います。
到達目標	１．子どもの心身の発達に即した保育実践のあり方について理解する ２．保育現場での子ども理解や保育者の対応について自ら考えることができる ３．保育における発達援助を行う実践力を身につける

授業計画		
	第１回	ガイダンス
	第２回	子ども理解における発達の把握
	第３回	個人差や発達過程に応じた発達の把握
	第４回	身体感覚を伴う多様な経験と環境の相互作用
	第５回	環境としての保育者と子どもの感覚
	第６回	子ども相互の関わりと関係づくり
	第７回	子ども集団と保育の環境
	第８回	子どもの生活・遊びと学び
	第９回	自己主張と自己制御
	第 10 回	基本的生活習慣の獲得と発達援助
	第 11 回	自己の主体性の形成と発達援助
	第 12 回	発達の課題に応じた援助や関わり
	第 13 回	発達の連続性と就学への援助
	第 14 回	現代社会における子どもの発達と保育の課題
	第 15 回	課題の発表とまとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：授業内容に合わせて、配布資料をもとに事前学習、必要資料の収集を行うこと。	復習：各回の授業内容を復習し、興味を持った内容について自ら調べるなど理解を深めること。
	予習に要する学習時間：概ね１５分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。**

課題へのフィードバック	授業の最初に、前回授業で学んだ内容をまとめた資料をチェックします。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（60%）、発表（20%）、授業態度（20%）
教科書	なし
参考文献	授業の中で適宜紹介します。
注意事項	授業に積極的に取り組み、日頃から乳幼児に関心を持ち、実習等での経験を授業の内容と照らし合わせて心理学的な視点を養うように意識してください。

科目名	教育社会学	単位数	2	担当教員	はやさか 早坂　めぐみ
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	本科目では、教育に関わる現代的課題や子どもをめぐる諸問題について、社会学的視点から捉えることを試みる。自身の教育に関する体験や子ども観、理想の保育者像について捉え直し、自己と社会との関わりに関する理解を深める。
到達目標	１．公教育制度の意義について理解している。 ２．現代の教育問題を多角的な視点で捉えることができる。 ３．自己と社会との関わりを、社会学の概念を用いて説明できる。 ４．保育者として応用可能な社会学的な見方を身につけている。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション―教育社会学を学ぶ意義
	第２回	学校とは何か―公教育の制度と目的
	第３回	集団と規則
	第４回	教師と保育者―なぜ保育者を選んだのか
	第５回	学校に通うことは当たり前か①―学校に行っていない子どもたち、学校の外で学ぶ子どもたち
	第６回	学校に通うことは当たり前か②―貧困世帯の子どもたち
	第７回	教育のなかの「正しさ」を疑う―子どもの安心・安全を脅かす「教育」
	第８回	若者をとりまく「空気」を読み解く①―「いじめ」問題がつくる視角と死角
	第９回	若者をとりまく「空気」を読み解く②―少年犯罪についての認識とメディア
	第 10 回	「友だち」について考える①―「友だち」に関する社会学
	第 11 回	「友だち」について考える②―SNS の普及と「友だち」
	第 12 回	子ども・若者をめぐる諸課題のまとめ
	第 13 回	子どもの社会化①―家族のなかの子ども
	第 14 回	子どもの社会化②―学校と地域の連携
	第 15 回	まとめ―本講義で学んだことを保育者としてどう生かすか

授業に対する予習・復習		
	予習：講義内容に関連するプリントを配布するので、読んで考察をノートにまとめ、授業に参加すること。	復習：講義で配布したプリントを再読し、要点や疑問点をノートにまとめること。
	予習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。**

課題へのフィードバック	レポートに対するコメントを行う。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　レポート（５０％）、課題（３０％）、授業態度（２０％）
教科書	なし （レジュメ・資料を配布）
参考文献	・『半径５メートルからの教育社会学』（片山悠樹・内田良・古田和久・牧野智和編、大月書店） ・『現代社会論』（本田由紀編、有斐閣） ・『新・教育の制度と経営［新訂版］』（本図愛美・末冨芳編、学事出版）
注意事項	１．授業では毎回課題を出す。課題は授業時間内に作成・提出すること。 ２．授業で配布されたプリントは、各自ファイルにまとめて保管すること。 ３．グループワークやディスカッションには積極的に参加すること。

科目名	臨床心理学	単位数	2	担当教員	三好（みよし） 力（ちから）
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	臨床心理学は応用心理学の一つである。心の悩みを解決し、人間を幸せにする学問ともいわれている。 現代社会にはさまざまな心の問題が存在する。私たちが、人の心を理解しようと試みたり、心の問題に向き合おうとするとき、臨床心理学はそれらの試みをサポートしてくれる。 本講義では、臨床心理学の基礎的知識の習得と現場で活きる臨床心理学の実践的能力の育成を図る。さらに、保育者自身の心の安定と成長にもアプローチしたいと考えている。
到達目標	１．臨床心理学の基礎的知識を習得している。 ２．学んだ知識を活用して、心の問題について、自分なりに考えられる力を身につけている。 ３．学んだ知識を使って、子どもや保護者の心の問題理解と支援に役立てることができる。

授業計画

第１回	臨床心理学についての概要 現代社会のこころの問題を考えてみる
第２回	精神障害① 抑うつ障害
第３回	精神障害② 不安障害
第４回	精神障害③ 統合失調症
第５回	精神障害④ 心的外傷後ストレス障害
第６回	発達臨床心理学について 発達初期のこころの問題について考えてみる
第７回	発達障害① 精神遅滞・自閉症スペクトラム
第８回	発達障害② ADHD・LD
第９回	確認小テスト フィードバック
第 10 回	臨床心理学の理論と方法① 精神分析
第 11 回	臨床心理学の理論と方法② 人間性心理学
第 12 回	心理アセスメント 知能テスト、パーソナリティテスト、質問紙法と投影法について
第 13 回	身近なこころの問題
第 14 回	確認小テスト フィードバック
第 15 回	現代社会と臨床心理学 サブカルチャーの中にみられる臨床心理学的問題から考えてみる

授業に対する予習・復習		
	予習：各授業内でアナウンスする。 各自参考図書等を参照すること。	復習：授業の資料やノートで知識を確認し、不明な点などは書籍やインターネットで調べておくこと。
	予習に要する学習時間：概ね　60 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 120 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	２回の小テストを実施し、その後に行う。 レポートについては意見レポートなのでずれていない限りは合格とし、不合格のものには個別に対応する。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　筆記試験（50%）、レポート・課題（50%）
教科書	
参考文献	『絶対役立つ臨床心理学　カウンセラーを目指さないあなたにも』（藤田哲也監修、ミネルヴァ書房）
注意事項	授業中の私語、携帯電話、飲食は禁止。好ましくない者は注意の上で授業態度を減点し、場合によっては退出、授業出席を停止させることもありますので注意してください。

科目名	臨床心理学	単位数	2	担当教員	今水（いまみず）　豊（ゆたか）
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	保育園や幼稚園において相談のニーズが増える昨今、先生が子どもや保護者を理解し、良好な援助関係を築くために、臨床心理学は有用な分野である。臨床心理学とは、心理的問題に悩む人を援助するための学問である。いわば、心の問題を抱えている人の痛みを共有し、援助に活かす試みである。授業では、心理的問題のとらえかたや心理療法の実際について論理的・実践的に学ぶ。
到達目標	１．臨床心理学的な理解を援助活動に活かすことができる ２．他者を尊重できるコミュニケーション力を身につけている ３．臨床心理学に関する自身の課題を把握している

授業計画

第１回	Ⅰ 臨床心理学とは何か
第２回	Ⅱ 自他を認めるグループワーク
第３回	Ⅲ 心の発達　①社会心理的発達
第４回	Ⅲ 心の発達　②親子関係の発達
第５回	Ⅳ 心理アセスメント　①アセスメントとは何か
第６回	Ⅳ 心理アセスメント　②アセスメントの体験
第７回	Ⅳ 心理アセスメント　③自己を分析する
第８回	Ⅴ 心理的問題　①うつ病
第９回	Ⅴ 心理的問題　②不安障害
第 10 回	Ⅴ 心理的問題　③統合失調症
第 11 回	Ⅵ 心理療法の実際　①精神分析
第 12 回	Ⅵ 心理療法の実際　②来談者中心療法
第 13 回	Ⅵ 心理療法の実際　③認知行動療法・理論
第 14 回	Ⅵ 心理療法の実際　④認知行動療法・実践
第 15 回	Ⅵ 心理療法の実際　⑤ストレスマネジメント

授業に対する予習・復習	予習：次回の授業内容を伝えるので調べておくこと。普段から臨床心理学に関する記事やニュース、話題を意識しておくことが望ましい。	復習：その日のうちに授業内容をもう一度把握すること。わからない内容や疑問に思うことは、授業後質問して理解すること。
	予習に要する学習時間：概ね　90　分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね　90　分を目安とする。**

課題へのフィードバック	定期テスト直後に答え合わせと解説を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（〇）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（50%）、レポート・課題（30%）、授業態度（20%）
教科書	なし（適宜資料を配布）
参考文献	授業にて適宜紹介
注意事項	講義形式の他に、体験的な学習も行う。 援助場面では、人の話に耳を傾け、その心情を理解する謙虚な態度が不可欠である。 その姿勢を身につけるためにも、授業をしっかり聞き、理解するという構えを求める。

科目名	情報機器利用	単位数	1	担当教員	えもと まさし 江本 全志
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	「情報機器操作」に引き続き、文書作成ソフトのワード、表計算ソフトのエクセル、プレゼンテーションソフトのパワーポイントの応用的な使い方や音楽作成などを学びます。大学生活や今後の幼児教育において困らないコンピュータスキルを身に付けることを目指します。
到達目標	１．ワード、エクセル、パワーポイントの応用操作ができる。 ２．マルチメディアの基本的な編集操作ができる。

授業計画

第１回	ガイダンス
第２回	ワード① イラスト素材の作成　図形描画ツールを使用
第３回	ワード② イラスト素材の作成の続き
第４回	エクセル① 栄養素の計算　１日に食べた食事データを入力し、栄養素のバランスをグラフで表示する。
第５回	エクセル② 栄養素の計算の続き
第６回	マルチメディア① 画像の加工、ワード③ 名札作成のためのデータ作成
第７回	ワード④ 差し込み文書　宛名・名札などの作成、エクセルとの連携
第８回	マルチメディア② 音楽の作成　ミノ式 MIDI シーケンサを使用、音楽に関する法律と注意
第９回	マルチメディア③ 音楽の作成の続き
第 10 回	エクセル③ グラフ　様々なグラフの作成、ピボットテーブルや並べ替えなどを使用
第 11 回	エクセル④ グラフの続き
第 12 回	ワード⑤ 本の形式　おすすめのお店の作成、スタイル・ページ番号・目次など
第 13 回	ワード⑥ 本の形式の続き
第 14 回	エクセル⑤ 万年カレンダーの作成　日付の関数、条件付き書式など
第 15 回	エクセル⑥ 万年カレンダーの作成の続き　カレンダーへの園児の誕生日の自動追加

授業に対する予習・復習		
	予習：　事前に PDF 形式の資料ファイルに目を通し、知らない用語については調べておきましょう。	復習：　授業で行なった操作や課題演習をやり直してみましょう。
	予習に要する学習時間：概ね２５分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね２５分を目安とする。**

課題へのフィードバック	授業期間中に数回、これまでの出欠状況と課題の提出状況などをお知らせします。 また、不定期に課題をチェックし問題がある場合は、その旨をお知らせします。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　課題（５０％）、授業態度（５０％）
教科書	プリントまたは PDF 形式のファイルを配布します。
参考文献	なし
注意事項	コンピュータの環境、履修者の人数などにより、授業内容を変更する可能性があります。ご了承下さい。

科目名	情報機器利用	単位数	1	担当教員	金　宰郁（きむ　じぇうく）
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	本科目では、幼児教育における「教育の方法及び技術」について、基礎的な理論と教育の方法を支援する情報機器（コンピュータ）そして教材の活用について理解を図ります。 具体的には、以下のとおりです。 ①教育の方法、指導方法及び教育課程の原則について、その基本を理解すること。 ②情報機器及び教材の活用について、具体的な表計算ソフトの操作を通じて理解すること。
到達目標	１．表計算ソフトの基本機能及び応用機能を身につけている。 ２．大学における研究および卒業論文に関するデータを集計や分析できる。 ３．幼児教育に関するデータを集計や分析できる。 ４．情報処理検定及びワープロ検定試験への資格証取得

授業計画		
	第１回	この授業科目に関するガイダンス
	第２回	表計算ソフト「Excel」の基礎(1)：基本操作（文字入力等）、文書の保存・読込み、その他
	第３回	表計算ソフト「Excel」の基礎(2)：ワークシートの編集、ワークシートの書式設定、その他
	第４回	表計算ソフト「Excel」の基礎(3)：簡単な数表の作成、数値データ・文字データの相違、データの編集（挿入・削除・移動）、編集シートの調整（セルの幅・高さの変更、罫線の付加など）、その他
	第５回	表計算ソフト「Excel」の基礎(4)：グラフの作成
	第６回	表計算ソフト「Excel」の基礎(5)：グラフの設定の変更１（絵グラフなど）
	第７回	表計算ソフト「Excel」の基礎(6)：グラフの設定の変更２（複合グラフなど）
	第８回	「Excel」の応用(1)：セル番地の絶対参照と相対参照
	第９回	「Excel」の応用(2)：関数の利用１（IF、AND、OR 関数）
	第 10 回	「Excel」の応用(3)：関数の利用２（VLOOKUP、HLOOKUP、INEDX 関数）
	第 11 回	「Excel」の応用(4)：関数の利用３（DATE、PMT 関数など）
	第 12 回	「Excel」の応用(5)：データ処理の応用１（データベース合計、平均など）
	第 13 回	「Excel」の応用(6)：データ処理の応用２（条件付きデータベースなど）
	第 14 回	「Excel」の応用(7)：データ処理の応用３（データのクロス集計：ピボットテーブル）
	第 15 回	「Excel」の応用(8)：実践データの処理

授業に対する予習・復習		
	予習：表計算ソフトの基礎知識（定義）を事前に調べてから、教科書の例題および課題を解いてみる。	復習：教科書の例題および当日の課題をもう一度解いてみて確認する。
	予習に要する学習時間：概ね　25 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね　25 分を目安とする。**

成績のフィードバック	授業内容の説明や課題内容の TIP を学内ホームページに詳細にアップし、確認できるようになっている。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（50%）、作品・発表（10%）、授業態度（40%）
教科書	『文科系学生のための情報活用』（立野貴之、共立出版）
参考文献	『知りたい操作がすぐわかる Excel2013 全機能 Bible』（高橋慈子・八木重和、技術評論社）
注意事項	出席時間数が授業時間数の３分の２以上であり、かつ、課題、発表、平常点等の成績を総合して合格と判断された場合、所定の単位が与えられるます。

科目名	障害児保育	単位数	2	担当教員	齋藤（さいとう）　新一（しんいち）
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	障害児保育とはどのようなものか、ＩＤＤ、ＡＳＤ、ＡＤＨＤ、身体障害児、視覚障害児・聴覚障害児等の障害児の障害特性・行動特性の理解、基本的身辺自立技能の獲得方法、ＴＥＡＣＣＨプログラムの構造化の考え方による障害児療育支援の実際、問題行動の捉え方やその改善方法立案、家族支援の在り方、円滑な学校教育への引き継ぎ、障害児療育に於ける関係機関との連携・協力について学ぶ。
到達目標	１.知的発達症・自閉症スペクトラム・限局性学習症等の発達障害、身体障害児、視覚障害児・聴覚障害児等について学び、その障害特性と指導法をそれぞれ理解している。 ２.障害児の問題行動をどのように捉え、どのように対応していくか、その支援方法を学び、事例により具体的な問題解決に向けた支援方法立案を作成し理解している。 ３.障害児支援は家族との一貫した支援が不可欠であり、どのように家族支援を行っていくかを学び、その具体的支援法を理解している。 ４.障害児支援を行うための関係機関の種類と業務内容について学び、円滑な連携先を理解している。

授業計画

第１回	ガイダンス 学習の狙いについて学ぶ	第 16 回	ダウン症の理解と保育① 視覚的映像により、ダウン症の特性について学ぶ
第２回	現在の障害児者問題の現状 主に現在の障害児の置かれている現状について学ぶ	第 17 回	ダウン症の理解と保育② 身体的特性、発達特性、社会性等について学ぶ
第３回	障害児保育の仕組み① 障害児種別の動向・支援制度について学ぶ	第 18 回	身体障害児・肢体不自由児の障害と支援方法について学ぶ
第４回	障害児保育の仕組み② 乳幼児期に教えておくべきことについて学ぶ	第 19 回	聴覚障害・視覚障害児の障害と支援方法について学ぶ
第５回	知的に遅れの在る児童の理解と保育 知的に遅れの在る児童の特性と保育の仕方を学ぶ	第 20 回	小児糖尿病・筋ジストロフィー・病弱の児童への理解と支援方法を学ぶ
第６回	演習:基本的身辺自立技能習得支援の実際① 排泄・食事等の習得方法の教え方を学ぶ	第 21 回	演習:問題行動の理解 問題行動の４つの機能等について実践的に学ぶ
第７回	演習:基本的身辺自立技能習得支援の実際② 着脱・靴の履き方・礼儀等の習得方法の教え方を学ぶ	第 22 回	演習:問題行動に対する対処方法① オペラント行動・レスポンデント行動等について学ぶ
第８回	自閉症の理解と保育 視覚的な映像により、自閉症の特性について学ぶ	第 23 回	演習:問題行動に対する対処方法② 問題行動の機能の見つけ方・ＡＢＣ分析法の習得
第９回	自閉症の障害特性① ＤＳＭ－５の自閉症の診断基準等について学ぶ	第 24 回	演習:問題行動改善のための支援方法立案 ABC 分析法により、実践的に支援方法立案の仕方を学ぶ
第 10 回	自閉症の障害特性② 実行機能障害・記憶障害・心の理論等について学ぶ	第 25 回	障害を持っていきることを考える あるダウン症児達の生き方から学ぶ
第 11 回	演習:自閉症児の理解と保育① ＡＳＤの定義と支援の歴史的変遷について学ぶ	第 26 回	演習:総合的事例演習 これまでの学習から、事例を通して総合的に学ぶ
第 12 回	演習:自閉症児の理解と保育② 構造化の種類とその効果について実践的に学ぶ	第 27 回	学校教育への引き継ぎ 就学前療育から円滑な学校教育への引き継ぎ方法を学ぶ
第 13 回	演習:自閉症児の事例検討① アセスメント方法・目標設定について実践的に学ぶ	第 28 回	学校教育への引き継ぎ 就学前療育から円滑な学校教育への引き継ぎ方法を学ぶ
第 14 回	児童発達支援センター等の障害児療育機関 発達障害を有する子どもの療育機関の役割を学ぶ	第 29 回	関係専門機関との連携の意義とその連携先② 子家センター・児童家庭支援センター等の業務について学ぶ
第 15 回	注意欠如・多動性障害児の理解と保育 ＡＤＨＤの障害特性とその支援方法について学ぶ	第 30 回	家族支援の意義 保護者との信頼関係、親子アスペ、障害受容等を学ぶ

授業に対する予習・復習	予習：現在の社会の中で起きている、さまざまな障害児問題について、学生自身があらかじめ、新聞や雑誌等により、事前調査を行い、その実態について学ぶ。	復習：毎回授業終了後に、本授業で学んだこと、残された課題について振り返りを行い、残された課題についての事後学習を行なう。また次回の授業への質問内容について検討する。
	予習に要する学習時間：概ね４５分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね４５分を目安とする。**
課題へのフィードバック	定期試験後に解答を示し、解説をする	
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（５０％）、レポート・課題（２０％）、授業態度（３０％）	
教科書	なし	
参考文献	『よくわかる障害児保育』(尾崎康子他、ミネルヴェア書房)、発達障害白書(日本発達障害連盟)、保育白書(全国保育団体連絡会)、『初めての応用行動分析』(二弊社)その他の文献・資料等を参考・引用とする場合はその都度紹介していく。	
注意事項	授業を妨げる行為(私語・携帯電話等)については、席替え、その他の処置を講ずる。	

科目名	障害児保育	単位数	2	担当教員	こうが たかし 甲賀 崇史
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	障害がある子どもの保育は、一人一人の子どもの発達過程や障害の状態を把握し、適切な環境の下で、他の子どもとの生活を通じて共に成長できる支援を考えていくことが大切です。授業では、障害児保育を支える理念、保育現場でであう特別な教育的ニーズがある子どもの医学的・心理学的理解と援助の実際、ならびに家庭及び関係機関との連携について講述します。
到達目標	１．障害児保育を支える理念や歴史的変遷を説明できる。 ２．様々な障害の基礎を理解し、適切な援助を考え、環境を構成できる。 ３．障害がある子どものニーズに応じた保育の計画を作成することができる。 ４．保護者への支援や関係機関との連携の在り方について説明できる。

授業計画

第１回	「障がい」の概念①：障害とは何か	第 16 回	限局性学習障害のある子どもの医学的理解
第２回	「障がい」の概念②：国際的動向	第 17 回	限局性学習障害のある子どもの心理学的理解
第３回	日本の障害児保育の歴史①：黎明～戦前の成立と展開	第 18 回	限局性学習障害のある子どもの支援の実際
第４回	日本の障害児保育の歴史②：戦後～現在の展開と課題	第 19 回	注意欠如・多動症のある子どもの医学的理解
第５回	障害児保育の制度と形態①：分離・統合をめぐる議論	第 20 回	注意欠如・多動症のある子どもの心理的理解
第６回	障害児保育の制度と形態②：国際的標準としてのインクルーシブ教育(保育)の意義と課題	第 21 回	注意欠如・多動症のある子どもの支援の実際
第７回	障害がある子どもの理解と支援の原則	第 22 回	個別の指導計画と支援計画の作成
第８回	知的障害のある子どもの医学的理解	第 23 回	子ども同士のかかわりと育ち合い①：共に生活することの意味と課題
第９回	知的障害のある子どもの心理学的理解	第 24 回	子ども同士のかかわりと育ち合い②：技法(アプローチ)紹介
第 10 回	知的障害のある子どもの支援の実際	第 25 回	保育所・幼稚園での支援体制① 園内体制のあり方
第 11 回	自閉スペクトラム症の子どもの医学的理解	第 26 回	保育所・幼稚園での支援体制② 職員の連携の方法
第 12 回	自閉スペクトラム症の子どもの心理学的理解	第 27 回	家族への支援①：心理的理解と相互理解
第 13 回	自閉スペクトラム症の子どもの支援の実際	第 28 回	家族への支援②：家族と保育所・幼稚園との連携
第 14 回	視覚障害・聴覚障害のある子どもの理解と配慮	第 29 回	外部機関との連携①：医療、福祉専門機関との連携
第 15 回	肢体不自由のある子どもの理解と配慮	第 30 回	外部機関との連携②：小学校との連携のあり方

授業に対する予習・復習	予習：	復習：授業のノートやプリントで、各回の授業内容を復習してください。質問を歓迎します。疑問に思ったことは、自ら調べたり講師に聞いたりして、学びを深めてください。
	予習に要する学習時間：概ね０分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね６０分を目安とする。**
課題へのフィードバック	授業のなかで小テストを実施する。試験後に回答を示し、解説をおこなう。 定期試験は実施後に解答を示し、解説をおこなう。	
成績評価	試験期間における定期試験：　実施　（○）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（７０％）、レポート・課題（２０％）、授業態度（１０％）	
教科書	なし	
参考文献	『ソーシャルインクルージョンのための障害児保育』（堀智晴・直島正樹・橋本好市、ミネルヴァ書房） 『発達障害のある子の保育の手だて-保育園・幼稚園・家庭の実戦から-』（佐藤暁・小西淳子、岩崎学術出版社） 『発達障害白書』（公益社団法人　日本発達障害連盟、明石書店）	
注意事項	毎回、プリントを配布するので、ファイルに綴じて管理すること。	

科目名	社会的養護内容	単位数	1	担当教員	しのはら　あみ 志濃原　亜美
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	施設養護や里親など社会的養護の実際について学び、社会的養護における児童の権利擁護や保育士等社会福祉施設従事者の倫理について、また、ソーシャルワークの技術など専門的技術などを体系的に理解する。 さらに、個々に応じた支援計画の作成、記録の書き方、自己評価についても具体的に学ぶ。
到達目標	１．今まで学んできた社会福祉関連の知識や施設実習で学んだ施設の実態などを話し合いや発表等の方法で表現できる。 ２．自ら考え、発表し、問題意識を持つことで、社会的養護に関わる人や施設利用者について総合的に考える力を身につけている。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション
	第２回	施設実習を振り返って
	第３回	障害をもつ人の生活実態（ＶＴＲ）
	第４回	ＶＴＲの内容についてディスカッション
	第５回	グループ決め、グループディスカッション
	第６回	テーマ選定
	第７回	グループレポート作成
	第８回	グループ発表内容の決定
	第９回	グループ活動①（調査）
	第 10 回	グループ活動①（調査及び発表準備）
	第 11 回	グループ活動①（発表準備）
	第 12 回	発表レジメ提出
	第 13 回	発表準備確認
	第 14 回	グループ発表①及び質疑応答（前半）
	第 15 回	グループ発表②及び質疑応答（後半）

授業に対する予習・復習		
	予習：グループ活動の時期においては、発表に必要な資料等をあらかじめ調べるなどの予習をすること。	復習：グループ発表のための準備で分からないことばや今まで習ったことはあるが忘れてしまった用語などを見直す。
	予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	提出物の返却、発表の講評などによるフィードバックを行う。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（30%）、作品・発表（50%）、授業態度（20%）
教科書	『保育士養成課程　社会的養護内容』（春見静子他編、光生館）
参考文献	『保育福祉小六法 2018 年版』（保育福祉小六法編集委員会著、みらい）
注意事項	演習を中心とする。普段から児童問題に関心を持ち、主体的に授業に参加すること。

科目名	社会的養護内容	単位数	1	担当教員	萬燈（まんどう） 章雄（あきお）
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	社会的養護を必要としている子どもたちの現状と支援について学ぶ。実践力を学習できるよう事例研究を通して支援の方法を考えていきたい。また、支援するスタッフとしてどのような姿勢で望むことが必要なのか、倫理や責務についても学ぶ。処遇の結論よりもそれを導き出していくプロセスに重点を置いて学習する。
到達目標	１．アセスメントから支援方法まで事例を通してそのプロセスを理解している。 ２．様々なケースに応じてどのように対応していくのかを理解している。 ３．より困難な場面においても、社会的養護に携わる保育士の職務と倫理に従い行動できることを身につけている。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション～　事例研究について 演習Ⅰ　実習生が乳児院で体験したこと（事例）
	第２回	演習Ⅱ　障害児入所施設の事例（ショートステイ・医療型障害児施設）。 「障害受容」と母親の気持ちを理解する。初めて娘を施設に預ける事例。
	第３回	演習Ⅲ　障害児入所施設（医療型障害児施設）の事例 「失敗する権利」について学ぶ。嚥下が不自由になってきても普通食が食べたいという希望があつた事例。
	第４回	演習Ⅳ　発達障害児への対応事例（学童保育所・保育所） 暑い日のお散歩で、飲み物ではなくどうしてもパンが欲しいと言う子への対応について。
	第５回	演習Ⅴ　乳児院から養護施設へ 措置変更に関する事例。「愛着の移行」について学ぶ。懐いているのでこのまま乳児院でと主張する担当の保育士。
	第６回	演習Ⅵ　被虐待児への支援について（保育所・幼稚園） 愛着に問題がある子への処遇について学ぶ。担当の先生を独占したがる子への対応。もし、虐待かな？と思ったら・・・など。
	第７回	演習Ⅶ　日常生活支援（児童養護施設） 入所支援。アドミッションケアについて学ぶ。緊急に児童相談所から移送されてきた子への対応。
	第８回	演習Ⅷ　日常生活支援（児童養護施設） インケアについて学ぶ。厳しい清掃指導をしている児童指導員。部活で遅く帰ってきた子への対応について。
	第９回	演習Ⅸ　乳児院から里親へ　（児童養護施設・里親） 委託のプロセスや、施設のスタッフとしての支援のあり方など学ぶ。自分に懐いている子を里親さんへ出すと言うことは・・・。
	第 10 回	演習Ⅹ①　自分の出生について知る権利（児童養護施設・里親） ルーツを知る権利について学習する。ライフストーリーワークについて。①では事例の情報整理。
	第 11 回	演習Ⅹ②　自分の出生について知る権利（児童養護施設・里親） ②で子どもへの説明を絵にして行う。グループにして紙芝居形式で実施する。ロールプレイング。
	第 12 回	ＤＶＤ学習（児童養護施設） 被虐待児のリービングケアについて学ぶ。　なかなか自分で進路が決められない子への支援。
	第 13 回	演習Ⅺ　児童の権利擁護　被措置児童虐待 援助者としての倫理と責務について学ぶ。施設内虐待に遭遇した事例、高学齢男児から付き合って欲しいと言われた事例。
	第 14 回	演習Ⅻ①　子どもの自立支援について（児童養護施設）　情報の共有と自立支援計画について学習する。 資料に基づいて事例を整理する。（落ち着かない健人くん）。
	第 15 回	演習Ⅻ②　子どもの自立支援について（児童養護施設）　情報の共有と自立支援計画について学習する。 事例に基づき自立支援計画を作成する。（落ち着かない健人くん）。

授業に対する予習・復習		
	予習：事前に資料配布した場合は、課題に沿ってよく読んでおくこと。	復習：配布した資料を読み返すとともに、メモなども含め管理を徹底すること。
	予習に要する学習時間：概ね 15 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	原則、事例ごとに全員課題についての意見や考えなど記載して提出してもらいます。提出していただいた資料は簡単ですがコメントと評価をつけてできるだけ返却していくつもりでいます。事例Ｘはグループごとに評価しコメントします。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（40%）、作品・発表（20%）、授業態度（40%）
教科書	なし
参考文献	授業中に必要に応じて紹介します。
注意事項	基本事例も含めプリント資料配布で授業を進めます。この授業は考える課程に授業の目的がありますので、授業マナーを守り意見発表や質問など積極的な参加を評価します。回答の正誤について問いません。なお、配付した資料について、事例を個人情報と見なし、その管理方法など徹底してください。

科目名	保育課程総論	単位数	2	担当教員	まつなが しずこ 松永 静子
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	保育課程、教育課程、保育計画の意義及び編成の方法について知る。幼稚園や保育所(園)の保育内容など の保育の基本を理解した上で、保育実践における指導日案、細案などの立案の仕方を身につける。
到達目標	１．教育課程、保育の全体の計画、指導計画の意義について学び、教育課程・保育課程の編成及び指導計画の作成について目的などを理解する。 ２．保育の基本及び子どもの発達の過程・特徴について理解し、指導計画の作成を通して作成のポイント、方法について理解する。 ３．実際の保育方法や保育の形態と内容、保育記録・評価反省・改善の意義・目的について理解する。

授業計画		
	第１回	保育課程とは　オリエンテーション
	第２回	保育所保育指針と幼稚園教育要領・認定こども園教育・保育要領について
	第３回	保育所保育指針と保育課程
	第４回	幼稚園教育要領と教育課程
	第５回	保育課程の編成方法と編成のポイントその１（発達過程の理解を確認し保育課程を編成について学ぶ）
	第６回	保育課程の編成方法と編成のポイントその２（保育内容領域を理解し総合的な実践について学ぶ）
	第７回	保育課程から保育指導計画へ、作成とそのポイント
	第８回	保育指導計画の実際（３歳未満児・個別の指導計画）
	第９回	保育指導計画の実際（小学校との接続カリキュラム他）
	第10回	計画と評価（PDCA サイクル）
	第11回	保育実践の省察と評価（記録の方法）
	第12回	実習に向けて指導計画を立案してみよう（細案）
	第13回	実習に向けて指導計画を立案してみよう（細案）
	第14回	カリキュラム・マネジメントとは　これからの保育の計画について
	第15回	まとめ　レポート提出

授業に対する予習・復習	予習：　作業（指導案作成についてのワーク）のために参考書（指導案のモデルが掲載されている本）を用意する。指定なし	復習： まとめのレポートを最終回で資料を参考に書いて提出する。
	予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。	復習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。
課題へのフィードバック		
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（　○）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（80%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度（20%）レポート･課題は指導案提出５０％と最終回のまとめのレポート３０％	
教科書	『書　　名』（著者名、出版社名） 幼稚園教育要領　解説書　保育所保育指針　解説書　幼保連携型認定こども園教育･保育要領　解説書	
参考文献	『書　　名』（著者名、出版社名）	
注意事項		

科目名	保育課程総論	単位数	2	担当教員	才郷（さいごう）　眞弓（まゆみ）
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	幼稚園、保育所、認定こども園で共通化された幼児教育のポイントや幼児教育の歴史を知る。教育課程・全体的な計画と指導計画の理論と編成について理解する。また、子どもへの理解を深め、指導に生きる記録や指導計画の立案の基礎を身につけていく。
到達目標	１．幼稚園・保育所・認定こども園で共通化された幼児教育のポイントを理解している。 ２．教育課程・全体的な計画や指導計画の構造を理解している。 ３．子どもの発達に沿った指導計画の作成方法の流れを評価も含めて理解している。

授業計画

第１回	ガイダンス 幼児教育の歴史やカリキュラムの成り立ちを知る。
第２回	幼児教育の基本① 小学校教育との比較から幼児教育の「見方・考え方」を知る。
第３回	幼児教育の基本② 幼児期にふさわしい「環境」「生活」の視点から考える。
第４回	幼児教育の基本③ 「幼児教育において育みたい資質・能力」の視点から考える。
第５回	幼児教育の基本④ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（１０の姿)」の視点から考える。
第６回	幼児教育の基本⑤ 「主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング)」の視点から考える。
第７回	保育における計画の意義を理解する。 保育の質向上のための評価を理解する。
第８回	教育課程・全体的な計画の編成の基本について理解する。 ワーク形式で、子どもの姿の読み取りと記録をする。
第９回	指導計画作成の基本的な考え方を理解する。 ワーク形式で、子どもの読み取りと記録をする。
第 10 回	部分指導計画を作成する① 子どもの姿、ねらい、内容について作成手順や留意事項を知る。
第 11 回	部分指導計画を作成する② 具体的な指導内容について作成手順や留意事項を知る。
第 12 回	部分指導計画を作成する③ 具体的な指導内容について再度見直し作り上げていく。
第 13 回	グループに分かれて、作成した指導計画を基に実践演習・評価をおこなう①
第 14 回	グループに分かれて、作成した指導計画を基に実践演習・評価をおこなう②
第 15 回	個々に実践演習の自己評価をしながら PDCA サイクルを理解する。

授業に対する予習・復習	予習：シラバスを参考に、次の授業に関する内容を幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領から読み込む。実践演習の準備をする。	復習：授業に関する課題レポートを作成する。
	予習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。**

課題へのフィードバック	復習課題レポートの返却時にその都度おこなう。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（７５％)、発表（１０％)、授業態度（１５％）
教科書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領（出版社は問わない）
参考文献	『教育課程・保育課程論』（千葉武夫ほか編、中央法規）『教育・保育課程論』（岩﨑淳子ほか著、萌文書林） 『流れがわかる幼稚園・保育所実習』（浅川繭子ほか著、萌文書林） 『乳児保育演習ブック』（池田りなほか著、ミネルヴァ書房）
注意事項	１．授業態度は積極的にのぞんだ場合に評価する。

科目名	保育内容総論	単位数	1	担当教員	あさい　たくや 浅井　拓久也
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	1．具体的な乳幼児の姿や５領域のねらい及び内容と関連づけながら、保育の環境を構成し実践するために必要な知識と技術を身につける。 2．保育の多様な展開を保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。
到達目標	1．『保育所保育指針』における保育所保育の原理や原則を理解している。 2．指導計画の考え方を理解し、乳幼児の発達過程を見通した指導計画作成を身につけている。 3．乳幼児の興味や関心、発達の実情等に応じた多様な保育の展開を具体的に理解する。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション―保育内容総論では何を学ぶのか、なぜ学ぶ必要があるのか
	第２回	『保育所保育指針』に基づく保育の原理、全体構造、内容の理解
	第３回	指導計画の原理と原則（1）
	第４回	指導計画の原理と原則（2）
	第５回	指導計画の原理と原則（3）
	第６回	指導計画の原理と原則（4）
	第７回	養護と教育を一体的に展開する保育と子どもの主体性を尊重する保育
	第８回	生活や遊びによる総合的な保育（1）
	第９回	生活や遊びによる総合的な保育（2）
	第10回	生活や遊びによる総合的な保育（3）
	第11回	生活や遊びによる総合的な保育（4）
	第12回	生活や遊びによる総合的な保育（5）
	第13回	保育の多様な展開（1）
	第14回	保育の多様な展開（2）
	第15回	まとめ

授業に対する予習・復習	予習：指導計画や児童文化財について、ネットや書籍で調べてから授業に参加すること。	復習：授業で学んだことを踏まえて、他の方法や視点を考えること。
	予習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。**

課題へのフィードバック	製作物等は返却する際、補足説明や解説講義を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（〇）する／（　）しない 成績評価の方法：筆記試験（５０％）、作品・発表・実技（４０％）、授業態度（１０％）
教科書	『保育がグングンおもしろくなる　記録・要録書き方ガイド（ひろばブックス）』（宮里暁美、メイト）
参考文献	『保育所保育指針〈平成２９年告示〉』（厚生労働省、フレーベル館）
注意事項	1．画用紙を使用するため別途購入すること。詳細は授業内で伝える。 2．現役保育士等によるゲスト講義を行う。（予定） 3．本授業を保育教育実習につなげるにはどうしたらよいかを考えながら受講すること。

科目名	保育内容総論	単位数	1	担当教員	いしかわ　のぶまさ 石河　信雅
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	保育内容は「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」そして「養護」の領域があり、専門的にはそれぞれの領域を別々に学んでいる。しかし、保育実践（教育）の場面ではそれらが当然のごとく、遊びや・生活の中で一体的に進められるのである。ですから、保育内容総論は実際の保育場面で、各領域が統合して行われる実際を理解し、保育実践にいかに臨むかを事例に基づきながら学んでいく。
到達目標	１．保育所・幼稚園（幼保連携型認定こども園）に関する基本的事項を理解している。 ２．子どもの発達と保育内容との関連について理解している。 ３．各領域と保育内容について理解し、実際の保育場面での在り方を理解している。 ４．保育の実際を総合的に理解し、今後の学びへの目標設定を再度見直すことができる。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション：保育内容総論の学びの意義を理解する。また、講義についての受講態度や講義内容について理解し各自意欲化を図る。幼稚園・保育園の概要を知る。
	第２回	幼稚園教育要領・保育園保育指針（幼保連携型認定こども園保育要領）に基づく基本的な内容「５領域や養護」などについて概観し、「論」と「実践」の在り方を考察する。
	第３回	保育の実際・遊びを中心とした生活。実際の保育場面を想定し、環境構成の重要性と遊びを通して子どもは成長し様々な学びをすることを学ぶ。
	第４回	発達と保育内容。子どもの発達と保育内容との関連性を実践例を通して学ぶ。そのことにより、子どもの発達を認識し実践の場面でどのように活用するかを理解し、認識しておくことの重要性を理解する。
	第５回	年齢相当の保育２・３歳児。各年齢の成長・発達を確認し発達にあった保育内容についてこれまでの学びを統合して考え、理解する。
	第６回	年齢相当の保育４・５歳児。各年齢の成長・発達を確認し発達にあった保育内容についてこれまでの学びを統合して考え、理解する
	第７回	環境と保育について学ぶ。保育は環境をとおして行うことが基本となることを理解し、環境構成の重要性を実際の例を通して学び、理解する。
	第８回	絵本と保育。保育場面での紙芝居や絵本の読み聞かせ・素話の方法などを実体験することにより、その在り方を学び保育場面での活かし方を考察する。
	第９回	望ましい保育者像。保育や保育者の質について考察し、どのような保育者を目指すかを考えていく。その際、共同的な学びを行い学生同士が他のものの考え方などを知り、お互いの学びを深める。
	第 10 回	保育をめぐる最近の動向。特に少子化や地域社会の在り方の変容など子どもが育つ環境は大きく変貌し、今後も社会環境の変化は続いていく。そのような変化の動向を知る方法や変化への対応について考察する。
	第 11 回	多様な保育ニーズ・・特に、気になる子の保育について学ぶ。近年幼児の社会も様々な外的要因から幼児の育ちに大きな影響が見受けられる。気になる子への保育の在り方を実践例をとおして学ぶ。
	第 12 回	保幼小の連携について学ぶ。近年、小１プロブレムなどの課題が見受けられる。子どもたちは育ちの環境の変化に大きな戸惑いを見せている。子どもの育ちの環境や育ちの連続性について再考し、保幼小の連携について考察を深めていく。
	第 13 回	保護者支援・地域との連携について学ぶ。核家族化などにより保護者の子育てへの支援が非常に重要になっている。支援の方法について事例をとおして学ぶ。また、地域社会との連携の在り方について事例をとおして学ぶ。
	第 14 回	これからの保育に求められるもの。未来を生きる子どもたちを想像し、いまどのような保育を行うことが必要なのかをこれまでの学びから考察し、保育の在り方を探求する。
	第 15 回	まとめ・・学び続ける保育者へ・・保育環境は常に流動している。保育者はその流動性を感知し、常に学び、その学びを保育に活かしていかなければならない。今何をなすべきかを考え、行動できる保育者となれるよう自分自身を見直す。

授業に対する予習・復習		
	予習：講義内で次回の講義内容について知らせる。それとシラバスに則り事前に、著作物等により講義内容について学び問題意識をもって参加すること。	復習：講義内容について再度見直し自身で身に付けるようにする。また、関連内容について著作物等を参考に、様々な方法で学びを深めるようにすること。
	予習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。**

課題へのフィードバック	日々の講義の中で、レポート等を作成しそのレポートについて朱書きを入れたり、内容について講義中に説明を加えたりする。また、定期試験を実施するが解答を提示し、内容について説明し、最終評価についてなども適切な方法で説明をする。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（〇）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（５０％）、レポート・課題（２０％）、授業態度（３０％）
教科書	「平成 29 年 3 月 31 日告示　保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領」全国保育士会編、社会福祉法人全国社会福祉協議会
参考文献	講義の中で適宜提示する。
注意事項	

科目名	保育内容（健康）	単位数	1	担当教員	きたほら せいいち 北洞 誠一
		授業形態	演習		

授業の内容	保育者として子どもの自立をどのように考え、手助けし、援助・働きかけをして行くのかを、健康面から学びます。人の進化、発達過程、食、運動、心に関して健康に関する事柄を学びます。
到達目標	１．子どもにとって健康とは何かを、人類の発生と進化、そして自分にとっての健康を手掛かりにして考え理解し、考え方を身につけている。

授業計画		
	第１回	健康の考え方、領域健康の狙いと内容
	第２回	ビデオ鑑賞１：アリサ（ヒトから人間へ）
	第３回	人類の進化の過程
	第４回	乳幼児の発育発達：身体面
	第５回	乳幼児の発育発達：精神面
	第６回	遊びの重要性
	第７回	ビデオ鑑賞２：さくらんぼ坊や１
	第８回	前半のまとめ：テスト形式で前半の内容を解説する
	第９回	運動遊びの重要性
	第 10 回	生活リズムと生体リズム
	第 11 回	ビデオ鑑賞３：さくらんぼ坊や２
	第 12 回	食と健康
	第 13 回	アレルギー
	第 14 回	精神面の発達と健康
	第 15 回	後半のまとめ：テスト形式で前半の内容を解説する

授業に対する予習・復習	予習：必要事項のキーワードを調べてまとめる	復習：毎回課題を出すので宿題を行う
	予習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。**

課題へのフィードバック	前半と後半のまとめで、学習した内容の確認と解説を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（60%）、レポート・課題（20%）、作品・発表（０%）、実技（０%）、授業態度（20%）
教科書	『改訂新版保育内容健康』（宮下恭子編、大学図書出版）
参考文献	『斎藤公子の保育論』（斎藤公子、築地出版） 『生物の進化に学ぶ乳幼児期の子育て』（斎藤公子、かもがわ出版）
注意事項	

科目名	保育内容（人間関係）	単位数	1	担当教員	まるはし　さとみ 丸橋　聡美
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	保育内容の領域「人間関係」は、他の人々と親しみ支えあって生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う観点から設けられている。人とのかかわりは、人と人との心が深く結び合い、豊かなかかわりがもてるような集団が形成されることをめざすことが必要である。 子どもが人とかかわる力を養っていくために保育者はどのような援助や指導を行なっていけばよいのかを学ぶ。
到達目標	１．子どもの人間関係の発達について理解している。 ２．子どもとの関わりや援助の仕方を身につけている。 ３．子どもを捉える視点を身につけている。 ４．子どもの人間関係の育ちについて理解している

授業計画		
	第１回	オリエンテーション、子どもについて考える
	第２回	人との関わりとは
	第３回	保育の基本と人との関わり
	第４回	人との関わりに関する領域「人間関係」
	第５回	人との関わりの発達（0,1 歳児）
	第６回	人との関わりの発達（2,3 歳児）
	第７回	人との関わりの発達（4,5 歳児）
	第８回	遊びのなかで育つ人との関わり
	第９回	遊びを通して育つ子どもの基本的な人との関わり
	第 10 回	遊びを通して育つ子どもの基本的な人との関わり（事例検討）
	第 11 回	人との関わりを育てる保育の実践
	第 12 回	人との関わりの育ちをみる視点
	第 13 回	人との関わりの育ちをみる視点（事例検討）
	第 14 回	人との関わりを育てる保育者の視点（事例検討）
	第 15 回	領域「人間関係」をめぐる諸問題

授業に対する予習・復習		
	予習：小テストを行うため、その勉強を行う。	復習：授業の内容を理解し、実践（実習やボランティア活動等）に活かす。小テストの結果から振り返りを行う。
	予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	小テスト採点後返却し、説明を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　レポート（40%）、課題（20%）、小テスト（20%）、授業態度（20%）
教科書	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』・解説書
参考文献	『家庭支援の保育学』（編著　武藤安子・吉川晴美・松永あけみ、建帛社）
注意事項	必要に応じてビデオ視聴を取り入れ、資料を配布しながら進める。

科目名	保育内容（人間関係）	単位数	1	担当教員	こが　たくや 古賀　琢也
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	領域「人間関係」のねらいや内容について理解を深める。また乳幼児がどのように人とかかわる力を育んでいくのか、その発達について学び、保育者としての役割や援助の在り方について考える。映像等を用いた事例の検討やグループでの話し合いを通して、人間関係におけるこども理解や援助の視点を広げ、自ら考える力を育む。
到達目標	１．領域「人間関係」のねらいと内容を理解している。 ２．乳幼児期の人とかかわる力の発達について説明できる。 ３．人とかかわる力を育むための保育者の役割や援助の在り方を理解している。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション（授業の方針、見通しの説明）、人との関わりについて考える
	第２回	子どもを取り巻く環境と人間関係
	第３回	幼稚園教育要領、保育所保育指針と領域「人間関係」
	第４回	人とのかかわりの発達（0 歳～2 歳児）
	第５回	人とのかかわりの発達（3 歳～5 歳児）
	第６回	ここまでの振り返り、事例を通して考える
	第７回	人とかかわる力の育ちと保育者の役割（0～2 歳児）
	第８回	人とかかわる力の育ちと保育者の役割（3 歳児）
	第９回	人とかかわる力の育ちと保育者の役割（4 歳児）
	第 10 回	人とかかわる力の育ちと保育者の役割（5 歳児）
	第 11 回	トラブルの中で育つ、いざこざ場面を考える
	第 12 回	特別なニーズをもつ子ども、文化の多様性におけるかかわり
	第 13 回	幼保小の連携、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（１０の姿）を考える
	第 14 回	地域とのかかわり
	第 15 回	全体の振り返り、まとめ

授業に対する予習・復習	予習：次回内容に関しての課題に取り組む	復習：自分なりに学んだ内容をまとめる
	予習に要する学習時間：概ね 10 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね　35 分を目安とする。**
課題へのフィードバック	予習・復習に対しての小テストの解説、リアクションペーパーの解説	
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（30%）、発表（30%）、授業態度（40%）	
教科書	なし	
参考文献	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』 『新保育シリーズ　保育内容　人間関係』（友定啓子・小田豊、光生館） 『保育実践を支える　人間関係』（成田朋子・小澤文雄・本間章子、福村出版）	
注意事項	・講義を中心に行い、必要に応じてグループでの話し合いをする。 ・知識を身に着けるだけでなく、自分なりに考える態度を評価に加える。	

科目名	保育内容（環境）	単位数	1	担当教員	なかむら　よういち 中村　陽一
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

講義の内容	子どもは家庭・保育所・幼稚園・地域社会などの「環境」の中で生活し、その体験を通じて、人格形成の基礎となる豊かな心情、思考力や想像力、意欲や態度などが培われる。本講義は、子どもの成長にとって望ましい「環境」を、主に「物的環境」「自然環境」「社会環境」の面から捉え、保育者に求められる援助について理解することを目的とする。また、グループを作り討論や発表を行う。
到達目標	１．子どもの成長にとって望ましい自然体験と保育者の適切な援助方法について理解している。 ２．「環境を通した保育」の意義と、保育者に求められる援助について、自分の考えを述べることができる。 ３．自然と生命を尊重する態度を身につけ、子どもに伝えることができる。

授業計画		
	第１回	保育と環境－「環境を通して行う保育」の特質、子どもの発達と環境との関わり
	第２回	領域「環境」のねらいと内容－「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園　教育・保育要領」より。
	第３回	子どもの生活と物的環境①－保育の環境構成（保育室、園舎、園庭など）
	第４回	子どもの生活と物的環境②－幼児の主体的な活動の展開と保育者の援助
	第５回	子どもの生活と自然環境②－年間計画と具体的活動の実例、留意点
	第６回	子どもの生活と自然環境①－自然体験と子どもの生活、季節を感じる保育
	第７回	子どもの生活と自然環境②－園外保育（遠足・お散歩）の留意点と実例
	第８回	子どもの生活と自然環境③－子どもと動物の関わり、飼育動物の特徴と配慮、生命を尊重する態度、実践例
	第９回	子どもの生活と自然環境④－子どもと植物の関わり、栽培植物の特徴と配慮、実践例
	第 10 回	子どもの生活と社会環境－情報と生活、伝統的な行事との関わり、地域や施設との関わり
	第 11 回	数量や文字に関する取り扱い－子どもの生活と数、子どもの生活と文字
	第 12 回	保育内容「環境」に関わる指導計画－長期の計画、短期の計画、見通しを持った環境構成
	第 13 回	保育内容「環境」に関わる教育思想の変遷－ペスタロッチ・フレーベル・オウエン・倉橋惣三など。
	第 14 回	小学校教育への連続性－保育内容「環境」と小学校教育の「生活科」「総合学習」への連続性
	第 15 回	授業の振り返りとまとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：授業の終わりに、次回の内容と予習すべき事項を示す。	復習：小テストの解説後に復習すべき事項を示す。
	予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	授業内に小テストを実施し、その後、解答の解説と振り返りを行う。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　小テスト（70%）、授業態度（30%）
教科書	『保育所保育指針/幼保連携型認定こども園教育・保育要領/幼稚園教育要領』全国保育士会
参考文献	必要に応じて紹介する。 他の授業で指定された教科書を参照することがある。
注意事項	保育者としての自覚と問題意識を持って授業に臨むこと。

科　目　名	保　育　内　容（言　葉）	単位数	1	担当教員	いざわ　えいしゅう 伊澤　永 修
		授業形態	演習		

授　業　の 内　　容	領域「言葉」のねらいと内容についての理解を深め、言葉の発達と特徴を事例や映像を通して理解するとともに、乳幼児の発達過程に合わせた保育を構築できるように、児童文化財の意義や保育への取り入れ方などを理解するために作品の内容について検討したり、演じ合いなどのグループワークを行う。	
到 達 目 標	１．領域「言葉」について理解している。 ２．乳幼児期の言葉の発達過程が理解している。 ３．児童文化財について理解している。 ４．児童文化財の作成や演じ合いから保育へ取り入れることができるようになる。	
授 業 計 画	第１回	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ、授業の進め方や受講に際しての注意点を理解する 幼児教育の基本と保育者の役割についての理解を深める
	第２回	乳児期の言葉の発達を理解する
	第３回	幼児期までの言葉の発達とコミュニケーションの発達について理解する
	第４回	乳児期の言葉の発達における大人の存在意義と言葉の捉え方について理解する
	第５回	事例を通して子どもの言葉の受け止め方を理解する
	第６回	事例を通して子どもとの様々な体験を共有する必要性について理解する
	第７回	事例を通して言葉伝える言葉と伝わる言葉について理解する
	第８回	事例を通して感情や思い、気持ちを伝える言葉について理解する
	第９回	事例を通して集団の中での言葉の役割について理解する
	第 10 回	紙芝居を作る（ストーリーを考え、絵コンテを作成する）
	第 11 回	紙芝居を作る（紙芝居を作成する）
	第 12 回	作成した紙芝居の読み聞かせを行う
	第 13 回	様々な児童文化財についての理解を深める
	第 14 回	素話の魅力について考える
	第 15 回	振り返りを行うことで知識の定着を図り幼児教育における言葉の領域に関してより深く理解する
授　業　に 対　す　る 予習・復習	予習：テキストの該当する部分を予習する。 授業内容に合わせて事前準備を行う。	復習：授業内容についての振り返りを行う。 授業内で学んだ読み聞かせなどの演じ方や保育への取り入れ方を定着させる。
	予習に要する学習時間：概ね２５分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね２０分を目安とする。**
課題へのフィードバック	定期試験については、試験後、解答（解説が必要なときには解説も含む）を貼付する。	
成 績 評 価	試験期間における定期試験：　実施（○）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（４０％）、レポート・課題（２０％）、作品・発表（２０％）、授業態度（２０％）	
教　科　書	『事例で学ぶ保育内容』　無藤隆監修　萌文書林	
参 考 文 献	『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館	
注 意 事 項	本授業は演習授業ですので、積極的に授業に参加することを望みます。	

科目名	保育内容（音楽表現Ⅰ）	単位数	1	担当教員	はせがわ きょうこ 長谷川　恭子
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	保育における音楽表現では、体験と感受をバランス良く経験することで、豊かな感性や資質・能力が育成される。保育者は、そのための音楽経験の楽しさと音楽の美しさを理解しておく必要がある。 この授業では、「表現」領域における音楽教育の意義を理論的に理解し、多様な音楽経験をすることで実践に役立つ基礎力を育成する。
到達目標	１．表現領域「音楽」の意義をとらえ、幼児教育・保育に関する音楽表現の知識と技能を習得している。 ２．音楽表現について学び、自己の音楽的感性が身に付いている。 ３．音楽表現の活動を通して、協働して表現を作ることの楽しさを理解することで、保育における音楽活動の観点を理解している。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション
	第２回	表現領域「音楽」の歴史と意義
	第３回	幼児の音楽能力の発達
	第４回	保育における音楽表現の基礎１：音楽表現のねらい
	第５回	保育における音楽表現の基礎２：音楽と遊び
	第６回	音楽表現の展開１：音を表現する
	第７回	音楽表現の展開２：感受体験の基礎
	第８回	音楽表現の展開３：感受体験の応用
	第９回	音楽表現の展開４：表現
	第 10 回	童謡をモチーフとした表現１：教材研究
	第 11 回	童謡をモチーフとした表現２：表現法の検討
	第 12 回	童謡をモチーフとした表現３：発表
	第 13 回	歌唱表現１：ハーモニーの基礎
	第 14 回	歌唱表現２：ハーモニーの応用
	第 15 回	まとめ

授業に対する予習・復習	予習：実技の楽譜の譜読みや、練習をしておくこと。	復習：授業内容をノートにまとめ、授業から得た自己の音楽教育観についてまとめておくこと。
	予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	各活動において、適宜コメントをする。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（２０％）、発表（３０％）、実技（３０％）、授業態度（２０％）
教科書	『最新・幼児の音楽教育　幼児教育教員・保育士養成のための音楽的表現の指導』（井口太編著、朝日出版） この他に、授業時にプリントを配布する。
参考文献	『幼稚園・保育園のわらべうた・あそび〈春・夏〉』（畑玲子、知念直美、大倉三代子、明治図書） 『幼稚園・保育園のわらべうた・あそび〈秋・冬〉』（畑玲子、知念直美、大倉三代子、明治図書）
注意事項	成績評価「授業態度」には、出席状況も含む。提出物は、期限を過ぎたら受け取らないので注意すること。

科目名	保育内容（音楽表現Ⅰ）	単位数	1	担当教員	しかと　かずのり 鹿戸　一範
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	保育内容の領域「表現」について、子どもの音楽表現に関する内容を中心に、その指導理念の講義と具体的な指導方法の演習を行う。この授業では、「表現」領域における理論的な部分の講義と、多様な音楽経験を通して、保育の実践展開のための基礎的な力を養う。
到達目標	１．表現領域「音楽」の意義をとらえ、幼児教育・保育に関する音楽表現の知識と技能を習得している。 ２．乳幼児の発達の特徴を理解し、音楽表現の活動を通して、子どもの音楽的成長を促すために必要な援助ができる。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション
	第２回	表現領域「音楽」の歴史と意義
	第３回	幼児の音楽能力の発達
	第４回	保育における音楽表現の基礎１：音楽表現のねらい
	第５回	保育における音楽表現の基礎２：音楽と遊び
	第６回	音楽表現の展開１：音を表現する
	第７回	音楽表現の展開２：感受体験の基礎
	第８回	音楽表現の展開３：感受体験の応用
	第９回	音楽表現の展開４：表現
	第 10 回	童謡をモチーフとした表現１：教材研究
	第 11 回	童謡をモチーフとした表現２：表現法の検討
	第 12 回	童謡をモチーフとした表現３：発表
	第 13 回	歌唱表現１：ハーモニーの基礎
	第 14 回	歌唱表現２：ハーモニーの応用
	第 15 回	まとめ

授業に対する予習・復習	予習：教材や楽譜の譜読み、予習をしておく。	復習：授業内容を復習し、授業から得たものをまとめておく。
	予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	各活動において、適宜コメントをする。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（２０％）、発表（３０％）、実技（３０％）、授業態度（２０％）
教科書	『最新・幼児の音楽教育』（井口太　他、朝日出版社）
参考文献	
注意事項	

科目名	保育内容（造形表現Ⅰ）	単位数	1	担当教員	とよいずみ　なおみ 豊泉　尚美
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	この授業では、主に造形表現の教材研究を行います。 「音楽表現」や「人間関係」等、関連する教科と連携を図りながら、学生一人ひとりが自己表現力を身につけ、また他者の表現を受け入れることができるよう支援していきます。
到達目標	1．パネルシアターなど、制作した作品を使って発表を行い、実習のさいなどに子どもの前で明るくのびのびと表現できる。 2．制作した作品を通して、子どもたちとよく関わることができる。

授業計画		
	第1回	「表現」とは何か、保育者の表現力の必要性について
	第2回	自己紹介グッズを制作　(1)　各自準備した素材を使ってデザインする。
	第3回	自己紹介グッズを制作　(2)　作品を完成する。
	第4回	自己紹介グッズの発表
	第5回	造形表現の教材について　～パネルシアター～
	第6回	パネルシアター制作　(1) 制作する作品を決める
	第7回	パネルシアター制作　(2) 下絵を描く
	第8回	パネルシアター制作　(3) 彩色する
	第9回	パネルシアター制作　(4) 彩色する
	第10回	パネルシアター制作　(5) 彩色する・仕掛けを作る
	第11回	パネルシアター制作　(6)　仕掛けを作る
	第12回	表現の工夫をする。演出について考える。
	第13回	パネルシアター発表 (1)
	第14回	パネルシアター発表 (2)
	第15回	パネルシアター発表 (3)

授業に対する予習・復習		
	予習：各自制作したい作品を選び、準備する。 予習として制作の計画を立て、それに沿って制作を行うこと。	復習：決められた時間内に作業が終わらない場合、授業の振り返りをしつつ、作品を持ち帰って制作し、期限までに提出すること
	予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 45 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	完成した自己紹介グッズとパネルシアターの発表後に、学生それぞれの評価とアドバイスを行う。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：作品・発表（80%）、授業態度（20　%）
教科書	
参考文献	授業中に随時紹介する。
注意事項	・制作に要する材料費は自己負担とする。（授業開始後、P ペーパー代として約 800 円徴収する。） ・作品の提出期限を遵守すること

科目名	保育内容（音楽表現Ⅱ）	単位数	1	担当教員	はせがわ きょうこ 長谷川　恭子
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	保育における音楽表現では、体験と感受をバランス良く経験することで、豊かな感性や資質・能力が育成される。保育者は、そのための音楽経験の楽しさと音楽の美しさを展開する技術が必要である。 この授業では、「表現」領域における音楽教育の観点を理解し、模擬保育を実践することで、保育で展開できる指導技術を修得する。
到達目標	１．表現領域「音楽」の意義を理解し、幼児教育・保育に関する音楽表現の知識と技能が身についている。 ２．保育における音楽表現の活動のねらいを理解し、指導内容と援助について計画できる。 ３．幼児期の音楽教育について自身の保育感を持ち、それをもとに音楽表現の応用や教材選択をすることができる。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション
	第２回	保育における音楽表現の実際１：オルフ・シュールベルク
	第３回	保育における音楽表現の実際２：コダーイ・コンセプト
	第４回	アンサンブルの表現１：教材研究
	第５回	アンサンブルの表現２：教材の応用
	第６回	アンサンブルの表現３：発表とふりかえり
	第７回	わらべうたによる保育の基礎
	第８回	指導案の作成１：保育のねらいと教材の選択
	第９回	わらべうたによる保育の実際
	第 10 回	指導案の作成２：指導の内容
	第 11 回	指導案の作成３：実習のふりかえり、修正とシミュレーション
	第 12 回	模擬保育１　Ａグループの模擬保育とふりかえり
	第 13 回	模擬保育２　Ｂグループの模擬保育とふりかえり
	第 14 回	模擬保育３　Ｃグループの模擬保育とふりかえり
	第 15 回	まとめ

授業に対する予習・復習	予習： ・実技の楽譜の譜読みや、練習をしておくこと。 ・模擬授業に向けて、準備をすること。	復習：授業内容をノートにまとめ、授業から得た自己の音楽教育観や指導法のアイデアについてまとめておくこと。
	予習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	各活動において、適宜コメントをする。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（２０％）、発表（３０％）、実技（３０％）、授業態度（２０％）
教科書	『最新・幼児の音楽教育　幼児教育教員・保育士養成のための音楽的表現の指導』（井口太編著、朝日出版） この他に、授業時にプリントを配布する。
参考文献	『わらべうた わたしたちの音楽―保育園・幼稚園の実践』（コダーイ芸術教育研究所、明治図書出版） 『幼稚園・保育園のわらべうたあそび春・夏』『幼稚園・保育園のわらべうたあそび秋・冬』（畑玲子、明治図書出版）
注意事項	成績評価「授業態度」には、出席状況も含む。提出物は、期限を過ぎたら受け取らないので注意すること。

科目名	保育内容（造形表現Ⅱ）	単位数	1	担当教員	とよいずみ　なおみ 豊泉　尚美
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	この授業では、幼児の造形表現について理解を深め、子どもの表現意欲を高めるために望ましい援助のありかたを考えます。そのために、子どもの驚異、関心から出発する「プロジェクト活動」を行いますが、その中でとくに「子どもと自然をむすぶ」ことを大切にしていきます。
到達目標	１．子どもの発達に即した造形活動の指導計画が立案できるようになる。 ２．子どもの興味・関心から出発したテーマを基に、グループで協同して制作し、表現することができている。 ３．この授業内容が、他の保育内容と密接につながっていることが理解できている。 ４．自然と生命を大切にする心をもち、それを子どもに伝えることができている。

授業計画		
	第１回	授業のねらいや進め方について
	第２回	造形活動の指導計画 (1) 自然素材を使って
	第３回	造形活動の指導計画　(2) 自然素材のスタンピング
	第４回	造形活動の指導計画　(3) 自然素材のコラージュ
	第５回	子どもの表現について　～絵を中心に～
	第６回	レッジョ･エミリアの幼児教育について
	第７回	プロジェクトのテーマを探す。
	第８回	プロジェクトのテーマについてグループで話し合う。
	第９回	制作活動　(1) 各グループで決めたテーマに沿った下描きをする。
	第 10 回	制作活動　(2) テーマに沿った作品を作る。
	第 11 回	制作活動　(3) テーマに沿った作品を作る。
	第 12 回	制作活動　(4) グループごとに作品を完成させる。
	第 13 回	ドキュメンテーションを作成する。～発表の方法について話し合い、プロジェクト活動を振り返る～
	第 14 回	ドキュメンテーションを作成する。～発表に必要な資料をまとめる～
	第 15 回	グループでプロジェクトについて発表する。

授業に対する予習・復習		
	予習：制作過程について、グループでよく話し合い、素材や道具、資料等を準備することが予習となる。	復習：制作・発表に向けて､授業を振り返りつつ準備をすること。
	予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	発表の際に各グループの評価を行い、その説明とアドバイスをする。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%)、レポート・課題（10%)、作品・発表（60%)、実技（　%)、授業態度（30%）
教科書	『地球市民を育てる』森下英美子・豊泉尚美　著・圭文社
参考文献	『センス・オブ・ワンダー』レイチェル･カースン著・新潮社 『子どもたちの 100 のことば』レッジョ･チルドレン編・学習研究社
注意事項	・プロジェクト活動のための素材、道具類は、教員の方で一部用意するが、その他は各グループで その他は各グループで準備すること。

科目名	保育指導方法	単位数	2	担当教員	あさい たくや まるはし さとみ 浅井 拓久也・丸橋 聡美
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	・幼児教育学や保育学の知識に基づく実践的で具体的な保育指導方法を学ぶ授業を目指す。 ・保育教育実習につながるように、考る、話し合う、作る、演じる、発表するという実践的な内容にする。
到達目標	１．幼児教育学や保育学の知識に基づく実践的な保育指導法を身につけている。 ２．保育実践に生かせる自分の得意分野を伸ばせている。 ３．他者と対話を重ねながら主体的に学ぶ方法を身に付けている。

授業計画

第１回	オリエンテーション - 保育指導方法を学ぶために必要なこと -	第 16 回	発達に即した保育のあり方 - 事例を通じて考え合う -
第２回	保育指導方法の原理と原則 - 保育所保育指針から確認する -	第 17 回	指導計画の理論と実際① - 乳児・１歳以上３歳未満児保育を考える -
第３回	児童文化について考える - 紙芝居と絵本の比較を中心に -	第 18 回	指導計画の理論と実際② - ３歳以上児保育を考える -
第４回	絵本の特徴を学び、読み聞かせをしてみよう① - 現役保育士の保育から学ぶ -	第 19 回	素話を学ぼう① - 素話の特徴と保育における意義とは -
第５回	絵本の特徴を学び、読み聞かせをしてみよう② - 絵本を知り、読み聞かせの練習をしよう -	第 20 回	素話を学ぼう② - 素話を発表しよう -
第６回	絵本の特徴を学び、読み聞かせをしてみよう③ - 模擬保育をしよう -	第 21 回	わらべうたを学ぼう① - わらべうたを紹介する園便りを作ろう -
第７回	紙芝居の特徴を学び、演じてみよう① - 紙芝居に触れてみよう -	第 22 回	わらべうたを学ぼう② - わらべうたを発表しよう -
第８回	紙芝居の特徴を学び、演じてみよう② - 紙芝居を演じてみよう -	第 23 回	人形劇を学ぼう① - ペープサートを作り、演じる -
第９回	紙芝居の特徴を学び、演じてみよう③ - 紙芝居を演じてみよう -	第 24 回	人形劇を学ぼう② - ペープサートを作り、演じる -
第 10 回	リトミックを学ぼう① - 定番を学ぼう -	第 25 回	人形劇を学ぼう③ - ペープサートを作り、演じる -
第 11 回	リトミックを学ぼう② - 大人も子どもも楽しもう -	第 26 回	保育・教育の学びをまとめてみよう① - 学びをまとめる -
第 12 回	リトミックを学ぼう③ - 大人も子どもも楽しもう -	第 27 回	保育・教育の学びをまとめてみよう② - 学びをまとめる -
第 13 回	絵描き歌を学ぼう① - 手遊びとともに -	第 28 回	保育所・幼稚園の紹介① - 保育内容や形態の多様性を学ぶ -
第 14 回	絵描き歌を学ぼう② - 手遊びとともに -	第 29 回	保育所・幼稚園の紹介② - 保育内容や形態の多様性を学ぶ -
第 15 回	前半（1-15 回）のまとめ - 授業を振り返り、レポートにまとめる -	第 30 回	後半（16-30 回）のまとめ - 授業を振り返り、レポートにまとめる -

授業に対する予習・復習	予習：授業で扱うテーマに関して、図書館やネットで調べて、必要箇所はプリントアウトしたりノートにまとめておくこと。	復習：授業で学んだことをもう一度試してみたり指導計画にしたりすることで、学習内容を定着させること。
	予習に要する学習時間：概ね２０分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。**
課題へのフィードバック	レポート・課題等は採点後に返却し、授業内で解説講義を行う。	
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：レポート・課題（３０％）、作品・発表（３０％）、実技（３０％）、授業態度（１０％）	
教科書	『マンガでわかる！保育所保育指針　2017 年告示対応版』（浅井拓久也、中央法規出版）	
参考文献	『個性がキラリ０・１・２歳児の指導計画の立て方』（日本保育協会、中央法規出版） 『個性がキラリ３・４・５歳児の指導計画の立て方』（日本保育協会、中央法規出版）	
注意事項	１．考える、作る、描く、歌う、踊るという頭と身体を使う授業のため、積極的に参加すること。 ２．本授業を保育教育実習につなげるにはどうしたらよいかを常に考えながら受講すること。 ３．現役保育士によるゲスト講義も不定期に取り入れていく。（予定）	

科目名	~~保育指導方法~~	単位数	2	担当教員	まるはし　さとみ 丸橋　聡美
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	
到達目標	1. 2. 3. 4.
授業計画	第1回
	第2回
	第3回
	第4回
	第5回
	第6回
	第7回
	第8回
	第9回
	第10回
	第11回
	第12回
	第13回
	第14回
	第15回
授業に対する予習・復習	予習： 予習に要する学習時間：概ね　　分を目安とする。
	復習： 復習に要する学習時間：概ね　　分を目安とする。
課題へのフィードバック	
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（　　%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度（　　%）
教科書	『書　　名』（著者名、出版社名）
参考文献	『書　　名』（著者名、出版社名）
注意事項	

科目名	保育指導方法	単位数	2	担当教員	喜多濃（きたの）　定人（さだと）
ナンバリングコード		授業形態	演習		

授業の内容	これまで得てきた知識や理論を、どの様にしたら保育実践に活かせるのかを実践的に学ぶ。 模擬保育、ロールプレイ、ディスカッションを通し自己の課題や強みを知り保育者としての専門性を高める更なる学びにつなげて行けるようにする。 社会人としての基礎的なマナーを身に付ける学びを実践的に行う。
到達目標	"1．幼児期の子どもが育つ家庭や社会背景の現状を理解している。 2．環境を通した保育や、遊びを通しての総合的な指導を理解している。 3．子ども達を引き付ける保育技術（自分の強み）を身に付けている。 4．保護者対応、職員との話し合いの方法を理解している。

授業計画

第1回	オリエンテーション光輪会の紹介	第16回	園で行える公益活動とは
第2回	幼児期の子どもが育つ社会背景の現状理解	第17回	健康と安全（環境から考える）
第3回	0．1.2歳児の保育	第18回	健康と安全（食育から考える）
第4回	幼児教育とは	第19回	年中行事について
第5回	年齢に応じた絵本の選び方と読み聞かせ	第20回	子どもを引き付ける保育技術（講師が実演します）
第6回	年齢に応じた絵本の選び方と読み聞かせ	第21回	年齢に応じた、春夏秋冬の折り紙制作を考える
第7回	年齢に応じた紙芝居の選び方と読み聞かせ	第22回	年齢に応じた、春夏秋冬の折り紙制作を考える
第8回	年齢に応じた紙芝居の選び方と読み聞かせ	第23回	誕生表制作（グループで製作）
第9回	芋虫くんの製作	第24回	レクリエーション（2限連続で行えるタイミング）
第10回	子どもを引き付ける保育技術（製作）	第25回	レクリエーション（2限連続で行えるタイミング）
第11回	職員の専門性	第26回	保護者・家庭・地域との連携
第12回	職員の専門性（ロールプレイ・ディスカッション）	第27回	保護者・家庭・地域との連携（ロールプレイ）
第13回	職員間の連携（ゲストスピーカー）	第28回	他職種との連携　（ゲストスピーカー看護職）
第14回	保育に影響を与えてしまう子ども観とは	第29回	今後の幼児教育（パネルディスカッション）
第15回	環境を通した保育、遊びを通した指導とは	第30回	まとめ

授業に対する予習・復習	予習：次回の講義内容について考えてくる事（課題）を日々の生活の中で関連づけ、意見をまとめ講義に臨む。	復習：授業内で終了しなかった内容は、必ず完成させる。保育技術に関しては日々の実践の中でチャレンジする。
	予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。**
課題へのフィードバック	レポート・課題・作品において解説、講評を行う。	
成績評価	**試験期間における定期試験:　実施(　　)する/(〇)しない** **レポート・課題・作品(　30%　)、発表(　10%　)、技術(　10%　)、授業態度(　50%　)**	
教科書	**選ばれる園になるための　幼児教育の理解と実践　編著　喜多濃　定人　株式会社　チャイルド社**	
参考文献	**「実習に役立つ保育技術」百瀬　ユカリ　氏　　株式会社　創成社** **教育・保育実習安心ガイド　編著　阿部　恵　氏・鈴木　みゆき　氏　株式会社　ひかりのくに** 予習として、毎回の課題に活用できる、参考文献、参考資料を各自でみつけてくること	
注意事項	1．講義形式と、演習形式を折り混ぜながら講義を進めていきます。自身の保育教材を作成します。シラバスの次回の講義に必要な資料、教材等を忘れずに持参すること。 2．実習時期に向けた模擬保育や、保護者、職員間のコミュニケーション能力の向上を目指した実践授業を実施する。"	

科目名	乳児保育	単位数	2	担当教員	まつなが しずこ 松永 静子
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	乳児の発達を理解し、人としてひとり立ちできる過程を学ぶ 乳児が家庭と保育園を２４時間行き来している生活をとらえ、保育者としてどのような援助やかかわりが必要であるかを考え、乳児の保育を学ぶ 乳児が主体的に遊び、生活する保育とはどういうことであるのか、その意味を考え学ぶ。
到達目標	1. 乳児の育つみちすじを理解し、保育としてのかかわりや援助の具体的な方法・内容を理解している 2. 乳児が主体的に遊び生活する意味を考え、保育ではどのようなことを大切にするかを理解している 3.乳児の育ちを保育者と保護者が連携して支えていくためにどのような保護者へのはたらきかけはあるかを理解している

授業計画

第１回	乳児保育とは？乳児保育の楽しさと難しさ	第 16 回	前期の授業を振り返り「発達と保育」の理解を深める。
第２回	乳児保育の歴史、改定保育所保育指針における乳児保育について	第 17 回	乳児保育における安全事故防止
第３回	発達と保育　０歳児前半の発達の特徴	第 18 回	乳児保育における保育の計画（テキスト）
第４回	発達と保育　０歳児前半の保育内容	第 19 回	乳児保育と連携（テキスト）
第５回	発達と保育　0歳児後半～1歳3ヶ月頃までの発達の特徴	第 20 回	乳児保育と保護者支援
第６回	発達と保育　０歳児後半～1 歳 3 ヶ月頃までの保育内容	第 21 回	乳児保育と環境（１）
第７回	発達と保育　1歳4ヶ月～2歳頃までの発達の特徴	第 22 回	乳児保育と環境（２）
第８回	発達と保育　１歳４ヶ月～2 歳頃発達と保までの保育内容	第 23 回	乳児保育　発達と遊び（１）
第９回	発達と保育　２歳 11 ヶ月頃までの発達の特徴	第 24 回	乳児保育　発達と遊び（２）
第 10 回	発達と保育　２歳 11 ヶ月頃までの保育内容	第 25 回	乳児保育　発達と遊び（３）
第 11 回	身体機能の発達（運動・手指の発達）と保育内容	第 26 回	様々な乳児保育の実践（１）日本の乳児保育
第 12 回	対人関係の発達（言葉の発達）と保育内容	第 27 回	様々な乳児保育の実践（２）海外の乳児保育
第 13 回	乳児保育における安全と事故防止	第 28 回	改訂保育所保育指針と乳児保育
第 14 回	乳児保育における連携　他機関との連携	第 29 回	これからの乳児保育
第 15 回	前期のまとめ　復習テスト	第 30 回	一年間のまとめ（復習テスト）

授業に対する予習・復習	予習:授業時に使用するテキストの穴埋めのみではなく説明をよく理解し、必要なことは見開きの白紙のページにメモをしておく。	復習：前期の最後に復習テストを実施。テキストの演習問題を各自やっておくこと。 リアクションペーパーには毎回学んだことや感想などを書いて提出すること。
	予習に要する学習時間：概ね２５分を目安とする。	復習に要する学習時間：概ね２５分を目安とする。
課題へのフィードバック	テキストや授業レジュメ、資料から出題するため、回答はテキストや資料を参照。	
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（○　※前期テストと後期テストの合計）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（７０％）、レポート・課題（１０％）、作品・発表（なし）、実技（なし）、授業態度（１０％）グループワーク（２０％）	
教科書	『書　　名』（著者名、出版社名）	
参考文献	『書　　名』（著者名、出版社名） 小西行郎他『乳児保育の基本』フレーベル館 小西行郎著『知れば楽しい面白い赤ちゃん学入門』 伊藤輝子・天野珠路編著『やさしい乳児保育』青踏社	
注意事項		

科目名	乳児保育	単位数	2	担当教員	おかもと よしこ 岡本 良子
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	地域の子育て支援としての乳児保育の役割と保育の実践とを結びつけて理解できることを目的とする。 授業では、まず、乳児期の成長発達と援助について乳児保育の基礎的知識を習得する。次に、乳児保育の歩みや乳児保育が必要となる背景を理解し、さらに関係機関の役割や連携の必要性について学ぶ。
到達目標	１．乳児期の子どもの成長発達を促すための基礎的な保育方法を身に付けている。 ２．乳児保育の歴史の学習により社会保障としての乳児保育の意義を理解している。 ３．現在の子育て社会の問題を通して乳児保育の必要性を理解している。 ４．様々なソーシャル・サポートとの連携に基づいた子育て支援としての保育士の役割について理解している。

授業計画

第１回	オリエンテーション 乳児保育とは何か	第 16 回	２歳児とそれからの成長発達と援助 ③精神的発達と援助：見立て遊び
第２回	乳児の成長発達 保育園の１日	第 17 回	２歳児とそれからの成長発達と援助 ④精神的発達と援助：言葉
第３回	遊び 妊娠～誕生	第 18 回	乳児期の基本的生活習慣と援助 ①食事
第４回	新生児の成長発達と援助 ①成長発達の特徴	第 19 回	乳児期の基本的生活習慣と援助 ②排泄
第５回	新生児の成長発達と援助 ②保育内容と適切な	第 20 回	乳児期の基本的生活習慣と援助 ③健康
第６回	１～４か月児の成長発達と援助 形態的成長、機能的発達・精神的発達と援助	第 21 回	社会保障としての乳児保育の変遷 ①戦後の社会福祉基礎構造の確立
第７回	５～１２か月児の成長発達と援助 ①形態的成長	第 22 回	社会保障としての乳児保育の変遷 ②高度経済成長、社会福祉基礎構造改革
第８回	５～１２か月児の成長発達と援助 ②機能的発達と援助	第 23 回	乳児保育の必要性 ①親になるということ
第９回	５～１２か月児の成長発達と援助 ③精神的発達と援	第 24 回	乳児保育の必要性 ②母子保健活動：妊娠期
第 10 回	１歳児の成長発達と援助 ①形態的成長、機能的発達と援助	第 25 回	乳児保育の必要性 ③母子保健活動：産後
第 11 回	１歳児の成長発達と援助 ②精神的発達と援助：対人	第 26 回	乳児保育の必要性 ④虐待の予防：適切なかかわり
第 12 回	１歳児の成長発達と援助 ③精神的発達と援助：言葉	第 27 回	乳児保育の必要性 ⑤虐待の予防：育児不安の原因
第 13 回	２歳児とそれからの成長発達と援助 ①形態的成長、機能的発達と援助	第 28 回	乳児保育の必要性 ⑥虐待の予防：育児不安への対策
第 14 回	２歳児とそれからの成長発達と援助 ②精神的発達と援助：自我の芽生え	第 29 回	乳児保育の必要性 ⑦虐待の予防：要補完
第 15 回	前期の振り返りとまとめ	第 30 回	関係機関との連携

授業に対する予習・復習	予習：日常生活の場やニュース・新聞等を通して子供の発達や子育てに関する出来事に関心を持ち、各回の講義テーマへ問題意識を持って授業にのぞむこと	復習：各回の講義のテーマを意識しながら配布プリントに目を通し、その回の内容の理解を深めておくこと。
	予習に要する学習時間：概ね２０分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね２５分を目安とする。**
課題へのフィードバック	定期試験終了後、解説を実施する。	
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　○　）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　７０　%)、授業態度（　３０　%）	
教科書	なし 授業にてプリント配布する。	
参考文献	『新・乳児の生活と保育』(松本園子　編著、ななみ書房)、 『乳児の発達と保育―遊びと育児』(園と家庭を結ぶ「げんき」編集部　エイデル研究所) 『乳児保育』(CHS 子育て文化研究所、萌文書林)	
注意事項	授業中の私語、携帯電話等の使用、飲食、化粧等講義に支障となる行為は禁止する。	

科目名	乳児保育	単位数	2	担当教員	榊原　久子（さかきばら　ひさこ）
		授業形態	演習		

授業の内容	保育士としての資質能力を身に付けるため必要な、知識と技術、態度を習得することを目的とする。 また、乳児の発達保障、保護者の支援、地域社会の子育て支援を基本柱として学び、これからの社 会における乳児保育のあり方を考察する。
到達目標	１．0，1，2歳児の子どもの発達や育ちを理解している ２．現代の乳児保育を取り巻くさまざまな問題を分析し、その解決、援助となる具体的な方法を身に付けている ３．事例研究や演習などを通して、保育士として必要な乳児保育の知識を獲得している ４．乳児保育を担当する保育者として必要な基本的な知識・技能を身につけている

授業計画

第１回	オリエンテーション 授業の進め方を知る	第 16 回	乳児期の病気や健康について
第２回	0・1・2歳児の基本的理解 乳児期の発達の概観を理解する	第 17 回	乳児期の事故と安全について
第３回	妊娠出産育児を取り巻く実状について 妊娠出産包括支援・子育て世代包括支援について学ぶ	第 18 回	0歳児の発達とアセスメントの視点について
第４回	乳児保育の現状と課題 乳児保育の課題と保育者の役割について学ぶ	第 19 回	1歳児の発達とアセセメントの視点について
第５回	乳児の食事① 0歳児：授乳・離乳食（食べさせ方）について	第 20 回	2歳児の発達とアセスメントについて
第６回	乳児の食事② 1～2歳児：	第 21 回	乳児保育実践① 沐浴・衣類の着脱
第７回	乳児の排泄 おむつ替えの仕方と排泄の自立について	第 22 回	乳児保育実践② 抱っことおんぶ
第８回	乳児の睡眠 0～２歳児の睡眠と睡眠リズムについて	第 23 回	地域母子保健① 母子健康手帳の見方・乳児検診・予防接種
第９回	乳児期の環境構成① 0歳児の保育における環境構成と配慮	第 24 回	地域母子保健② 地域子育て支援・子育てひろばについて
第 10 回	乳児期の環境構成② １歳児の保育における環境構成と配慮	第 25 回	乳児保育の計画について
第 11 回	乳児期の環境構成③ ２歳児の保育における環境構成と配慮	第 26 回	指導計画の作成と保育に生かす記録
第 12 回	乳児の遊び① 0～１歳児の遊びと保育者の関わりについて	第 27 回	保護者との連携及び保護者への支援
第 13 回	乳児の遊び① １～２歳児の遊びと保育者の関わりについて	第 28 回	連絡帳について　まとめ
第 14 回	乳児の玩具① 保育所における乳児保育/0歳児の玩具について	第 29 回	気になる子どもへの保育及び支援について
第 15 回	乳児の玩具② 保育所における乳児保育/1～2歳児の玩具について	第 30 回	子育て支援と他機関との連携について および後期の振り返り

授業に対する予習・復習	予習:次回の授業内容のテキストの該当ページ等を事前学習する	復習：振り返りのレポートを記載する
	予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。**
課題へのフィードバック	講義中の発表に対する評価と振り返りシートにてフィードバックをおこなう	
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（〇）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（４0%）、レポート・課題（20%）、作品・発表（%）、実技（　10　%）、授業態度（20　%）	
教科書	「乳児保育　一人ひとりが大切に育てられるために」吉本和子　エイデル研究所	
参考文献	「乳児の発達と保育―あそびと育児」園と家庭を結ぶ「げんき」編集部　エイデル研究所 「0・1・2歳児の担任になったら読む本　育ちの理解と指導計画」今井和子　小学館	
注意事項	授業の準備として、日頃から乳児に興味をもち、機会があれば丁寧に観察をすること。また、実技の授業では自発的に準備・片付けを行うこと。乳児室が空いているときは、自主的に人形を用いて実技練習を行うこと。	

科目名	指導技術	単位数	2	担当教員	しまだ　さだこ 嶌田　貞子
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	（保育実技） 保育現場で実践されている様々な保育方法や指導技術について、調べて理解し、体験する。 個人で、あるいはグループで協力して保育実技について学び、製作し実践できるようにする。
到達目標	１．子どもの遊びを援助・発展させる様々な保育方法や指導技術を調べ、体験して理解している。 ２．保育現場で実践する際の準備や配慮点を知り、実際に製作・練習して、実践できる。 ３．保育実践の歴史から、保育方法のあり方を学んで理解している。

授業計画

第１回	オリエンテーション（授業の進め方、評価方法等） 乳幼児期を振り返って	第 16 回	
第２回	手遊び① 子どもが喜ぶ手遊び・わらべ歌を体験してみよう	第 17 回	
第３回	手遊び② 子どもの発達段階に適した手遊びを調べ、理解する	第 18 回	
第４回	素話・絵本・紙芝居① 持ち方、読み方、環境設定について学ぶ	第 19 回	
第５回	素話・絵本・紙芝居②　グループフィールドワーク 子どもの年齢や季節・行事に適した素材を選ぶ	第 20 回	
第６回	新聞紙で遊ぼう① 身近な素材（新聞・広告紙）を使用して製作する	第 21 回	
第７回	新聞紙で遊ぼう② 季節や発達に合う運動遊び、ゲームを調べて体験する	第 22 回	
第８回	様々な保育技術があることを理解する （ペープサート、軍手人形、エプロンシアター等）	第 23 回	
第９回	積み木と粘土（DVD 視聴） フレーベルの積み木や恩物について調べる	第 24 回	
第 10 回	折り紙を使って① 季節や行事、遊びに活用できる物を折る	第 25 回	
第 11 回	折り紙を使って② フレーベル考案の切り紙を体験する	第 26 回	
第 12 回	季節と園行事① 幼稚園や保育所、こども園での園行事を調べる	第 27 回	
第 13 回	季節と園行事②　グループワーク 園行事の壁面装飾を協力して製作する	第 28 回	
第 14 回	季節と園行事③　グループワーク 園行事の壁面装飾を協力して製作する	第 29 回	
第 15 回	発表と授業のまとめ グループごとに、製作した壁面装飾について発表する	第 30 回	

授業に対する予習・復習	予習：手遊びの発表準備の為に、表情を確認しながら繰り返し練習しておく。 次回授業の内容を示すので、教科書を読んで、課題を調べて記入しておく。	復習：授業での体験を振り返って記録・製作し、次回の発表に活かせるよう練習する。
	予習に要する学習時間：概ね　30　分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね　60　分を目安とする。**
課題へのフィードバック	授業内で提出した課題の解説を実施する。	
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（　○）しない 成績評価の方法：　課題（　30　%）、作品・発表（　30　%）、実技（　20　%）、授業態度（　20%　）	
教科書	『保育方法の基礎』（柴崎正行編・嶌田貞子他著、わかば社）	
参考文献	『フレーベルの恩物で遊ぼうー絵画・造形編ー』（玉成恩物研究会編著、フレーベル館） 『保育所保育指針解説書』（厚生労働省、フレーベル館） 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館）	
注意事項	（保育実技） 授業内で保育実技の実践をするので、教科書を始め＜折り紙、のり、はさみ、定規、セロテープ、ホチキス、色鉛筆(クーピー)等＞を持参すること。授業で指示するが、A4 のクリアファイルを用意する。	

科目名	指導技術	単位数	2	担当教員	たじま　だいすけ 田島　大輔
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	（保育方法・実技・技能） 保育現場で実践されている様々な保育方法や指導技術について、主体的に参加し体験する。 個人あるいはグループで協力して保育実技や方法について学び、実践できるようにする。
到達目標	１．子どもの主体的な遊びを援助する保育方法や指導技術を体験して理解している。 ２．保育現場で実践する際の準備や配慮点を実際に体験し実践する。 ３．多様な保育の実際を知り理解している。

授業計画

第１回	オリエンテーション（授業の進め方、評価方法等） 幼稚園・保育所・認定こども園について（映像）
第２回	保育という営みについて① 保育の中に大事にしたいこと
第３回	保育という営み② 幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育保育要領について
第４回	具体的指導法① 体でできる遊びの体験と援助と配慮のポイントについて
第５回	具体的指導法② 集団での遊び体験と援助と配慮のポイントについて
第６回	具体的指導法③ 絵本・紙芝居などの児童文化財の体験と援助と配慮のポイントについて
第７回	具体的指導法④ グループワーク・中間の学びの確認
第８回	具体的指導法⑤ ペープサート、エプロンシアター等視覚効果の高い教材体験と援助と配慮のポイントについて
第９回	具体的指導法⑥ 新聞紙など身近な素材の体験と援助と配慮のポイントについて
第 10 回	具体的指導法⑦ 折り紙を使って季節や行事、遊びに活用できる物の体験と援助と配慮のポイントについて
第 11 回	保育の実際① 保育の実際を映像で体験し援助と配慮のポイントについて考える
第 12 回	保育の実際② ビデオカンファレンスについて
第 13 回	保育の実際③ 季節と園行事について
第 14 回	保育の実際④ 自然・環境をいかした保育について
第 15 回	授業のまとめ

授業に対する予習・復習	予習：　次回授業の内容を示すので、調べておく。	復習：授業での体験を振り返って記録し、次回に活かせるようする。
	予習に要する学習時間：概ね　30　分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね　60　分を目安とする。**

課題へのフィードバック	授業内で提出した課題の解説を実施する。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（〇）する／（　）しない 成績評価の方法：課題（３０％）、体験への参加（２０％）、小テスト（４０％）、リアクションペーパー（１０％ ）
教科書	『保育内容の理論と実践』(太田光弘編著･田島大輔他、保育出版会)
参考文献	『保育実習リアルガイド』(岸井慶子編著･田島大輔他、学研教育みらい) 『保育所保育指針解説書』（厚生労働省、フレーベル館） 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館）
注意事項	授業内で保育実技やグループワークをするので、積極的に参加することを望む。

科目名	指導技術	単位数	2	担当教員	みやばやし　よしこ 宮林　佳子
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	・幼児の発達段階に沿った、興味・関心を引き出せるような活動方法を身につける。 ・各教科で培った知識を総合的に活用し、保育者として必要な心構えや専門性を高め、保育現場をイメージしながら指導技術を習得する。 ・未分化な子ども達にとって園生活は関係性と連続性が求められる子ども達の感性を広げていけるよう物を作る、描くということを中心に様々な保育技術を習得する。 ・子ども達一人ひとりの気持ちに寄り添える言葉や態度を身につけていく。
到達目標	１．子どもの発達の特徴を知ると共に、興味・関心を捉える目を身につけている。 ２．子どもに適した絵本やおはなしを選ぶ力を身につけている。 ３．子どもの気持ちや表現に寄り添う力を身につけている。 ４．協力しながら進めることで保育者としての資質を身につけている。

授業計画

第１回	授業の概要説明（構成、展開、目的、成績評価など）	第 16 回	授業の概要説明（構成、展開、目的、成績評価など）
第２回	保育園の基本的な生活と一日の活動	第 17 回	発達と造形表現の活動のねらいと指導上の留意点
第３回	絵本の世界を楽しみながら想像を広げる	第 18 回	季節別・年齢別教材の作成　（切り紙構成１ 指人形）
第４回	絵本の選び方	第 19 回	季節別・年齢別教材の作成　（切り紙構成 ２　人体）
第５回	展開と導入について	第 20 回	季節別・年齢別教材の作成　（幼児期の特徴的表現）
第６回	第３回～第５回の活動を基に計画を立てる	第 21 回	実習に向けて第１７回～第２０回の授業を基に考え、指導案を作成する
第７回	計画を基に実践発表し自己評価する	第 22 回	計画を基に実践発表し自己評価する
第８回	計画を基に実践発表し学び合う	第 23 回	計画を基に実践発表し学び合う
第９回	集団遊び（ゲーム、ダンス等）	第 24 回	みんなでつくる造形表現（集合制作・共同制作）
第 10 回	紙遊び１（折って遊ぶ）	第 25 回	季節別・年齢別教材の作成　（絵の具での表現 1）
第 11 回	紙遊び２（ハサミの使い方）	第 26 回	季節別・年齢別教材の作成　（絵の具での表現 2）
第 12 回	乳児期の活動　手作りオモチャ　1 （手の発達とオモチャ）	第 27 回	運動遊び１
第 13 回	乳児期の活動　手作りオモチャ　2 （手の発達とオモチャ）	第 28 回	運動遊び２
第 14 回	子ども達の気持ちに寄り添う保育とは（言葉かけ）	第 29 回	子ども達の気持ちに寄り添う保育とは　（資質向上）
第 15 回	前期の振り返りとまとめ	第 30 回	一年間の振り返りとまとめ

授業に対する予習・復習	予習：　授業の終わりに次回の内容と予習の方法について伝える。	復習：　毎回授業後、内容をまとめ自分の課題を見つけるようにする。
	予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。**
課題へのフィードバック	レポート課題などに対しては参考資料等を提示する。□作品・発表・実技等はモデルを示すとともに個々にフィードバックを行う。	
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：レポート・課題（30%）、作品・発表（20%）、実技（20%）、授業態度（30%）	
教科書	『絵の具大好き　絶対描きたくなる！幼児の絵画活動 季節別・年齢別題材５０』（宮林佳子、明治図書）	
参考文献	必要に応じて紹介する	
注意事項		

科目名	教育相談	単位数	2	担当教員	あおやま　ゆき 青山　有希
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	教育相談は、保護者に対して、家庭や園における子どもの問題について、プラスの方向にもっていくアドバイス等を行う実践活動である。本講義では、現場で役に立ち、かつ保護者の気持ちに寄り添う教育相談の実践力を身に付ける。
到達目標	１．教育相談の基本を習得している。 ２．保護者が元気に子育てできるようなアドバイス等を習得している。 ３．保護者の気持ちに寄り添うセンスや工夫を習得している。

授業計画		
	第１回	オリエンテーション
	第２回	親になるということ①　妊娠期
	第３回	親になるということ②　出産
	第４回	保護者の信頼を得る文章作成方法①
	第５回	第一子の子育ての意味合い
	第６回	発達の凸凹のある子どもの子育て
	第７回	障がいのある子どもの子育て
	第８回	難しい親への対応
	第９回	保護者の信頼を得る文章作成方法②
	第 10 回	学習到達確認課題
	第 11 回	教育相談の支援内容
	第 12 回	グループワーク①　親を元気にする支援方法
	第 13 回	グループワーク②　子どもを元気にする支援方法
	第 14 回	教育相談で心がけること
	第 15 回	振り返りとまとめ

授業に対する予習・復習	予習：自分の母子手帳があれば目を通しておく。 保育園・幼稚園時代の連絡帳があれば目を通しておく。	復習：資料を見て振り返っておく。自分の文章が保護者の信頼を得る文章か見直しておく。
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	口頭でのフィードバックを行う。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（30%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度（70%）
教科書	なし （適宜資料を配布）
参考文献	『子どものこころを育てる「ひとこと」探し』（菅野　純、ほんの森出版） 『子どもの問題と「いまできること」探し』（菅野　純、ほんの森出版）
注意事項	１．積極的に自分の感じ考えたことを発言することを期待する。 ２．体験学習も行うので「楽しみながら」取り組むことを期待する。

科目名	教育相談	単位数	2	担当教員	今水（いまみず）　豊（ゆたか）
ナンバリングコード	0000000	授業形態	講義		

授業の内容	教育相談は、家庭や幼稚園における子どものさまざまな問題について、その望ましい解決に向けて助言や援助を行う実践活動である。もちろんその有用性は保育園においても同様である。 授業ではまず援助の前提となる子どもの発達の総まとめをする。次に子どもに起こりうる問題と相談場面の実際を紹介していく。
到達目標	１．発達を多角的にとらえることができている ２．発達の知識と臨床心理学的な知識を援助活動に活かすことができている ３．相談に必要な臨床心理学的な見立てについて理解している

授業計画

第１回	Ⅰ 教育相談とは何か　①相談の必要性
第２回	Ⅰ 教育相談とは何か　②相談のながれ
第３回	Ⅱ 子どもの発達の特徴　①発達の表の作成（身体・運動・言語の発達）
第４回	Ⅱ 子どもの発達の特徴　②発達の表の作成（認知・親子関係の発達）
第５回	Ⅱ 子どもの発達の特徴　③発達の表の作成（親子関係の発達）
第６回	Ⅱ 子どもの発達の特徴　④発達の表の作成（社会心理的発達）
第７回	Ⅲ 子どもに見られる発達・心理的問題　①発達障害の実際
第８回	Ⅲ 子どもに見られる発達・心理的問題　②特別支援教育
第９回	Ⅲ 子どもに見られる発達・心理的問題　③養育者の実際
第 10 回	Ⅲ 子どもに見られる発達・心理的問題　④虐待
第 11 回	Ⅲ 子どもに見られる発達・心理的問題　⑤大震災と PTSD
第 12 回	Ⅲ 子どもに見られる発達・心理的問題　⑥心のケアの実際
第 13 回	Ⅳ 相談の実際　①教育相談の意義
第 14 回	Ⅳ 相談の実際　②遊戯療法
第 15 回	Ⅳ 相談の実際　③遊戯療法の実際

授業に対する予習・復習	予習：次回の授業内容を伝えるので調べておくこと。普段から上記のキーワードに関する記事やニュース、話題を意識しておくことが望ましい。	復習：その日のうちに授業内容をもう一度把握すること。わからない内容や疑問に思うことは、授業後質問して理解すること。
	予習に要する学習時間：概ね　９０分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね　９０分を目安とする。**

課題へのフィードバック	定期テスト直後に答え合わせと解説を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（〇）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（50%）、レポート・課題（30%）、授業態度（20%）
教科書	なし（適宜資料を配布）
参考文献	授業にて適宜紹介
注意事項	講義形式で行う。 教育相談では、保護者の相談ごとに耳を傾け、その心情を理解する謙虚な態度が不可欠である。 その姿勢を身につけるためにも、授業をしっかり聞き理解するという構えを求める。

科目名	教育実習	単位数	4	担当教員	おおくまみかこ　しまだ　さだこ 大熊美佳子・嶌田　貞子他
ナンバリングコード	0000000	授業形態	実習		

授業の内容	教育実習は幼稚園教諭の免許状を取得するための必須科目である。これまで学んできた学校での理論を総合的に整理し、保育の場でどのように具現化・統合化されているのかを理解する。また、前期実習・後期実習を通し、幼稚園での子どもの生活や保育者の日々の営みについて理解し、幼稚園教諭（保育者）として必要な技術を習熟していく。
到達目標	１．教育実習の意義を理解し、課題を持ち実習に臨むことができている。 ２．前期・後期実習を通して、子どもの発達・実態把握と子ども理解を深めることができている。 ３．幼稚園の機能や活動内容を理解し、幼稚園教育の場を総合的に理解している。 ４．実習を通し、社会人としてのマナー、保育者としての使命感を認識することができている。

授業計画	○前期教育実習：見学・観察・参加実習	○後期教育実習：参加・指導実習
	幼稚園で生活する子どもや保育者の日々の営みについて、見学・観察をする。また、子どもの実態や保育内容、保育者の職務等について理解を深める。具体的には、以下の５つのねらいを持ち10日間の実習を行う。	前期実習での体験、大学で学んだ理論や技術を基に、幼稚園教育の場を総合的に理解する。また、実習生が主体となって指導する実践体験を積み重ねることにより、保育者論や指導技術の向上を図る。具体的には、以下の３つのねらいを持ち10日間の実習を行う。
	（1）一日の保育の流れを理解する。	（1）幼稚園の機能や活動内容を理解する。
	（2）子どもの生活実態と活動の様子を理解する。	（2）大学で学んだ理論や技術と実践との関連性を確認する。
	（3）保育者の職務内容や保育活動について理解する。	（3）社会人としてのマナー、保育者としての使命感等を認識する。
	（4）保育者としての自覚・態度を確認する。	
	（5）今後の学習の目標や自己課題について確認する。	

授業に対する予習・復習	予習：実習に必要な教材研究やピアノの練習を行うこと。また、幼児教育研究の授業をしっかり受け、必要な準備を行うこと。	復習：実習日誌の記入を行いながら、日々の学びのまとめや反省、振り返りを行うこと。また、その繰り返しのなかで自己の課題を明確化していくこと。
	予習に要する学習時間：概ね　60　分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね120分を目安とする。**

課題へのフィードバック	・実習園の評価表を基に、学生と面談を実施しフィードバックする。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　実習課題（　20　%）、実習日誌（　30　%）、実習園による評価（ 50　%）
教科書	『実習の手引き』(実習委員会) 『幼稚園・保育所・施設実習　子どもの育ちと安全を守る保育者をめざして』茗井香保里編著　大学図書出版
参考文献	授業内で紹介する。
注意事項	1.「幼児教育研究」を履修し、準備をすると同時に実習生としてふさわしい言動を心掛けること。 2. 実習関係報告書類の提出遅延、実習中の怠惰、非行等があった場合には、「実習派遣規制」に基づき、実習の停止、中止等が行われる場合があるため注意すること。

科目名	幼児教育研究	単位数	1	担当教員	おおくまみかこ 大熊美佳子　他
ナンバリングコード	0000000	授業形態	実習		

授業の内容	教育実習と並行して行われる授業であり、教育実習に関する事前事後の指導を行う。具体的には、教育実習の目的、幼稚園の機能、幼稚園教諭の職務内容について学ぶとともに、実習手続きに必要な書類の作成の指導を行っていく。前期・後期実習の各段階における実習内容や目的、実習記録の方法、指導計画の理解と作成について学習することを目的とする。
到達目標	１．教育実習の事前準備として、実習の心構えを理解し、実習に必要な態度や意欲を身につけている。 ２．教育実習の事前準備として、実習の課題を明確にしている。 ３．２回の実習の事前事後指導を通し、保育者としての資質・能力を身につけている。

授業計画

第１回	幼稚園教育の意義・目的	第 16 回	後期実習の目的・心得
第２回	教育実習の目的理解	第 17 回	実習手続き書類の作成指導（調査書について）
第３回	前期実習の目的（参加・観察実習）	第 18 回	実習課題の説明・作成
第４回	前期実習参加の心得	第 19 回	部分・責任実習の留意点
第５回	実習手続き書類の作成指導（配当資料について）	第 20 回	実習日誌の作成指導①―保育の記録・振り返り―
第６回	実習手続き書類の作成指導（調査書について）	第 21 回	実習日誌の作成指導②―後期実習での視点について―
第７回	オリエンテーションについて	第 22 回	指導計画案の作成指導①－指導案とは―
第８回	持ち物・身だしなみについて	第 23 回	指導計画案作成指導②－遊びのカードの作成―
第９回	幼稚園の一日の流れと実習日誌の書き方	第 24 回	指導計画案作成指導③－指導案作成（製作活動）―
第 10 回	参加・観察実習の留意点	第 25 回	指導計画案作成指導④－指導案作成の留意点の説明―
第 11 回	実習日誌の作成指導①－実習園の概況・環境等―	第 26 回	指導計画案作成指導⑤－指導案作成（ゲーム・異年齢）－
第 12 回	実習日誌の作成指導②－保育の記録・振り返り―	第 27 回	オリエンテーション報告書・実習報告の作成
第 13 回	実習課題についての説明	第 28 回	実習の総括①（振り返り・自己評価）
第 14 回	直前指導・まとめ	第 29 回	実習の総括②（グループワーク）
第 15 回	実習評価と反省	第 30 回	実習の総括③（課題の明確化）

授業に対する予習・復習	予習：実習に向けての教材研究を行うこと。次回の授業までの宿題、資料作成を行うことで、予習・復習となるため、しっかり目を通し、遅れのないようにすること。	復習：次回の授業までの宿題、資料作成を行うことで、予習・復習となるため、しっかり目を通し、遅れのないようにすること。
	予習に要する学習時間：概ね　　分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね　　分を目安とする。**
課題へのフィードバック	個別面談にて、実習に関する評価を伝える。	
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（60%）、授業態度（30%）、諸手続き（10%）	
教科書	『実習の手引き』（実習委員会） 『幼稚園・保育所・施設実習～子どもの育ちと安全を守る保育者をめざして～』（茗井香保里編著、大学図書出版）	
参考文献	必要があれば授業内で紹介	
注意事項	１．実習について必要な事柄や注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。 ２．実習書類の遅延、授業態度の怠慢等は「実習派遣規制」によって禁じられており、実習派遣ができなくなるので十分に留意すること。	

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）	単位数	2	担当教員	とよいずみ　なおみ 豊泉　尚美　他
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	これまでの教育に関する科目および教職に関する科目の学修や実習経験を踏まえ、保育士・幼稚園教諭として必要な以下の４つの事項を中心に、学びを振り返り、将来の教職生活のために自己課題を見つける。 ①　使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項　②　社会性や対人関係能力に関する事項 ③　幼児理解や学級経営等に関する事項　④　教科・保育内容等の指導力に関する事項 尚、学生が主体的に学ぶことを基本とし、これまで履修してきた科目や実習のつながりを理解し、保育を総合的にとらえることができるよう演習を展開する。
到達目標	幼児教育学科のディプロマポリシーに照らして、本演習を通して保育士・幼稚園教諭として必要な以下の資質能力を身につけている。 １．誠実で責任感が強く、社会人としての良識をわきまえた言動ができている。 ２．幼児教育学・保育学の知識と技能をしっかりと習得している。 ３．自分で積極的に課題を見つけて考えることができている。 ４．他の人たちと対話を重ね、互いの良さを生かして協働する姿勢を身につけている。 ５．子どもを取り巻く環境や、子どもを巡る様々な社会問題の理解を通して、多様なものの見方ができている。 ６．自然と生命を大切にする心をもち、子どもと共に育ち合う姿勢を身につけている。 ７．他者の表現を認め、自らものびのびと自己表現をすることができている。

授業計画		
	第１回	保育・教職実践演習（幼稚園）の授業の進め方について・これまでの学修の振り返り（履修カルテの記入）
	第２回	保育者の役割、職務内容、子どもに対する責任等について　(1)　（講義・レポート）
	第３回	保育者の役割、職務内容、子どもに対する責任等について　(2)（グループ討議）
	第４回	学級経営、学級経営案の作成について（講義･レポート）
	第５回	幼児の理解について（講義・レポート）
	第６回	組織の一員としての自覚（講義・レポート）
	第７回	保護者や地域の関係者との人間関係の構築について（グループ討議・ロールプレイング）
	第８回	子どもを取り巻く環境、子育てに関する社会問題について（講義・レポート）
	第９回	感性と認識についてのフィールドワーク　（自然保育実習）
	第 10 回	保育内容「表現」のグループワーク　（自然保育実習の振り返りを含む）
	第 11 回	音楽表現活動の鑑賞
	第 12 回	各種実習の振り返りのドキュメンテーションについて　（ 講義・作成の準備）
	第 13 回	各種実習の振り返りのドキュメンテーション作成
	第 14 回	ドキュメンテーションをもとにしたグループ発表
	第 15 回	授業全体の振り返り・資質能力の確認、まとめ

授業に対する予習・復習		
	予習：授業前に課される課題の準備をしておくこと	復習：つながりのある授業を行っていくので、授業内容をそのつど確実に理解するよう努めること。
	予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	課題や発表、ドキュメンテーション等の作成後、評価と共に講評も行う。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（20%）、作品・発表（40%）、授業態度（40%）
教科書	必要に応じて資料を配布する
参考文献	必要に応じて随時紹介する。
注意事項	グループ討議やドキュメンテーション、制作、発表等を行い、協働して学ぶことを大切にするため、主体的に演習に取り組むこと。

科目名	保育所実習Ⅰ	単位数	2	担当教員	まるはしさとみ　おぐち　すぐる 丸橋聡美・小口　偉
ナンバリングコード	0000000	授業形態	実習		

授業の内容	保育士証取得を目的とする保育実習は、保育に関する講義や演習で学んできた内容を保育所及び保育所以外の児童福祉施設等で実践するものである。保育所実習のうち前期実習が保育所実習Ⅰとなる。（後期実習は、保育所実習Ⅱとして実施）
到達目標	１．保育所の生活に参加し、観察や関わりを通して子どもを理解している。 ２．保育所の役割や機能、職務倫理について理解している。 ３．日々の保育の展開、保育の計画や記録の仕方を体験し、実践の仕方を身につけている。 ４．保育士としての業務内容を理解している。

授業計画		
	第１回	実習施設について理解する
	第２回	保育の一日の流れを理解し、参加する
	第３回	子どもの観察とその記録より子どもを理解する
	第４回	子どもの発達過程を理解し、子どもへの援助やかかわりを学ぶ
	第５回	保育の計画や子どもの発達過程に応じた保育内容を学ぶ
	第６回	子どもの生活や遊びと保育環境を学ぶ
	第７回	子どもの安全及び疾病予防への配慮について理解する
	第８回	保育課程の意義を理解しそれに基づく指導計画を学ぶ
	第９回	記録に基づく省察や自己評価を行なう
	第10回	子どもの最善の利益を具現化する方法について学ぶ
	第11回	保育士の業務内容や職員間の役割分担と連携について理解する
	第12回	保育士の役割と職業倫理を学ぶ
	第13回	
	第14回	
	第15回	

授業に対する予習・復習		
	予習:実習で必要とされる保育技術の習得に励むこと。子どもを理解するための発達など知識やかかわり体験を増やすこと。	復習：実習後に自身を振り返り、次の実習に向けて自己課題の達成に努める。
	予習に要する学習時間：概ね　　分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね　　分を目安とする。**

課題へのフィードバック	実習園からの評価を伝える評価面談を実施する。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（　）しない 成績評価の方法：　実習課題（20%）、実習日誌（30%）、施設による評価（50%）
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）、『保育所保育指針』 『幼稚園・保育所・施設実習　～子どもの育ちと安全を守る保育者を目指して～』（仮題）（茗井編著、大学図書出版）
参考文献	なし
注意事項	「保育所実習研究Ⅰ」で履修した内容を実践すると同時に、保育所の指導を受け、実習生としてふさわしい言動がとれるように、日常生活において十分に留意すること。また、実習関係報告書類の提出遅延、実習中の怠惰、非行等があった場合は、本学の「実習派遣規制」によって、実習の停止、中止等が行なわれる場合があり、保育士証取得が出来ないことになるので厳重に注意すること。

科目名	施設実習	単位数	2	担当教員	しのはらあみ　みよしちから 志濃原亜美・三好 力
ナンバリングコード	0000000	授業形態	実習		

授業の内容	施設実習を通して、施設の役割や機能、日々の生活の展開、利用者の理解と関係の形成、保育者としての職務内容等について実際的に学習する。 保育士証を取得するため、保育実習（必修）の中に施設実習を行なうことが定められており、保育に関する講義や演習で学んできた内容を児童福祉施設、知的障害者施設等で実践するものである。
到達目標	１．居住型及び通所型児童福祉施設等の利用者の生活が理解できている。 ２．居住型及び通所型児童福祉施設等の保育士の役割について理解できている。 ３．居住型及び通所型児童福祉施設等の機能が理解できている。

授業計画		
	第１回	実習施設の目的・機能の理解①（一日の生活の理解）
	第２回	実習施設の目的・機能の理解②（利用児・者についての理解）
	第３回	実習施設の人的・物的環境の理解①　（施設職員の役割・協働について）
	第４回	実習施設の人的・物的環境の理解②　（施設の物的環境について）
	第５回	施設の利用者の生活実態の把握と援助技術の習得①（利用者の生活実態の把握）
	第６回	施設の利用者の生活実態の把握と援助技術の習得②（利用者への援助）
	第７回	施設の利用者の生活実態の把握と援助技術の習得③（利用者への援助のための間接業務）
	第８回	保育士の職務内容・役割・他職種との連携の理解①（施設で働く保育士の役割）
	第９回	保育士の職務内容・役割・他職種との連携の理解②（保育士と他職種との連携）
	第 10 回	施設と地域・家庭・関係機関等との連携についての理解
	第 11 回	反省会・まとめ①
	第 12 回	実習施設の役割
	第 13 回	実習施設の社会的機能
	第 14 回	これからの施設の在り方
	第 15 回	反省会・まとめ②

授業に対する予習・復習	予習：毎日提出する実習日誌の目標を考える	復習：日々の実習の記録及び反省
	予習に要する学習時間：概ね　１０分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね　６０分を目安とする。**

課題へのフィードバック	実習施設からの評価伝達のための面談を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　実習（　80%）、レポート・課題（　10%）、書類作成等（　10%）
教科書	『保育福祉小六法 2018 年版』（保育福祉小六法編集委員会編、みらい）
参考文献	施設種別毎の「実習園資料」（本学実習資料室のもの）等を、数多く参照すること。
注意事項	「福祉施設実習研究」で履修した内容を理解して実践すると同時に、施設の指導を受け、実習生としてふさわしい言動がとれるように、十分に留意すること。 　また、実習関係報告書類の提出遅延、実習中の怠惰、非行等があった場合は、本学の「実習派遣規制基準」によって、実習の停止、中止等が行なわれる場合があり、保育士証取得ができないことになるので注意すること。

科目名	保育所実習Ⅱ	単位数	2	担当教員	まるはしさとみ　おぐち　すぐる 丸橋聡美・小口　偉
ナンバリングコード	0000000	授業形態	実習		

授業の内容	保育士証取得を目的とする保育実習は、保育に関する講義や演習で学んできた内容を保育所及び保育所以外の児童福祉施設等で実践するものである。保育所実習のうち後期実習が保育所実習Ⅱとなる。
到達目標	1．保育所保育の実際を体験し、子ども理解、関わりの視点を身につけている。 2．指導計画の作成・実践など保育士としての資質・能力・技術を身につけている。 3．保護者支援、地域の子育て家庭への支援について理解している。 4．保育の理論と技能を総合的に体験し実践できている。

授業計画		
	第1回	保育所の社会的役割と責任を学ぶ
	第2回	養護と教育が一体となって行なわれる保育を学ぶ
	第3回	子どもの心身の状態や活動の観察をする
	第4回	保育士等の動きや実践の観察をする
	第5回	保育所の生活の流れや展開の把握を学ぶ
	第6回	環境を通して行なう保育、生活や遊びを通して総合的に行なう保育を理解する
	第7回	入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援を学ぶ
	第8回	地域社会との連携を学ぶ
	第9回	保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程を理解する
	第10回	作成した指導計画に基づく保育実践と評価を行なう
	第11回	多様な保育の展開と保育士としての業務、職業倫理を理解する
	第12回	保育士としての自己の課題を明確化する
	第13回	
	第14回	
	第15回	

授業に対する予習・復習		
	予習：保育所実習Ⅰ後に自身を振り返り、保育所実習Ⅱまでに自己課題の達成に努める。	復習：保育者に必要な保育技術の習得に励むこと。子どもを理解するための発達など知識やかかわり体験を増やすこと。
	予習に要する学習時間：概ね　　分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね　　分を目安とする。**

課題へのフィードバック	評価面談を実施する。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　実習課題（20%）、実習日誌（30%）、施設による評価（50%）
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）、『保育所保育指針』・解説書 『幼稚園・保育所・施設実習　～子どもの育ちと安全を守る保育者を目指して～（仮題）』（茗井編著、大学図書出版）
参考文献	なし
注意事項	「保育所実習研究Ⅱ」で履修した内容を実践すると同時に、実習先の指導を受け、実習生としてふさわしい言動がとれるように、日常生活において十分に留意すること。また、実習関係報告書類の提出遅延、実習中の怠惰、非行等があった場合は、本学の「実習派遣規制」によって、実習の停止、中止等が行なわれる場合があり、保育士証取得が出来ないことになるので厳重に注意すること。

科目名	保育所実習研究Ⅰ	単位数	1	担当教員	おぐち すぐる 小口 偉 他
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	この保育所実習研究Ⅰは、保育所実習に平行して行われる授業であり、実習の目的、実習施設の機能、保育者の職務内容や、実習手続書類の作成について学習し、実習参加意識の高揚、各自の実習課題と事後の学習目標を立てる等、保育所実習の意義を高めるものである。
到達目標	1．保育所実習の意義・目的・内容を理解している。 2．実習の計画、実践、観察、評価の方法について学び、実践できている。 3．自らの課題を明確にし、取り組むことができている。 4．事後指導において、実習の統括と自己評価を行い、新たな課題と目標を明確にし実行できている。

授業計画		
	第1回	保育実習、保育所実習について
	第2回	保育所実習の目的理解
	第3回	前期実習の目的（参加、観察実習）
	第4回	前期実習参加の心得
	第5回	実習手続き書類の作成指導（配当資料）
	第6回	実習手続き書類の作成指導（調査書）
	第7回	オリエンテーションについて
	第8回	持ち物、身だしなみについて
	第9回	保育園の一日の流れ、実習中の注意事項
	第10回	参加、観察実習の留意点
	第11回	実習日誌の作成指導
	第12回	実習日誌の作成
	第13回	実習課題と準備の説明
	第14回	部分実習指導計画案について
	第15回	実習の総括と自己評価

授業に対する予習・復習		
	予習:実習で必要とされる保育の知識や保育技術を学び、習得に励む。ボランティア活動などの実践の中で子どもとのかかわり体験をするように努める。課題を行う。	復習：保育所実習Ⅰを振り返り、自己課題を明確にする。課題を行う。
	予習に要する学習時間：概ね　40分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね　20分を目安とする。**

課題へのフィードバック	課題に対して、添削を行なう。学生の学習進度に応じて個別指導を行う。 評価面談を実施する。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（60%）、授業態度（30%）、諸手続き（10%）
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）、『保育所保育指針』・解説書 『幼稚園・保育所・施設実習　～子どもの育ちと安全を守る保育者を目指して～（仮題）』（茗井編著、大学図書出版）
参考文献	なし
注意事項	各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、授業態度の怠惰等は、「実習派遣規制」によって禁じられており、実習派遣ができなくなるので十分に留意すること。

科目名	保育所実習研究Ⅱ	単位数	1	担当教員	まるはしさと み 丸橋聡美　他
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	この保育所実習研究Ⅱは、保育所実習に並行して行われる授業であり、実習の目的、実習施設の機能、保育者の職務内容や、実習手続書類の作成について学習し、実習参加意識の高揚、各自の実習課題と事後の学習目標を立てる等、保育実習の意義を高めるものである。
到達目標	１．保育所実習の意義、目的を総合的に理解している。 ２．保育の全体的計画に基づく具体的な計画や保育実践力を身につけている。 ３．保育士の専門性と職業倫理を理解している。 ４．保育に対する課題や認識を明確にしている。

授業計画		
	第１回	後期実習の目的（参加、責任指導実習）
	第２回	後期実習参加の心得
	第３回	部分、責任指導実習の留意点
	第４回	実習日誌の作成指導
	第５回	実習日誌の作成（乳児クラス）
	第６回	実習日誌の作成（幼児クラス）
	第７回	指導計画案の作成指導
	第８回	指導計画案の作成（乳児クラス）
	第９回	指導計画案の作成（3 歳児クラス）
	第 10 回	指導計画案の作成（4・5 歳児クラス・異年齢児保育）
	第 11 回	実習課題と準備の説明・作成
	第 12 回	オリエンテーション報告書、実習報告書の作成
	第 13 回	実習の総括①実習の振り返り・自己評価
	第 14 回	実習の総括②グループワーク
	第 15 回	実習の総括③自己課題の明確化

授業に対する予習・復習		
	予習：保育所実習Ⅰを振り返り、次の実習で必要とされる保育の知識や保育技術を学び、習得に努める。	復習：自己課題を明確にし、達成できるよう努力する。
	予習に要する学習時間：概ね　40 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね　20 分を目安とする。**

課題へのフィードバック	課題に対して、添削を行なう。学生の学習進度に応じて個別指導を行う。 評価面談を実施する。
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（　）しない 成績評価の方法：　課題・レポート（60%）、授業態度（30%）、諸手続き（10%）
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）、『保育所保育指針』 『幼稚園・保育所・施設実習　～子どもの育ちと安全を守る保育者を目指して～（仮題）』（茗井編著、大学図書出版）
参考文献	なし
注意事項	各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、授業態度の怠惰等は、「実習派遣規制」によって禁じられており、実習派遣ができなくなるので十分に留意すること。

科目名	福祉施設実習研究	単位数	1	担当教員	しのはらあみ　みよしちから 志濃原亜美・三好 力
ナンバリングコード	0000000	授業形態	演習		

授業の内容	この授業は、施設実習の前後に行なわれるものである。事前授業では実習の目的、実習施設の機能、保育者の職務内容、および実習手続き書類の作成等について学習し、実習心得を身に付け、実習参加意欲の高揚を図るとともに、各自の実習課題を確立する。 実習後授業は、実習報告会の参加、実習報告書と実習アンケートの作成等を通して、自己の適性を見直し、保育者としての使命感や人権意識等を考え今後の学習課題を設定する。
到達目標	１．実習施設について理解を深めることができている ２．実習課題が設定できている ３．自己の適性を知ることができている

授業計画

第１回	オリエンテーション（履修上の諸注意）	第 16 回	提出書類の説明・確認
第２回	施設実習の意義の理解	第 17 回	実習報告書作成（前半）
第３回	実習施設の配当発表及び各実習施設の理解	第 18 回	実習報告書作成（後半）
第４回	居住型福祉施設の生活実態を知る（乳児院）	第 19 回	実習日誌提出と確認
第５回	実習生調書の作成	第 20 回	実習評価と反省（個別面談）
第６回	居住型福祉施設の生活実態を知る（児童養護施設）	第 21 回	実習評価と反省（個別面談）
第７回	居住型福祉施設の生活実態を知る（障害児関連施設）	第 22 回	実習評価と反省（個別面談）
第８回	居住型福祉施設の生活実態を知る（障害者関連施設）	第 23 回	実習評価と反省（個別面談）
第９回	各施設への実習前訪問	第 24 回	実習ポスター発表作成
第 10 回	外部講師の話	第 25 回	実習ポスター発表作成
第 11 回	実習の日誌の書き方	第 26 回	実習ポスター発表作成
第 12 回	実習の各種手続き	第 27 回	実習報告会への参加
第 13 回	施設実習の内容	第 28 回	実習日誌返却と講評
第 14 回	実習に向けての心構え	第 29 回	今後の学習課題について
第 15 回	最終確認	第 30 回	まとめと課題

授業に対する予習・復習	予習：当日の授業内容について教科書等で確認し、準備をする	復習：復習シートを配布する 感動文等、その都度指示する
	予習に要する学習時間：概ね　20 分を目安とする。	**復習に要する学習時間：概ね　60 分を目安とする。**
課題へのフィードバック	実習の評価面談、及び反省を通して、フィードバックする	
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　、課題（　30%）、レポート（　20%）、授業態度（　50%）	
教科書	『保育実習（仮題）』（福田真奈著者、大学図書出版）	
参考文献	『保育福祉小六法 2018 年版』（保育福祉小六法編集委員会編、みらい）	
注意事項	各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、非行・怠惰等は、「実習派遣規制基準」によって禁じられているので十分に留意すること。 ◎派遣施設が決まったら、自主的にその施設機能や利用者について予備学習を行うこと。	